

之レヲ正確ニ診定シ得ルノ機會甚ダ少ナキヲ以テ、双胎ノ診断ハ甚ダ困難ナルト最モ多シトス。

腹部異常ニ大ニシテ、月數ニ適應セズ、且ツ子宮ノ中部ニ凹溝ヲ呈シ

兩個ノ胎兒ヲ有スルガ如キモ、未ダ双胎ノ確徵トナスコト能ハズ、何トナ

レバ、羊膜水腫若クハ過大ナル胎兒ニ於テ、常ニ此ノ如キコトアル可ケレ

バナリ

兩兒ノ體部ヲ明瞭ニ觸知スルハ、羊水過多ナラズ、腹壁厚ニ失セザル

際ニ於テ之レアリ、殊ニ兩兒並列シ、反對セル部分ニ兩兒頭ヲ觸ル、ノ

際ヲ以テ明確ナリトス、若シ兩兒前後ニ重積スルトキハ、到底之レヲ診

知スルコト能ハズ。

兩個ノ心音ヲ聽取ストハ、遠隔セル兩部ニ、心音ヲ聽キ、其中間ニハ全

ク心音ヲ聽取ス可ラザルノ一部ヲ存スルノ場合ヲ云フ、而シテ各心音

其數ニ相異アルトキハ、二人ヲ以テ同時ニ聽取スレバ、之ヲ證明スルコ

トヲ得可シ、但シ羊水多量ナルカ、一兒背後方ニ向フカ、又ハ胎盤ヲ以テ

掩ハル、カ、若クハ一兒死胎兒ナルトキハ、兩兒ノ心音ヲ聽取ス可ラス。

内診ニヨリテ双胎ヲ診知ス可キハ、分娩中ニ在リトス、即チ腹部ニ於

テ心音ヲ聽取ス可キノ際、内診ニヨリ、軟化セル胎兒ノ先進セルヲ知ル

カ、若クハ臍帶脫ノ搏動ナキモノヲ觸ル、カ、又ハ同名ノ手若クハ足、二

個ヲ觸知スルカ、或ハ兩個ノ兒頭ヲ診定スルニ在リトス。

一兒既ニ分娩セルモノニアリテハ、子宮尙ホ異常ニ大ナルト、内診上、

更ニ一兒ノ存スルヲ診知ス可シ、

〔第二一〇項〕三胎若クハ四胎ノ診断 此等ノ診断ハ、分娩前ニ於テ、之レヲ覺ミ能ハザルヲ以テ常トナス。

第四十三章 妊婦ノ攝生法

〔第二一一項〕妊婦ノ攝生法 ニ就キ注意ス可キ事項ハ、飲食物、業務、起臥、運動、精神上ノ感動、衣服、身體ノ清潔法、乳房及ビ陰部ノ處置、妊娠性症、狀ノ取扱法等トナス。

【第一一七項】**飲食物** ハ平常ノ習慣ニ從ヒ、從來飲食セルモノハ適度ニ之レヲ用ユルトキハ、敢テ害アルコトナシ、但シ、必ず常度ヲ誤マルトナカラシメ、過熱ノ飲食品、強烈ノ香料ハ之レヲ誠メンコトヲ要ス。又、妊娠ノ末期ニ至ラバ、一回ノ食量ヲ少ナカラシメ、數回、食ニ就カシムルヲ以テ佳トナスコトアリ。殊ニ晚餐ヲ然リトナス。妊娠性嗜好品ハ、其害アルモノニ限リ之レヲ禁止ス可シ。

【第一一八項】**業務** モ亦從來ノ習慣ニ隨ヒ、平時ノ如ク之レヲ營マシム可シ。唯、必ず過劇ナルヲ避ク可シ。勞力ノ如キモ、平常慣レタル者ハ、敢テ之レヲ廢スルヲ要セズ。却テ體力ヲ強壯ナラシメ、分娩、產褥ヲ佳良ザラシムルノ益アリ。然レドモ亦、必ず慎重ニシテ、粗暴ナルコトアル可カラス。否ラサレハ、爲メニ、出血、流産等ヲ惹キ起スニ至ル可シ。特ニ最初四ケ月間ハ、最モ害ヲ醸シ易キガ故ニ、大ニ注意センコトヲ要ス。

【第一一九項】**運動** ハ靜居スル。妊娠ニ在リテハ、必ず特ニ之レヲ營ム可シ。自體及ビ胎兒ニ益アリ。但シ、舞蹈、飛躍、不平坦ナル道路ノ車行、

長途ノ鐵道旅行等ハ之レヲ戒シ、メノコトヲ要ス。然ラザレバ、過劇ナル業務ト異ナルコトナク、危害ヲ生ズルニ至ル可シ。乘船ハ、船暈ヲ發シ甚ダシキ嘔吐ヲ催ス可キモノハ、流産又ハ早産ヲ發スルノ恐レアルガ故ニ之レヲ誠メンコトヲ要ス。

【第一二〇項】**起臥** ハ可及的規律ヲ正シクシテ、遅ク寢テ、睡眠不足ナルガ如キコトアル可ラズ。而シテ、起臥ノ間、常ニ心意ヲ平靜ナラシメンコトヲ要ス。

【第一二一項】**精神上ノ感動** 即チ恐怖、驚愕、悲哀、憤怒、嫌惡、劇度ノ喜悅等ハ可及的之レヲ避ケンコトヲ務ム可シ。故ニ感動ス可キ演劇、小説、談話等ヲ見聞スルコトヲ戒メザル可ラズ。殊ニ、難産、病床等ニ侍スルコトヲ禁ズルヲ要ス。多クノ妊娠ハ、妊娠ノ末期ニ至レバ、甚ダ悲哀ニ沈ミ、易ク、目ツ分婉ノ難キヲ恐ル、ガ如キコトアルモノナルガ故ニ、産婆ハ、己レノ態度ヲ平靜ニシ、温言ヲ以テ之レヲ慰諭ス可シ。

【第一二二項】**衣服** ハ甚ダシク身體ヲ緊縛スルモノヲ用ユ可ラズ。

腹帯ハ妊娠ノ後半期ニ於テ、適度ニ之レヲ用ユルヲ良トス。是レ腹壁ノ甚
ガシキ弛緩ヲ防ギ、胎兒ノ變位ヲ豫防シ、兼テ妊婦ノ運動ヲ容易ナラシ
ムルノ益アリ。

〔第八項〕身體ノ清潔法

ハ殊ニ注意シ、毎日一回、適宜ニ温浴
ニ入ラシムルヲ良トス。而シテ其温度ハ、凡ソ攝氏三十八度(華氏凡ソ百度)ナ
ル可シ。但シ、日本人ハ一般ニ高温度ノ浴ヲ習慣セルガ故ニ、凡ソ四十二
度ニ至ル迄、其温度ヲ高ムルヲ得ベキモ、長時間、高温度ノ浴ニ入ル時ハ、子
宮ノ収縮ヲ喚起スルノ害アルニヨリ、注意セン。トテ要ス。虚弱ナル妊婦ニ
アリテハ、浴後一時間、安静ナラシムルヲ佳トス。坐浴、脚浴、冷水浴、又ハ頻回
ノ温浴ハ、妊婦ヲシテ之レヲ取ラシム可ラズ。否ラザレバ、流産又ハ早産ヲ
致ス可シ。

陰部ハ分泌增多スルガ故ニ、温湯ヲ以テ一日數回、外陰部ヲ洗滌ス可シ。外
陰部若シ多量ノ分泌ヲ現ハストキハ、冷水ヲ用キテ洗滌スレバ効アリ。

〔第二一九項〕腔内ノ洗滌

腔内モ亦、過多ノ帶下アルキハ、イルリ

ガートルヲ用キ、一%微温石炭酸水ヲ以テ洗滌セシムルヲ良トス。但シ高
度ノ温熱ヲ避ケ、高壓ヲ用ユルコトナク(イルリガートル凡ソ二尺ノ高サ
ニ懸ク)且ツ、腔内、尿管ヲ送入スルコト深キニ失セザルヲ要ス。

〔第二二〇項〕交接

ハ稀レニ且ツ温和ニ之レヲ營マシム可シ。殊ニ
第八週乃至第十六週ノ間ハ注意セシメン事ヲ要ス。否ラザレバ、流産ヲ致
スコトアリ。又、流産ノ癖アル婦人ニ在リテハ、最モ交接ヲ慎重ナラシム可
キモノトス。

〔第二二二項〕乳房

ハ温暖ニ保チ、衣服ノ壓迫ヲ避ケシメ、乳頭ハ每
日二三回、冷水ヲ以テ洗ヒ指ヲ用キ、注意シテ屢々之レヲ牽引シ、且ツ時々
酒精ヲ塗布ス可シ。此ノ如クスルトキハ、乳頭ノ形状ヲ佳良ニシ、其皮膚ヲ
強固ナラシムルノ効アリ。

〔第二二三項〕妊娠性症狀ノ中

便秘アラバ務メテ室外ノ運動ヲ
營マシメ、熱シタル藥物又ハ煮タル藥物ヲ食セシメ、寢時及ビ早朝、其他、一
日數回、時間ヲ定メテ、清水若クハ温湯ヲ飲用セシムルヲ要ス。此ノ如クス

ルモ尚ホ便通不良ナルトキハ、日々温石礮液ノ灌腸ヲ行ヒ、又ハ醫師ノ診察ヲ請ヒ、緩和ノ下劑ヲ服セシム可シ。

嘔吐アル者ニハ、消化シ易キ食物ヲ少量ニ與ヘ、數回食ニ就カシムルヲ以テ可トナスコアリ。早朝ノ嘔吐ニハ、牛乳等ノ滋養物ヲ樽中ニ飲用セシメ、一時間ヲ經テ起床セシムルヲ良トス。

此他總テノ妊娠性症狀ハ醫療ニ就カシムルヲ要ス。

第三篇 正規分娩及び其取扱法

第四十四章 誘導編

〔第一二二二項〕此三篇ニ於テハ、分娩トハ如何ナルモノナルヤヲ説キ、正規ノ分娩ニ就キテ、其狀況ヲ論シ、次ニ分娩ヲ處置スルニハ如何ノ方法ト、何等ノ必要アルカヲ述べ、且ツ講習ノ便ヲ謀リ、不正規即チ異常ナル縦位ノ分娩ニ就キ、其分娩ノ狀況ト、緊要ナル處置方法ヲ記シ、終リニ、分娩中ニ於ケル胎兒生死ノ徵候、其他ヲ説カント欲ス。

第四十五章 分娩及び其區別

〔第一二二四項〕分娩 トハ胎兒、其附屬物ト共ニ、産出力ニヨリテ母體ヲ離ル、ヲ云フ。

〔第一二二五項〕分娩ノ區別 分娩ニ、正規分娩ト異常分娩トノ二アリ。正規分娩トハ人工ノ助ケヲ要セズシテ、平易ニ産出スルヲ云ヒ、異常分

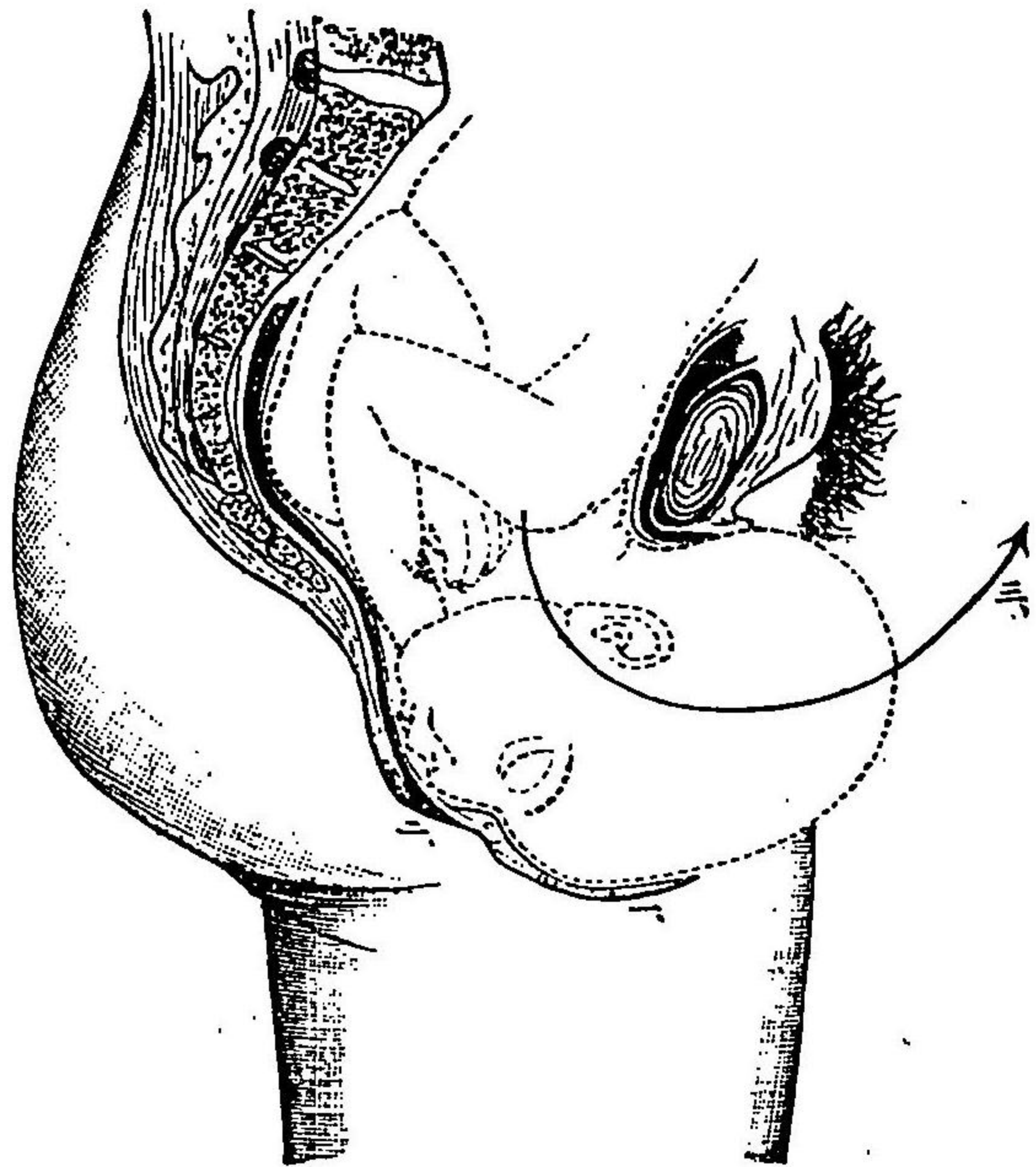
婦トハ、母體又ハ兒體ニ危險ヲ生ズルノ恐レアルカ、又ハ到底危險ヲ免ル
 ト、コト能ハズシテ、人工ノ助けヲ要スルモノヲ云フ、或ハ又、正規分娩ヲ自
 然分娩ト稱シ、異常分娩ニシテ、人工ヲ要スルモノヲ人工分娩ト唱フ。
 又、分娩ノ時期ニ關シ、定期産、流産、早産、遲産ノ別アリ、定期産トハ、四十週ヲ
 經テ産出スルモノ、流産トハ、二十八週以前ニ産出シテ、小兒ノ生活シ得ザ
 ルモノ、早産トハ、二十八週以後、三十八週迄ノ分娩ニシテ、小兒ハ生活ヲ營
 ミ得ベキモノ、遲産トハ、四十週以上ヲ經テ産出スルモノヲ云フ。

「第二二六項」分娩ノ正規ニ營マル、ハ、
 産道、産出力及ヒ胎
 兒位置ノ三者、共ニ正規ナルニヨル、若シ、此三者不正規ナルトキハ、異常ノ
 分娩ヲ致ス可シ、次章ニ於テハ、順次ニ此三者ヲ説明セント欲ス。

第四十六章 産道

「第二二七項」産道 ハ之レヲ分テテ、骨部産道及ビ軟部産道ノ二ト
 ナス。骨部産道ハ即チ骨盤ヲ云フ、而シテ小兒ヲ通ズルノ管ナルガ故ニ、或

第六 軟部産道延長シ其方向前ト方ニ向フヲ示ス圖



- 一、前下方ニ延長セル會陰
- 二、肛門
- 三、誘導線ニシテ兒頭産出ノ方向ヲ示ス

ハ之レヲ骨盤管ト稱ス。
 軟部産道ハ即チ骨部産道ノ内部ニ位スルモノニシテ、子宮頸管、子宮口、腔

及ビ外陰部是レナリ。

〔第一二八項〕軟部産道ノ方向 分娩ノ際ハ會陰ノ前下方(起立ノ位置ニ就キテ之レヲ云フ)ニ延張スルガ爲メニ軟部産道ノ下端ハ全ク前方ニ向ヒ其方向ハ骨盤誘導線ノ方向ニ從ヒ前上方ニ赴クモノトス。此故ニ分娩ノ際之レヲ處置スルニハ常ニ胎兒ヲ此方向ニ導クヲ要ス。然ラザレバ娩出セシムルコト難ク且ツ會陰ヲ破裂セシムルニ至ルモノナリ。

第四十七章 産出力

〔第一二九項〕産出力 ハ更ニ之レヲ分チテ三トナス「甲」子宮ノ收縮力即チ陣痛「乙」腹壓「丙」腔壁ノ收縮力是ナリ。

〔第一三〇項〕甲陣痛 ハ疼痛ヲ伴ヘル子宮ノ收縮ニシテ産出力中其最も主要ナルモノトス。陣痛發スルノ際手ヲ腹上ニ貼スレバ明カニ子宮ノ收縮シ硬固トナレルヲ觸知ス可シ。此陣痛ハ固ヨリ隨意ニ生ゼシム可キモノニアラザレドモ精神ノ感動ニヨリ時トシテハ其強サヲ變ゼシ

ムルイアリ。又陣痛ハ温熱摩擦等ノ刺戟ヲ子宮ニ施コシ若クハ醫藥ヲ用ユルトキハ之レヲ催起セシムルヲ得ルモノトス。

陣痛ノ三期及ビ其休歇時 陣痛ニ三期アリ進行期極期及ビ退

行期ト云フ。進行期トハ子宮ノ收縮漸次ニ増進スルノ期ニシテ極期トハ其收縮極度ニ達シ少時稽留スルノ期ヲ云ヒ退行期トハ爾後子宮ノ收縮再ビ弛緩スルノ時期是レナリ。此三期ヲ合スレバ一陣痛ノ長サハ六十秒ヨリ百秒ニ至ル。一陣痛經過スレバ暫時間休止ス。之レヲ陣痛休歇時或ハ陣痛間時ト稱ス。

分娩痛 トハ陣痛ト胎兒ノ産道ヲ擴張シ通過スルノ際ニ發スル疼痛トヲ併セテ名ケタルモノナリ。此故ニ分娩痛ハ兒頭ノ外陰部ヲ出ツ

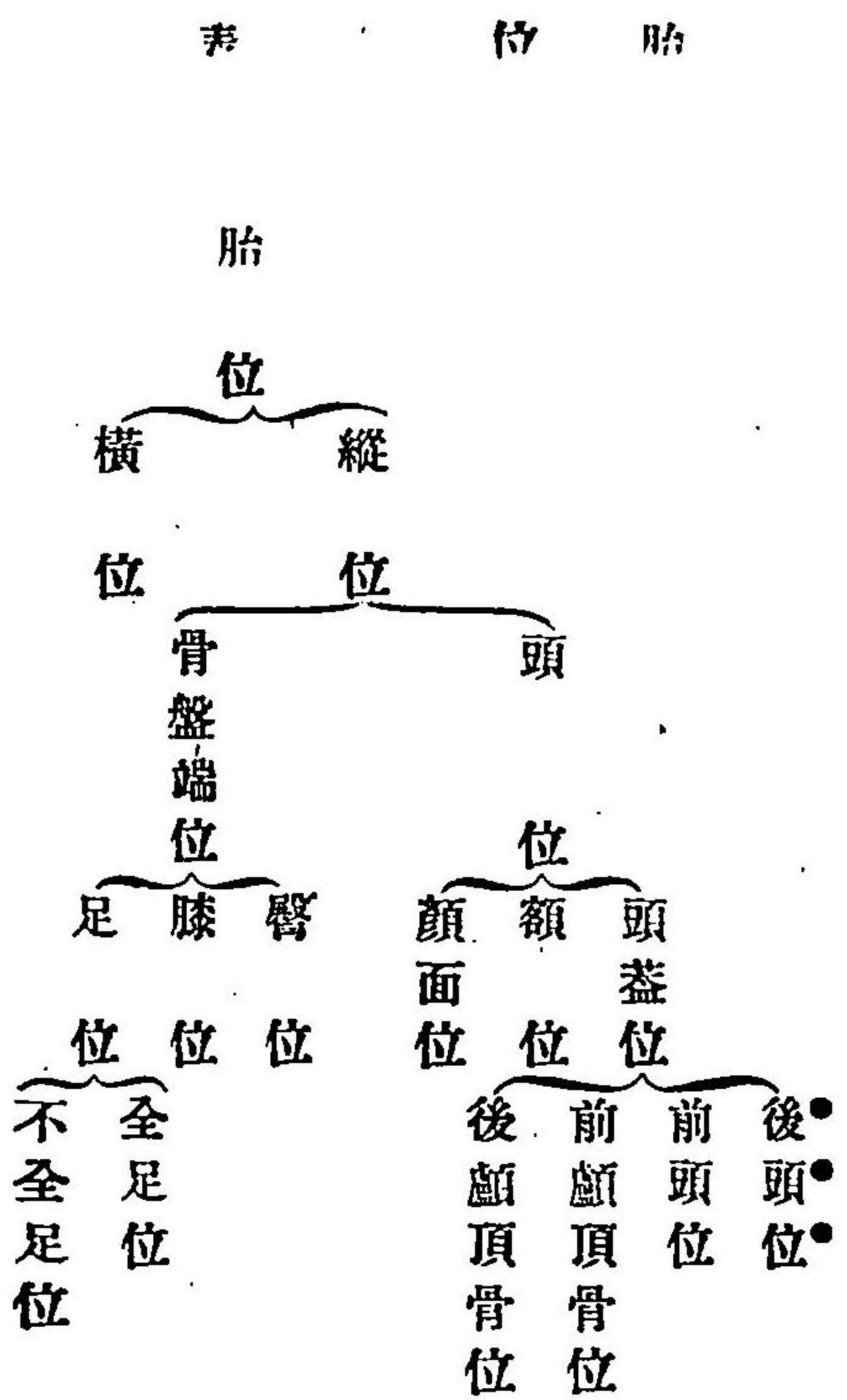
ルノ際ニ當リ最モ強劇ナルモノナリ。分娩痛ハ陣痛ト同一視ス可ラス。〔第一三二項〕乙腹壓 トハ呼吸ヲ停止シ手足ヲ固定シ腹壁及ヒ横膈膜ヲ收縮セシメ腹腔ヲ狭少ニシ以テ腹腔ノ内容物ヲ下方ニ壓出スルノ作用ニシテ分娩ノ際産出期ニ於テハ甚ダ緊要ナルモノナリ。此腹壓ハ

固ト隨意ニ營ムコトヲ得ベキモノナレドモ、小兒ノ將ニ産出セントスルノ際ハ、不隨意ニ反射作用ヲ以テ發起シ、自ラ制スルコト能ハザルモノナセルノ際、其餘ノ一部ヲ壓出セントスルノ作用ヲナスモノナリ、是レ敢テ緊要ナルモノニアラズ。

第四十八章 胎兒ノ位置即チ胎位

「第二三三項」胎位ノ區別 胎兒ノ位置ヲ大別シテ、縦位及ビ横位ノ二トナス、而シテ縦位ハ、其先進部ノ異ナルニ從ヒ、更ニ小別シテ頭位ト骨盤端位トニ別チ、頭位ハ又タ頭蓋位、額位及ビ顔面位ニ區別シ、頭蓋位ノ中ニハ、更ニ後頭位、前頭位、又ハ前顛頂位ト云フ、前顛頂骨位、後顛頂骨位アリ、骨盤端位ハ臀位、膝位及ビ足位ニ分チ、且ツ足位ニハ全足位及ビ不全足位ノ別アリ、此各胎位ニ就キ、頭位中ノ一種ナル後頭位ハ最モ多數ニシテ、

日ツ全ク正規ナルモノナリ、其他、顔面位、足位等ハ既ニ不正規ニ屬シ、横位ニ至リテハ全ク病理的ナルモノトス、以上ノ胎位ヲ表示スレバ即チ次ノ如シ。



「第二三三項」各胎位ノ利害 胎兒ハ縦位ニヨリテ、ノミ産出スルヲ得ベシ、横位ナルトキハ、通例、産出スルコト能ハズ、且ツ之レヲ放置シテ

速カニ治方ヲ施コスヲナケレバ、小兒ハ固ヨリ論ナク、母體モ亦生命ヲ失
 ウニ至ル。縦位中最モ安易ニシテ且ツ正規ナルハ後頭位ニシテ、前頭位
 之、一、次、ギ、顔面位ハ分娩頗ル難ク、額位、前後顛頂骨位等ニ至リテハ、最モ
 困難且ツ危険ナルモノトス。骨盤端位ハ、母體ニ於テハ敢テ甚ダ不良ナラ
 ヲレドモ、小兒ニハ頗ル不利ナリ。就中醫位ハ最モ佳良ニシテ、足位、膝位ハ
 共ニ之、一、次、グ、足位ノ中、不全足位一足ノミ先進セルモノハ全足位(兩足
 先進セルモノ)ヨリモ佳良ナリ。其他、此等ノ詳細ナル説明ハ、各胎位ノ條下
 ニ之レヲ論ズ可シ。

「第二三五項」各胎位ノ數 今、各位置ノ數ヲ舉グレバ、大畧次ノ

頭蓋位	凡ソ	九五%
顔面位	凡ソ	〇、五%
骨盤端位	凡ソ	三、一%
横位	凡ソ	〇、六%

「第二三六項」各胎位ノ區別 各位置ハ其兒背ノ向フ所ニヨリ、概

シテ四種ノ別アリ。今、頭蓋位ニ就キテ之レヲ數フレバ、次ノ如シ。但シ、其餘
 ノ胎位モ亦、大畧之レニ準ズ可シ。

- 第一頭蓋位 兒背、母體ノ左前方ニ向フモノ。
 - 第二頭蓋位 兒背、母體ノ右前方ニ向フモノ。
 - 第三頭蓋位 兒背、母體ノ右後方ニ向フモノ。
 - 第四頭蓋位 兒背、母體ノ左後方ニ向フモノ。
- 或ハ、以上、第一頭蓋位ヲ第一胎向第一分類トナシ、第二頭蓋位ヲ第二胎向
 第一分類ト稱シ、第三頭蓋位ヲ第二胎向第二分類ト名ケ、第四頭蓋位ヲ第
 三胎向第三分類ト唱フルモノアリ。

第四十九章 頭蓋位正規分娩ノ狀況

「第二三七項」分娩ノ經過 分娩ノ經過ヲ分ケテ次ノ三期トス。
 第一期開口期 ハ子宮口全ク開大シ、胎兒ヲ通過セシメ得ルニ至ルノ時

第二期産出期

期ニシテ、此期ノ終末ニハ胎水漏泄スルヲ常トス。
ハ子宮口全ク開大シ、胎水漏泄スルノ後チ、兒體ノ全ク産
出スルニ至ルノ時期ヲ云フ。

第三期後産期

ハ即チ、胎兒娩出後ヨリ、後産ノ全ク排出シ終ルノ時期ヲ
云フ。

此三期ハ、各分娩ニ普通ナルモノナルニヨリ、頭蓋位ニ於ケル經過ヲ知了
スレバ、他ハ自ラ之レヲ了解スルヲ得ベシ。次ニ第五十乃至五十二章ニ於
テ頭蓋位分娩ノ經過ヲ詳説セント欲ス。

第二三項各期ニ於ケル陣痛ノ名稱

開口期ニハ開口期

陣痛豫備陣痛産出期ニハ産出期陣痛及ビ震戰陣痛アリ、後産期ノ陣痛ハ
之レヲ後産期陣痛ト稱ス。又分娩前、妊娠ノ末月ニ於テ既ニ前陣痛ヲ現ハ
シ、分娩後、産褥中ニハ後陣痛アリ。

第五十章 第一期開口期

第二二九項開口期中ノ緊要ナル箇條

ヲ舉ゲ示セバ次ノ

如シ。此箇條ヲ記憶スレバ、開口期ノ順序ハ自ラ瞭然タルモノトス。即チ。

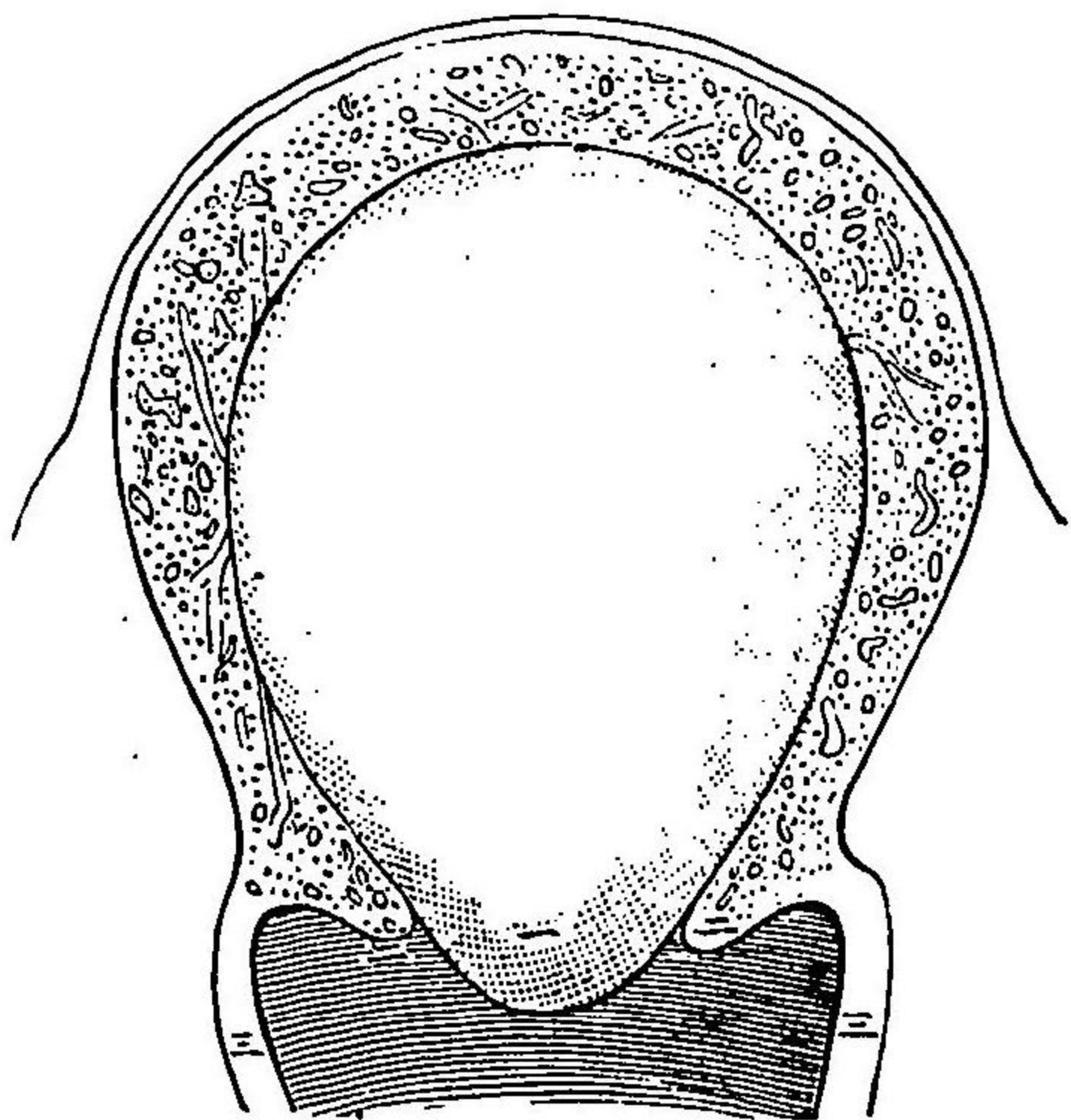
- 〔一〕前驅期
- 〔二〕陣痛漸次ニ増劇ス。
- 〔三〕胎胞ノ形成
- 〔四〕子宮口全ク開大ス。
- 〔五〕分泌物中、血液混入ス。
- 〔六〕胎胞緊張。
- 〔七〕胎胞破開シ、胎水流出スルコト、是レナリ。

第二四〇項開口期ノ順序

開口期ハ其最初即チ前驅期ニ於テ
ハ、數々子宮ノ收縮ヲ發シ、産婦ハ、薦骨ヨリ外陰部ニ波及スル緊迫ノ感覺
ト、下腹ノ緊張トヲ感ジ、知覺過敏ナル婦人ハ、既ニ疼痛ヲ訴フルモノナリ
又、此際、二便頻數ヲ感ジ、腔内ノ分泌增多ス可シ、此間ノ陣痛ヲ前陣痛ト名
ク、次ニ陣痛漸ク其度ヲ増シ、初メハ凡ソ十五分時、後ニハ凡ソ五分時ニシ
テ反復シ、卵膜ハ羊水ノ壓迫ニヨリ、子宮口ヨリ膨出セラレ、所謂胎胞卵胞
ヲ形成シ、以テ漸次ニ子宮頸管ヲ開大ス。此際、子宮口甚ダシク緊張シ、遂ニ
小裂傷ヲ生シ、爲メニ腔内ノ分泌物ニ血液ヲ混ス可シ。而シテ胎胞ハ、始陣

第六十八圖

胎形ヲ成ルル子宮ノ開口ヲ開カスルノ時



- 一、胎胞
- 二、子宮口
- 三、膈壁

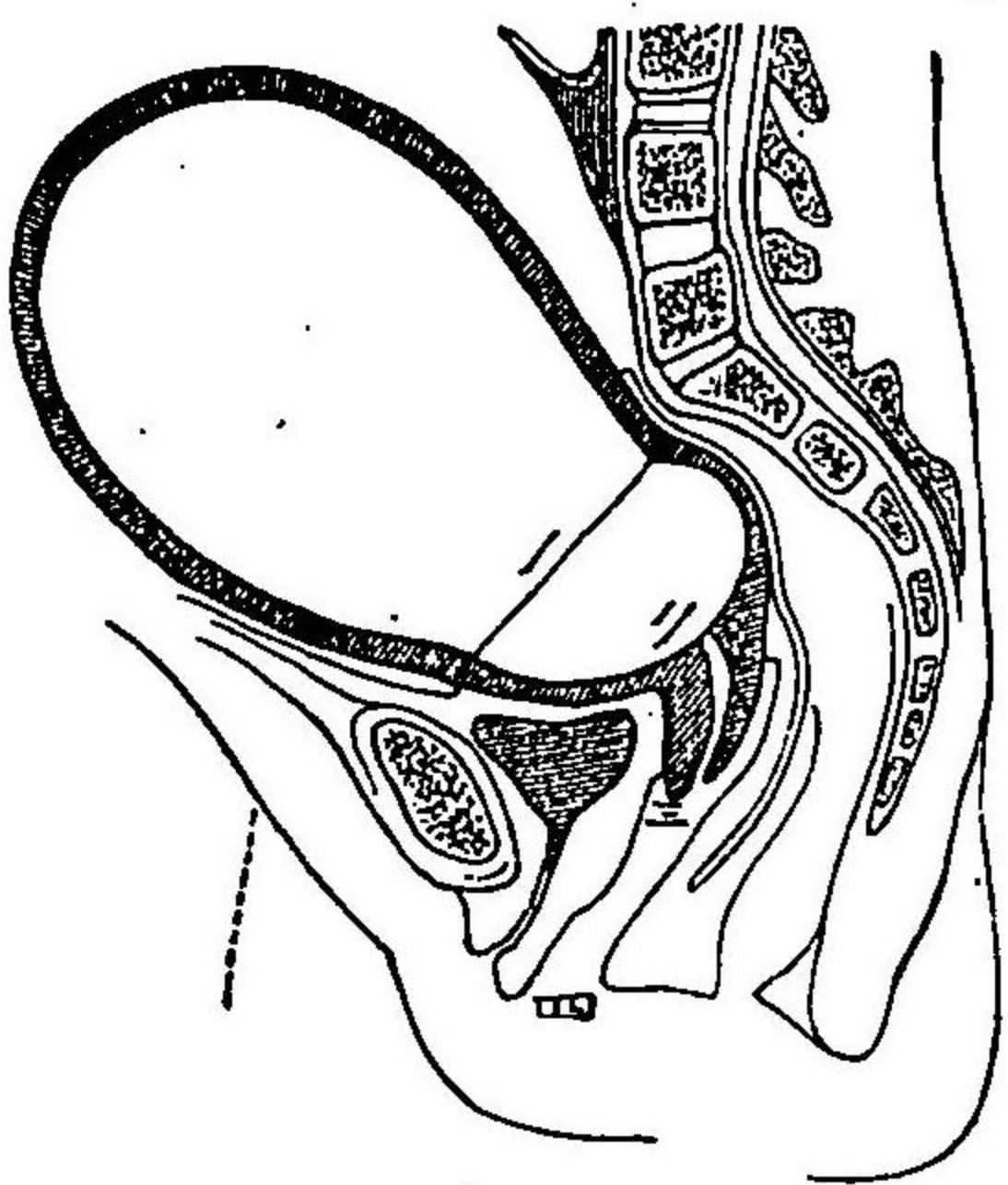
痛間時ニハ
弛緩スト雖
モ子宮口ノ
開ク一七乃
至十仙迷ニ
至レバ胎胞
ハ絶ズ緊張
シ遂ニ破裂
シ以テ羊水
ヲ泄ス之レ

ヲ破水ト稱シ此羊水ヲ前羊水(前胎水)ト云フ其量ハ八乃至十五瓦ナリ子宮口全ク開大スルトキハ十仙迷ノ大サヲ有シ腔ト一管ヲナス○開口期ノ陣痛ヲ開口期陣痛若クハ豫備陣痛ト稱ス。

「第二四一項」羊水漏泄ノ遅速及び其害 羊水ハ子宮口ノ全

第六十九圖

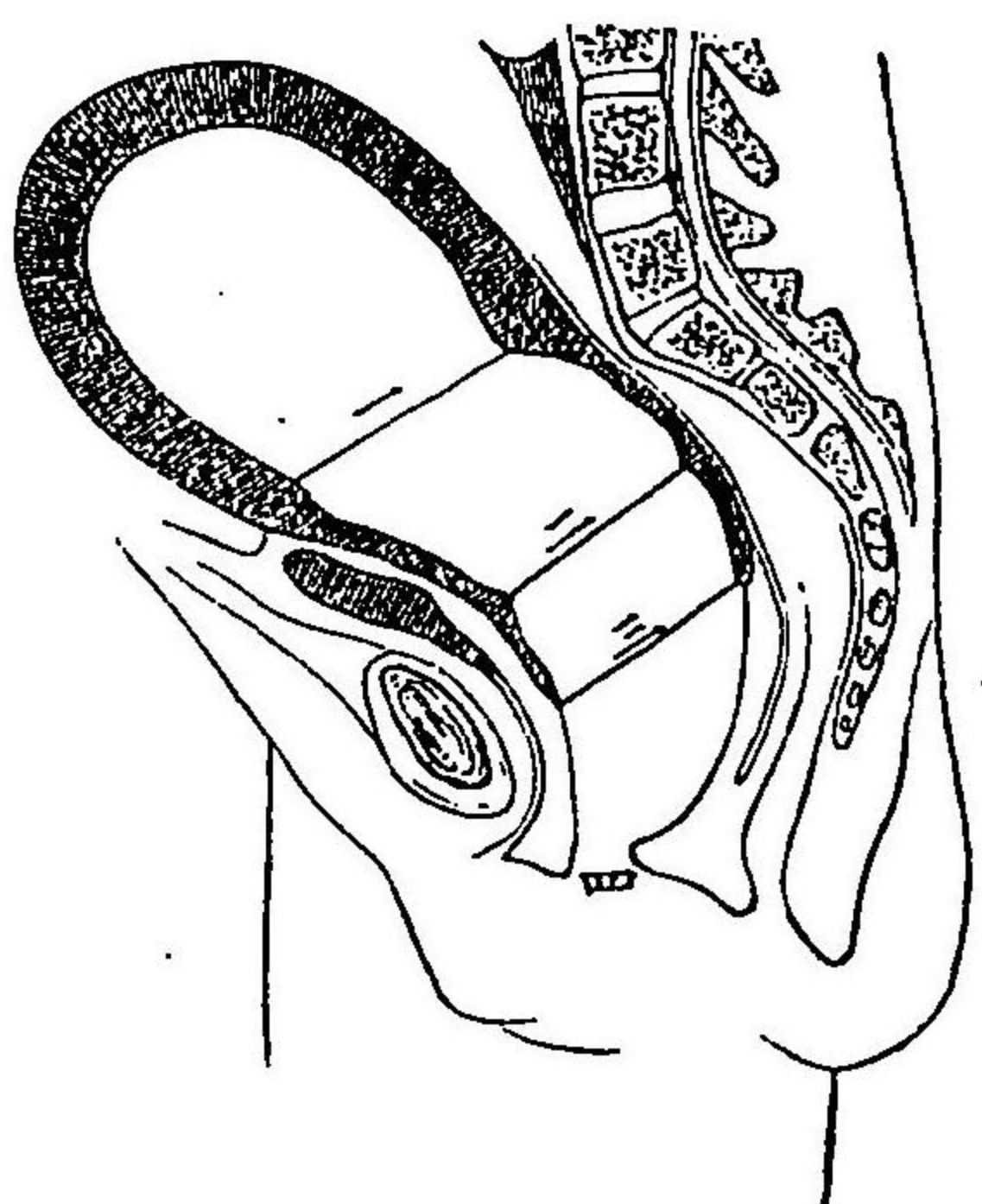
開大セザル妊娠子宮ノ頸管ヲ示ス圖



- 一、分娩時ニ延長ス可キ子宮下部ノ境界
- 二、子宮内口
- 三、子宮外口
- 四、腔口

ク開大スルニ先テ漏泄スルヲ多シトス而シテ子宮口尙ホ小ナルニ際シ既ニ漏泄スルヲ早期ノ羊水漏泄ト云フ若シ羊水ノ漏泄スルコト甚ダ早キトキハ子宮口ノ開クコト徐々ニシテ陣痛ハ強シト雖モ分娩ハ頗ル遅延スルモノナリ之レニ反シ胎胞ノ破裂スルコト遅ク甚ダシキハ胎兒尙ホ卵膜ノ中ニ在リテ産出セラレコトアリ此ノ如ク卵膜ノ破ルコ

子宮頸管
全ク開大
シテ嚙ト
一管ヲナ
スヲ示ス



一、分娩時ニ
延張ス可
キ子宮下
部ノ境界
二、子宮内口
三、子宮外口
四、陰口

ト遅キトキハ、亦分娩時間ヲ費ヤスガ故ニ人工ヲ以テ之レヲ破開スルヲ要ス。

第五十一章 第二期産出期

「第一四二項」産出期ノ緊要ナル箇條

一、兒頭、子宮口内ニ出デ、産瘤ヲ生ズ。二、兒頭、腔内ニ出デ、腹壓ヲ營ム。

「三」會陰延張膨出シ、肛門哆開ス。

「四」兒頭露出ス。

「五」震戦陣痛。

「六」兒頭産出ス。(兒頭ノ撥露)

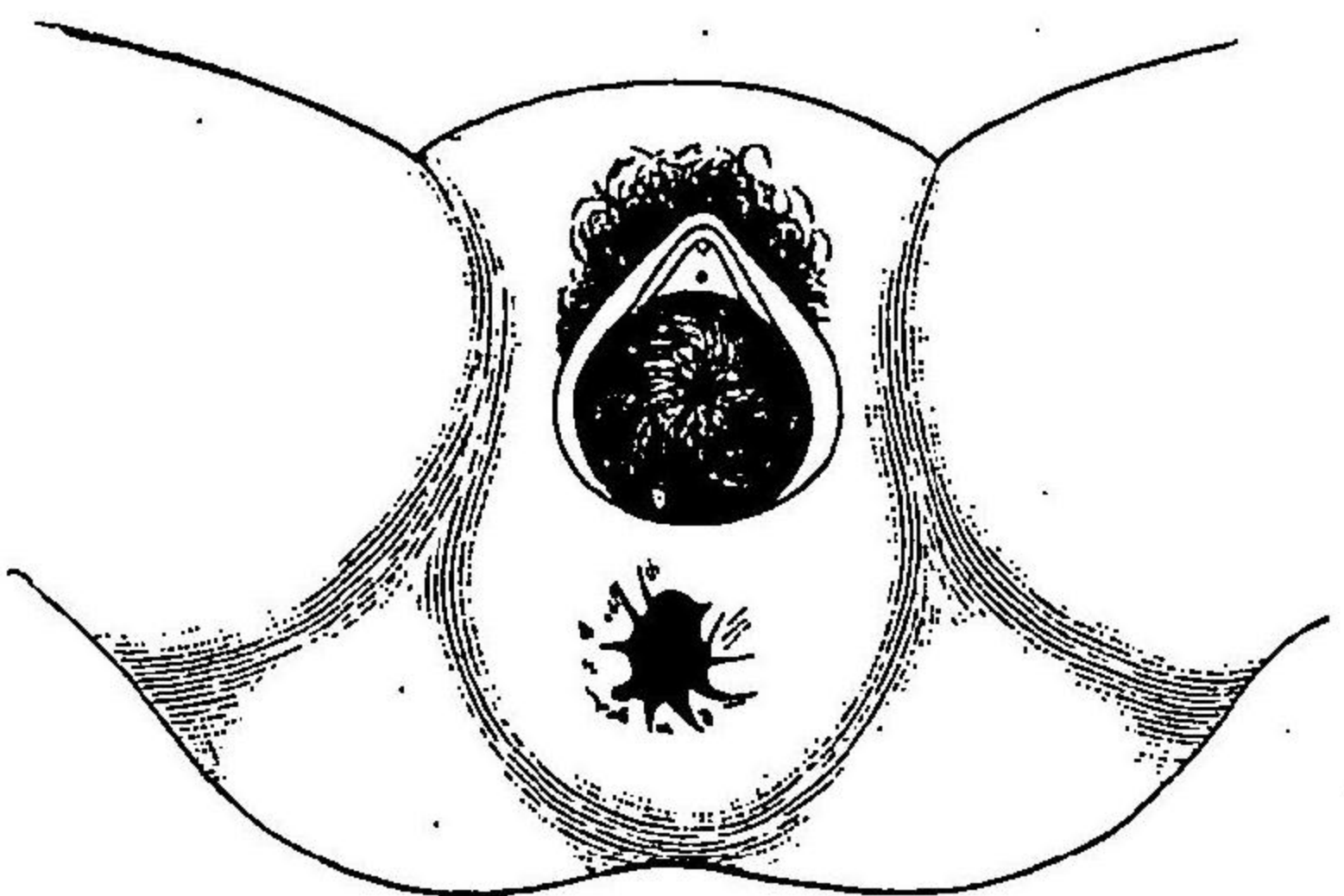
「七」兒體産出ス。

「八」第二胎水流出ス。

「第一四二項」産出期ノ順序 既ニ産出期ニ至レバ、陣痛ハ益々頻發シ、強劇トナリ、兒頭ハ子宮口内ニ出ツ。此際、兒頭強ク子宮口縁ニ括約セラハ、ガ故ニ、其部ノ前方ハ著シク浮腫シ、時トシテハ紫色ヲ呈ス。之レヲ産瘤又ハ頭痛ト名ク。既ニシテ兒頭、腔内ニ降レバ、産婦ハ腹壓ヲ營ミ、胎兒ヲ壓出センコトヲ勉ム。而シテ此腹壓ハ、幾分カ陣痛ニ堪エ易カラシムルモノナリ。今ヤ内診ヲ施ストキハ、兒頭ハ陣痛ノ際ニ下降シ休歇時ニハ少シク退却スルヲ知ル可シ。此ノ如クニシテ、兒頭漸次ニ下降スルトキハ、陣痛時ニハ陰裂間ニ露出シ、陣痛止メバ再ビ腔内ニ退キ、數回反復シテ外陰部ヲ開張セシム。此際、直腸ノ壓迫ニヨリ、頻リニ便意ヲ催フシ、會陰ハ甚シク延張膨出シ、長サ廣サ共ニ二倍ニ達シ、肛門ハ強ク哆開シ、糞便ハ自ラ漏出ス可シ。此ノ如クナレバ、陣痛ハ最モ劇烈トナリ、産婦ハ反射的ニ強ク腹

第一
第二
第三
第四
第五
第六
第七
第八
第九
第十

兒頭露
出シ會
陰部延
張膨出
シ肛門
哆開セ
ルヲ示
ス圖



ノ産出スルヤ、殘餘ノ胎水ハ少許ノ血液ヲ伴フテ流出ス。之レヲ第二胎水ト稱ス。

壓ヲ營ミ、顔面潮紅、口唇青色トナリ、精神煩悶、全身震戦シ、最モ強劇ノ陣痛ヲ現ハシ、以テ兒頭ヲ産出セシムルモノナリ、此陣痛ヲ震戦陣痛ト稱ス。次ニ、兒頭既ニ産出スルトキハ、陣痛多クハ少時間、休歇シ、更ニ發作ヲ來シ、容易ニ兒體ヲ娩出セシム。時トシテハ、兒頭ト共ニ兒體ヲ一頓ニ産出セシムルコトアリ、又兒體

「第一四四項」第二産瘤 時トシテ、兒頭、陰裂間ニ於テ暫時停止ス

ハコトアリ。然ルトキハ、更ニ産瘤ヲ生ズ、之レヲ第二産瘤ト名ク。

第五十二章 第三期後産期

「第一四五項」後産期中ノ緊要ナル箇條

一 爽快ヲ感シ若シクハ惡寒ヲ覺ユ。 二 後産期陣痛。

三 胎盤ノ全部剝離。

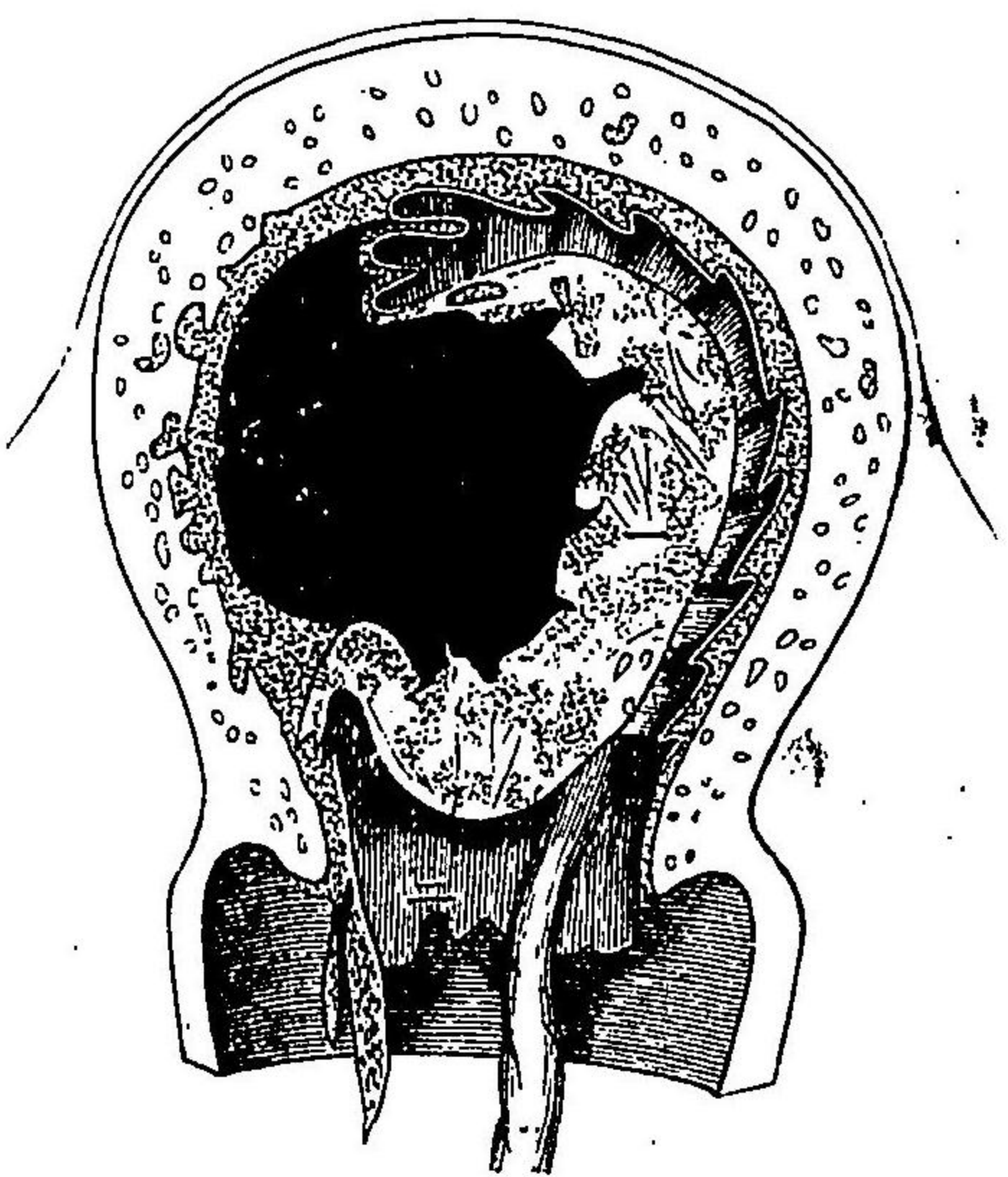
四 血管斷裂シテ出血ス。

五 後産ノ産出及ビ止血。

「第二四六項」後産期ノ順序 既ニ後産期ニ至レバ、産婦ハ爽快ヲ

感ジ、時トシテハ、惡寒若シクハ寒戰ヲ催スコトアリ、而シテ一二分乃至十五分間ヲ經レバ、後産期陣痛ヲ發シ、胎盤ヲ全ク子宮内面ヨリ剝離セシム。蓋シ胎盤ハ、小兒ノ産出スル際、其一部既ニ剝離スト雖ドモ、後産期陣痛ヲ待テテ其全部剝離セラル、モノナリ。又、胎盤ノ剝離スルニ當リ、子宮壁ノ血管斷裂スルガ故ニ、是レヨリ出血シ、陣痛時ニ於テ稍多量ニ流出シ、子宮

第 胎盤剝
離シ産
出セン
トスル
ノ圖



一、胎盤
二、卵膜

ノ收縮ニヨリ、血管ノ斷口、壓閉セララル、ニ及ビ止血ス可シ。若シ血管ノ斷口閉塞セララル、コトナケレバ、危険ノ大出血ヲ現ハスモノトス。此ノ如クニシテ、後産期ノ陣痛ニヨリ剝離セル胎盤及ビ卵膜ハ、漸次ニ子宮ヨリ腔内ニ出デ、凡ソ三十分ヲ經過スレバ、全ク外部ニ産出ス可シ。

第五十三章 分娩ノ持續

「第二四七項」分娩ノ持續 ハ一定ナラズシテ、陣痛ノ強弱、胎兒ノ大小、産道抗抵ノ多少、骨盤ノ廣狹ニ關ス。今若シ、胎兒小ニシテ、産道ノ抗抵弱ク、且ツ骨盤廣ク、陣痛強キ時ハ、分娩甚ダ速ナリト雖モ、若シ之レニ反シ産道ノ抗抵強ク、骨盤廣カラズ、若シクハ陣痛弱キガ如キコトアルトキハ、分娩遲延ス可シ。此理ニヨリ、初産婦ニ比スレバ、娩出スルコト遲シ、殊ニ三十歳以上ノ初産婦ニ在リテハ、分娩大ニ時間ヲ費スモノトス。是レ産道ノ延張スルコト困難ナルト、胎兒ノ發育ハ却テ優大ナルトニ基ク。又、男兒ト女兒トヲ比較スルニ、男兒ハ、通例、大ニシテ、頭蓋ノ固キニヨリ、時ヲ費ヤスコト多シ。

「第二四八項」産婦ノ分娩ニ要スル時間 我國ニ於テハ、調査未ダ調ハザルヲ以テ、果シテ幾何ノ時間ヲ費ヤス可キカヲ明言シ能ハズト雖モ、概シテ之レヲ言バ、初産婦大凡ソ十二時間、經産婦大凡六時間ナリ

トス。西洋人ニ在リテハ、日本人ニ比スルニ、分娩時間ヲ要スルコト多ク、平均初産婦二十時間(或ハ曰ク十七時間)經産婦十二時間(或ハ曰ク十時四十五分)ナリト云フ。

〔第一四九項〕分娩各期ニ要スル時間 分娩各期中、開口期ハ最モ長ク、産出期ノ七八倍ヲ費ヤシ、産出期ハ、初産婦凡ソ二時間、經産婦凡ソ一時間トナス。

後産期ニ於テ、胎盤ノ腔内ニ排出セラル、ハ、多クハ三十分時ヲ費シ、全ク外陰部ニ脱出スルニハ、一時半乃至二時間ヲ要ス可シ。但シ補助ヲ加ヘザレバ、自ラ腔内ヨリ脱出セザルコト屢之レアリ。

〔第一四七項〕分娩ヲ營ムノ時刻 ハ一日中、夜十二時乃至三時ヲ以テ最モ多シトス。又晝夜ヲ比スルニ、晝凡ソ四十五、六%、夜凡ソ五十四、四%ナリトス。

〔第二五〇項〕分娩遅延シ又ハ急劇ナルモノ利害 開口期遅延スルモ、此期ハ尙ホ分娩ノ準備中ナルガ故ニ、敢テ害ナシ。然レドモ、産

出期遅延スルトキハ、子宮ノ血行ヲ障害スルガ故ニ、小兒ノ死ニ陥ルコト甚ダ多シ。若シ又、兒頭既ニ小骨盤内ニ下リ、而シテ産出期遅延スルトキハ、母體ニ於テハ、兒頭ノ壓迫ニヨリ、産道ノ損傷ヲ生ズルノ害アリ。一分娩急劇ニ經過スルトキハ、産道ノ開大不十分ニシテ爲メニ子宮頸、陰又ハ會陰部ヲ破裂セシムルコト屢之レアリ。

第五十四章 正規分娩ノ器械的作用

〔第二五一項〕分娩ノ器械的作用 トハ胎兒骨盤内ヲ通過シ、産出スルノ間ニ現ハス所ノ種々ナル運動ヲ稱スルモノニシテ、其主要ナルモノハ、所謂兒頭ノ第一廻轉、第二廻轉、第三廻轉及ビ肩胛ノ産出方是レナリ。今、頭蓋位ノ正規分娩ニ就キ、之レヲ次ニ説述ス可シ。而シテ、先ヅ初メニ、兒頭ノ骨盤内ニ入ルノ狀ヲ記セント欲ス。

〔第二五二項〕兒頭ノ骨盤入口内ニ進入スルニハ、六種ノ別アリ。即チ、其後頭一母體ノ左前方ニ向フモノニ正左方ニ向フモノ三、左後

方ニ向フモノ〔四〕右前方ニ向フモノ〔五〕正右方ニ向フモノ〔六〕右後方ニ向フモノ是レナリ。正左方又ハ正右方ニ向フモノハ骨盤内ニ進ムニ從ヒ左前方又ハ右前方ニ回旋スルモノトス。而シテ兒頭ハ骨盤入口内ニ進入スル際ヨリ順次ニ三種ノ回轉ヲ營ム。之レヲ彼ノ第一、第二、第三回轉トナ

〔第二五三項〕第一回轉 トハ兒頭ノ直徑、骨盤ノ横徑若クハ斜徑ヲ取り、其入口内ニ進入スルノ際ニ營ムモノニシテ「兒頭ハ少シク回轉シ以テ後頭ハ下リ、頤部ハ上リテ、益々胸上ニ近キ、恰モ屈伏スルノ狀ヲナス所ノ運動ナリ」或ハ之レヲ兒頭ノ横軸回轉ト稱ス。此回轉運動ヲ營ム所以ハ、子宮ノ收縮力兒ノ軀體ヨリ頭部ニ傳達シ、主トシテ後頭部ヲ壓下スルニ基クモノトス。此運動ニヨリ、兒頭、骨盤腔内ニ入レバ、第二回轉ヲ生ズ。

〔第二五四項〕第二回轉 トハ「兒頭左若シクハ右ニ向ツテ回轉シ、後頭ハ前方ニ對シ、兒頭ノ直徑線ハ終ニ骨盤出口ノ直徑線ト相一致スルニ至ルノ運動ヲ云フ」之ヲ生ズルノ理由ハ、骨盤出口ノ徑線ハ其入口ト異

シテ横徑狭ク、直徑ハ却テ廣ク、此直徑ト、兒頭ノ直徑ト相適合スルニアラザレバ、産出シ難キニ因ルモノトス。或ハ此回轉ヲ兒頭ノ鉛直軸回轉ト稱ス。此ノ如クニシテ、兒頭、骨盤出口ニ至レバ、更ニ第三回轉ヲ營ム。但シ、骨盤腔内ヲ下ルノ際、既ニ漸ク、第三回轉ヲ始ムト雖ドモ、了解シ易カラムガ爲メニ、本文ノ如ク説明ス。

〔第二五六項〕第三回轉 トハ「兒頭第一回轉ト全ク反對ノ回轉ヲ營ミ、同ノ横軸ヲ反對ニ回轉ス」頤部、胸上ヲ離レ、前頭ヲ伸展スルノ運動ナリ。即チ此際、後頭ハ恥骨弓下ニ止マリ、前頭ハ骨盤誘導線ノ方向ヲ取りテ、産道ノ後壁ヲ下リ、大頤門ハ初メニ會陰ヲ出デ、次ニ前額、顔面ヨリ頤部ニ至ルマデ、全ク會陰外ニ産出スルモノトス。

〔第二五七項〕肩胛ノ産出 兒頭既ニ産出スレバ、顔面ハ後方ニ、後頭ハ前方ニ向ヒ、頸部ハ腔中ニ存シ、肩胛ハ骨盤入口内ニ在リ。而シテ肩胛ノ横徑ハ、初メニ兒頭ノ取レル骨盤斜徑線ト相交セ、斜徑線ニ位シ、骨盤腔内ニ進ムニ從ガヒ、前方ノ肩胛ハ、右若シクハ左ニ廻旋シ（即チ第一頭

蓋位ハ、右ヨリ左ニ、第二頭蓋位ナレバ、左ヨリ右ニ廻旋スルモノニシテ、兒頭ノ第二回轉ニ一致ス。骨盤出口ニ至レバ、肩胛ノ横徑ハ、殆ト骨盤出口ノ直徑線ニ合シ、前方ノ肩胛ハ、恥骨弓下ニ止マリ、後方ノ肩胛、會陰部ヨリ出デ(即チ兒頭ノ第三回轉ニ一致ス)以テ、全肩胛ハ、外陰部外ニ産出ス可シ。此ノ如ク、肩胛回旋スルニ際シ、小兒ノ顔面ハ、母體ノ右腿若クハ左腿ニ向フモノナリ。

「第二五八項」兒體ノ産出

肩胛全ク脱出スルトキハ、自餘ノ體部

ハ、容易ニ産出スルヲ常トス。

次ノ四章ニハ、各頭蓋位ニ就キ、其器械的作用及ビ内外検査ヲ説述ス可

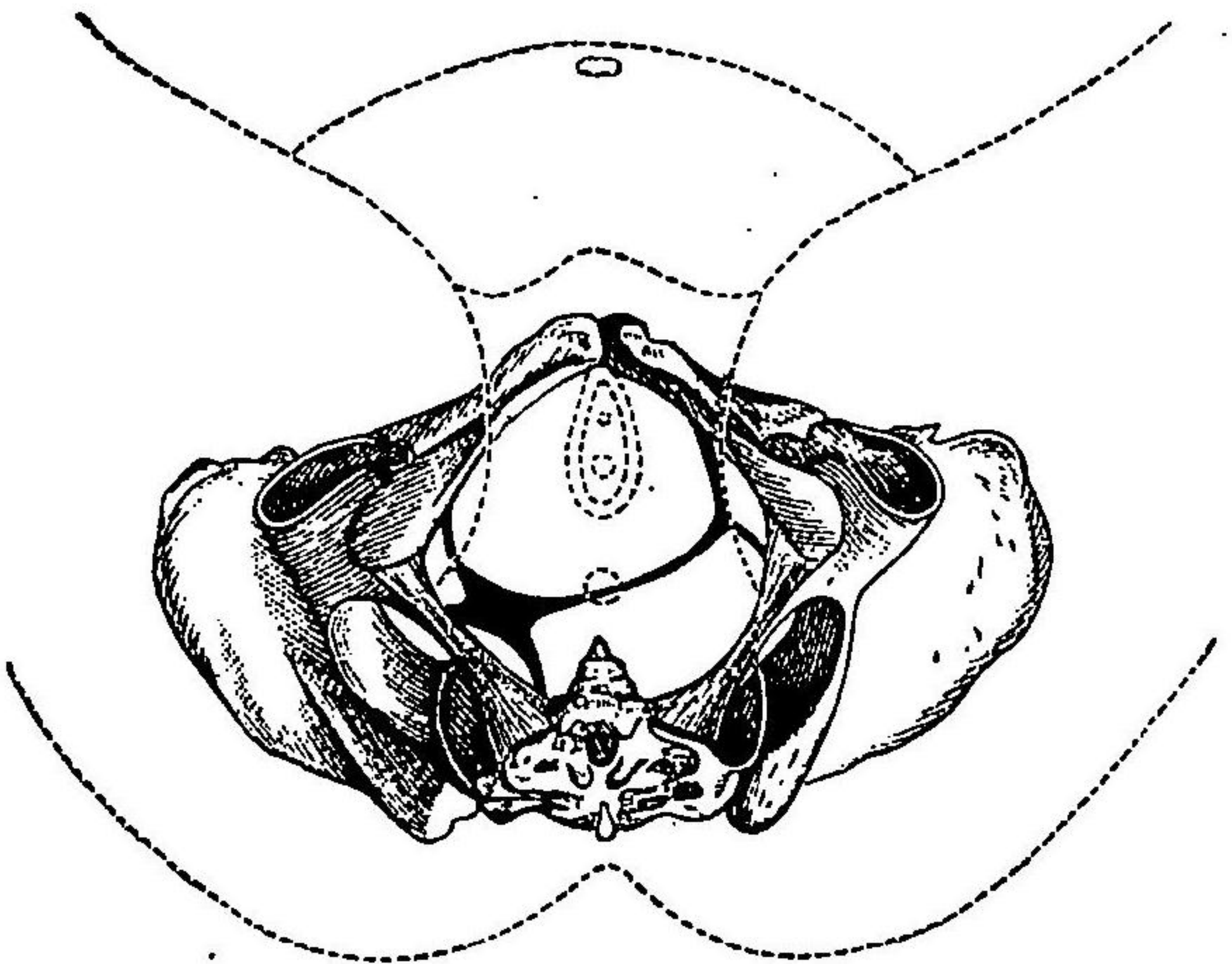
第五十五章 第一頭蓋位ノ内外検査

并ニ分娩ノ器械的作用

「第二五九項」外検査

ニヨレバ、胎兒ノ臀部ハ、子宮底ニ位シ、頭部ハ

第一頭蓋位ノ矢狀線合第斜徑位ヲ示ス



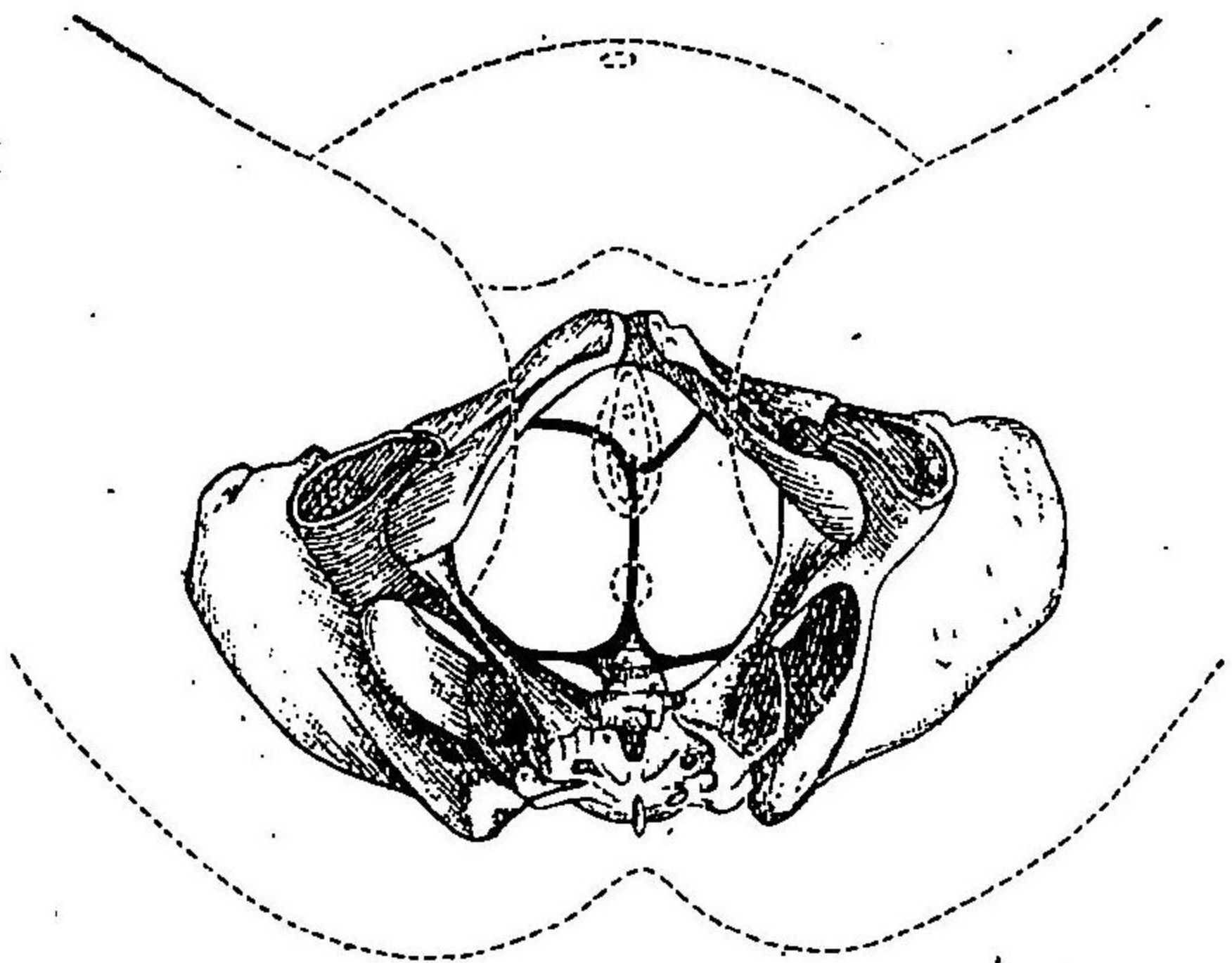
恥骨ノ上部ニ存ス。背部ハ母體ノ左方ニ向ヒ、小體部ハ、臀部ニ沿フテ、其右方ヲ占ム。聽診スルニ、臍ノ左下方ニ於テ、明カニ心音ヲ聽取ス可シ。(第五十圖及ビ第五十六圖ハ此

位置ノ胎兒ヲ示ス、參看ス可シ。

「第二六〇項」内検査

ヲ施コスニ、先進部ハ、硬固ニシテ圓球形ヲ呈

第一頭蓋位ノ内外検査并ニ分娩ノ器械的作用



骨ナリ。故ニ通例此位置ニ於テハ、小兒ノ後頭ハ左腸恥結節(腸骨ト恥骨ノ接合部)ニ對シ、顔面ハ右薦腸關節ニ向フ。

シ、骨縫合、額門ヲ具フ而シテ小額門ハ前方ニアリ、大額門ハ右後方ニ位シ、矢狀縫合ハ右斜徑線ニ一致ス(時トシテ矢狀縫合、横徑ニ位スルコトアリ)先進部ハ即チ右顱頂

「第一六」項器械的作用

此ノ如クニシテ分娩ヲ始ムルトキハ、第一回轉ニヨリテ、小額門部最モ下降シ、兒頭ハ骨盤入口内ニ入ル。次ニ骨盤内ヲ下ルニ從ヒ、第二回轉ヲ營ミ、後頭ハ左方ヨリ恥骨縫際ニ向ヒ、骨盤下口ニ至レバ、矢狀縫合ハ殆ント骨盤直徑線ニ一致シ、後頭ハ恥骨弓下ニ止マリ、茲ニ於テ第三回轉ヲ現ハシ。大額門ノ右方即チ右顱頂骨部、始メニ露出シ、次テ顔面ヨリ、全兒頭ハ陰門外ニ産出スルニ至ル。兒頭全ク産出スルノ際ハ、其肩胛骨盤入口内ニ在リテ、肩胛横徑ハ骨盤ノ左斜徑線ニ存ス。而シテ肩胛部、骨盤内ニ下レバ、第二回轉ト同様ノ回轉ヲナシ、右方ノ肩胛ハ恥骨縫際下ニ廻リテ始メニ露出シ、左方ノ肩胛ハ會陰部ヨリ出ヅ。此際、小兒ノ顔面ハ母體ノ右腿ニ對ス。肩胛産出ノ後、兒體ハ容易ニ分娩ヲ終ルマノナリ。産瘤ハ右顱頂骨部ニ現ハル。

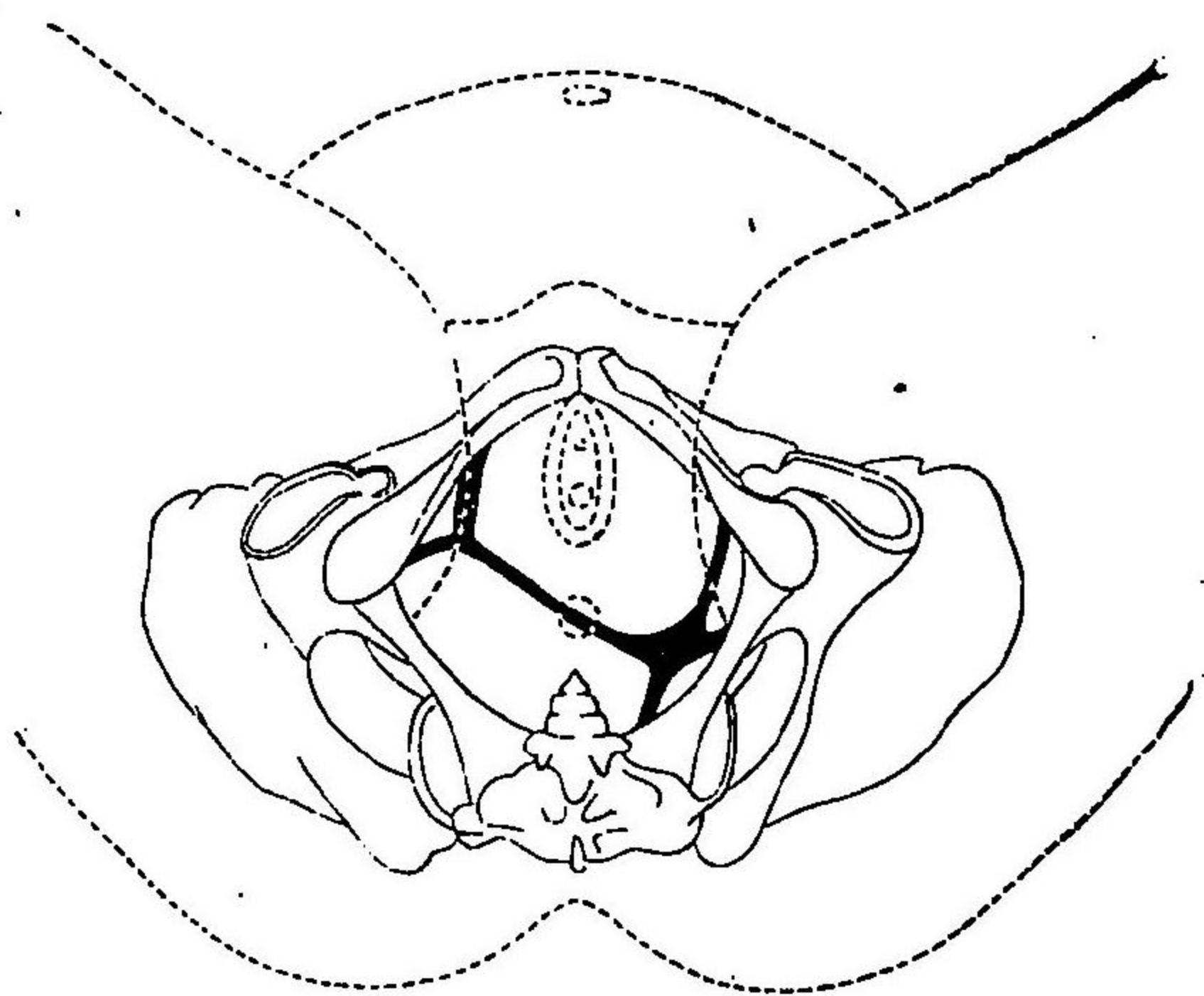
第五十六章

第二頭蓋位ノ内外検査

并ニ分娩ノ器械的作用

【第二六二項】外検査 小兒ノ臀部ハ子宮底ニ、頭部ハ恥骨縫際上ニ、背部ハ右側ニ、小體部ハ臀部ノ左側ニ在リ觸知ス。心音ハ臍ノ右下方ニ最モ善ク聴取セラル。第五十九圖ハ此位置ノ胎兒ヲ示ス。參看ス可シ。

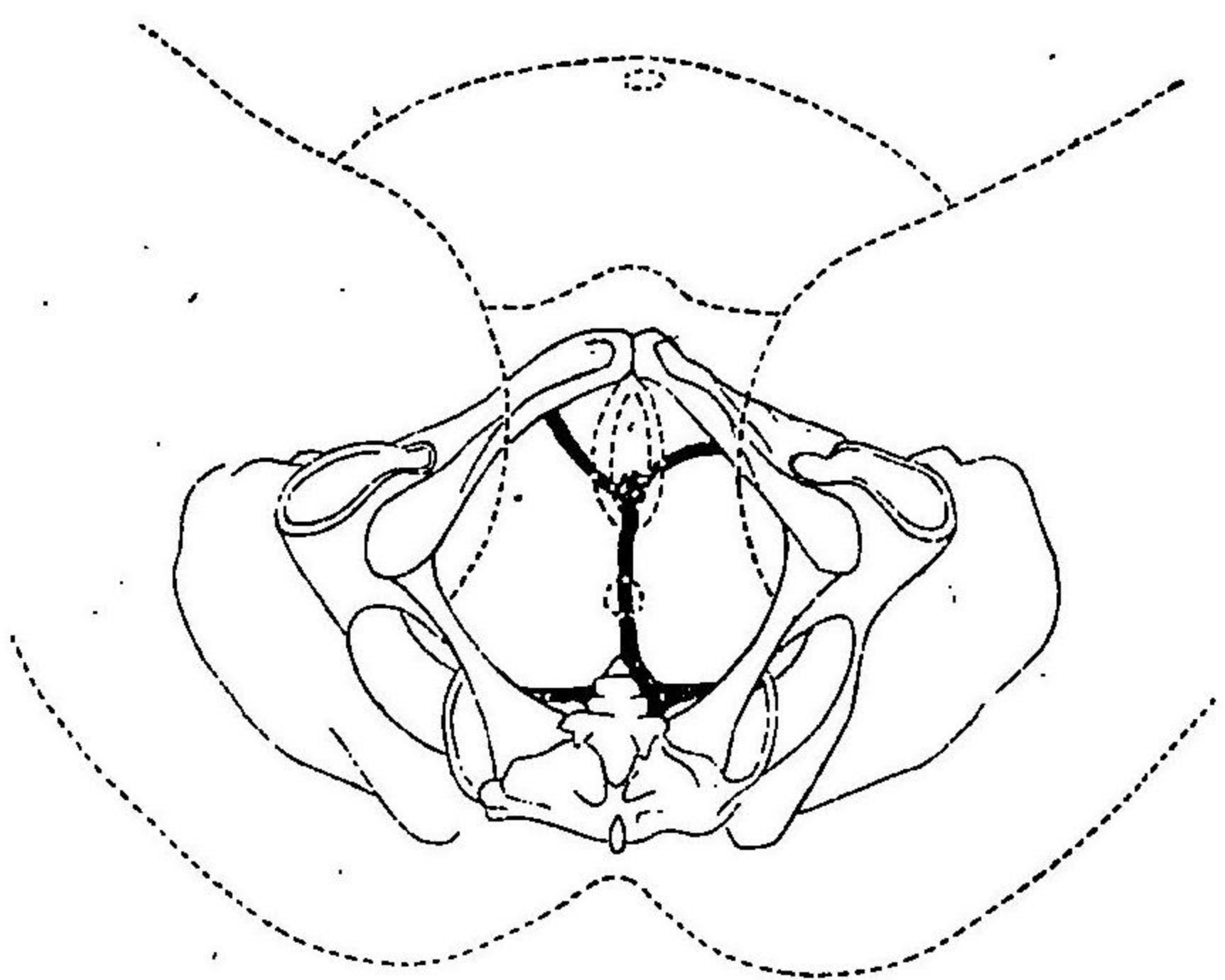
第 兒頭ノ
矢狀縫
合第二
斜徑ニ
存スル
ヲ示ス
圖



【第二六三項】内検査 小兒ノ頭門ハ右前方ニ、大頭門ハ左後方ニ位シ。矢狀縫合ハ左斜徑線ニ一致ス。(時トシテ、矢狀縫合横徑ニ位スルコトアリ) 先進部ハ左顳

頂骨ナリ。通例、小兒ノ後頭ハ右腸恥結節ニ對シ、顔面ハ左薦腸關節ニ向フ。【第二六四項】器械的作用 此位置ノ器械的作用ハ、其理第一頭蓋

第 兒頭ノ
矢狀縫
合第一
ト骨盤
直徑線
ニ一致
スルヲ
示ス圖



位ニ於ケル者ト同ジク、唯左右相反スルノ異アルノミ、即チ兒頭ハ第一回轉ニヨリテ小頭門部最モ下降シ、骨盤内ヲ通過スルノ際、第二回轉ヲ營ミ、後頭ハ右方ヨリ恥骨縫

際ニ向ヒ骨盤下口ニ至リ矢狀縫合ハ殆ント骨盤直徑線ニ一致シ後頭ハ
 恥骨弓下ニ止マリ以テ第三回轉ヲ現ハシ大顛門ノ左方即チ左顛頂骨部
 始メニ露出シ次デ顔面ヨリ全兒頭ハ陰門外ニ産出スルニ至ル肩胛ハ兒
 頭全ク産出スルノ際骨盤入口内ニ在リテ其横徑骨盤ノ右斜徑線ニ一致
 ス而シテ骨盤内ヲ下ルノ際左肩ハ母體ノ左方ヨリ恥骨縫際下ニ廻リテ
 始メテ露出シ右肩ハ次デ會陰部ヨリ出ヅ此際小兒ノ顔面ハ母體ノ左腿
 ニ向フ産瘤ハ左顛頂骨部ニ現ハル

第五十七章 頭蓋位ノ内外検査并ニ分

娩器械的作用ノ一覽表

「第二六五項」前二章ニ記スル所ヲ一括シテ記憶ニ便ナラシメシガ
 爲メ次ノ表ヲ掲出ス可シ

外	第一頭蓋位	第二頭蓋位
臀部ハ子宮底		臀部ハ子宮底

器	小顛門ハ下リ且ツ左前方ヨ	小顛門ハ下リ且ツ右前方ヨ
	小顛門ハ左前方大顛門ハ右	小顛門ハ右前方大顛門ハ左
査	先進頭部ハ右顛頂骨	先進頭部ハ左顛頂骨
	矢狀縫合ハ右斜徑(第一斜徑) ニ一致ス	矢狀縫合ハ左斜徑(第二斜徑) ニ一致ス
内	先進部ハ固ク圓ク骨縫合顛門アリ	先進部ハ固ク圓ク骨縫合顛門アリ
	心音ハ臍ノ左下方	心音ハ臍ノ右下方
檢	頭部ハ恥骨縫際ノ上部 兒背ハ母體ノ左腹部 小體部ハ臀部ニ沿ヒ子宮底ノ右側	頭部ハ恥骨縫際ノ上部 兒背ハ母體ノ右腹部 小體部ハ臀部ニ沿ヒ子宮底ノ左側

用	作	的	械
産瘤ハ右顱頂骨部ニ位ス。	體ノ右腿ニ向フ。	産出ス。兒ノ顔面ハ、後ヨリ母	シ右顱頂骨部始メニ外陰部
産瘤ハ左顱頂骨部ニ位ス。	體ノ左腿ニ向フ。	出產ス。兒ノ顔面ハ、後ヨリ母	シ左顱頂骨部初メニ外陰部
		際下ニ進ミ、右肩胛、會陰ヨリ	ニ出デ、遂ニ兒頭全ク産出ス。
		骨盤内ニ入り、左肩胛、恥骨縫	次ニ肩胛ハ右斜徑線ニ就キ、
		際下ニ進ミ、左肩胛、會陰ヨリ	骨盤内ニ入り、右肩胛、恥骨縫
		體ノ右腿ニ向フ。	次ニ肩胛ハ左斜徑線ニ就キ、
		産瘤ハ右顱頂骨部ニ位ス。	骨盤内ニ入り、右肩胛、恥骨縫
		體ノ左腿ニ向フ。	際下ニ進ミ、左肩胛、會陰ヨリ
		産瘤ハ左顱頂骨部ニ位ス。	ニ出デ、遂ニ兒頭全ク産出ス。
			シ右顱頂骨部始メニ外陰部
			ニ出デ、遂ニ兒頭全ク産出ス。
			次ニ肩胛ハ左斜徑線ニ就キ、
			骨盤内ニ入り、右肩胛、恥骨縫
			際下ニ進ミ、左肩胛、會陰ヨリ
			體ノ右腿ニ向フ。
			産瘤ハ右顱頂骨部ニ位ス。

第五十八章 第三及び第四頭蓋位(前顱頂位)

又ハ前頭位ノ第一及第二胎向)

「第二六六項」此兩位置ハ兒ノ後頭、右後方又ハ左後方ニ向ヒ、骨

盤内ニ進入シ、次ニ顔面ハ前方ニ向ヒ、後頭ハ會陰部ヨリ産出スルモノニシテ、産婆學ニ於テハ異常ニ屬セシム可キモノナリ、故ニ第七十二章ニ於テ詳述セリ、就テ看ル可シ。

第五十九章 分娩時ニ現ハル、母體

及ビ兒體ノ變狀

「第二六七項」母體ノ體温ノ昇騰 分娩ノ際、子宮ノ收縮又ハ努責等ノ如キ、筋ノ勞働ニヨリ〇、一乃至〇、三度即チ一分乃至三分ノ體温上昇ヲ現ハス。分娩困難ナルトキハ、三十八度以上ノ高キニ至ルコトアリ、或ハ産道内ニ腐敗ヲ生ズルガ爲メニ、四十度以上ノ高熱ヲ發シ、危険ヲ致スコトモ亦之レアリ。

「第二六八項」分娩時、胎兒心音ノ變化 陣痛中、胎兒ノ心臓音著シク減少シ、陣痛止メバ再ビ増加ス。若シ過劇ノ陣痛甚ダシク長ク持續スルトキハ、終ニ心動止ミ、胎兒ハ死ニ陥ルコトアリ。又、産出期中ハ、陣痛強キ

モノナルニヨリ、**産出期長キトキハ**、胎兒死ニ陥ルコト多シ。

「**第二六九項**」胎水、多量ニ流出スルトキハ、子宮收縮シ、恰モ陣痛ノ過劇ナルト同ジキガ故ニ、多量ノ胎水早ク流泄スルトキハ、胎兒ノ死スルコトモ亦多シ。

「**第二七〇項**」兒頭ノ變形 頭蓋位ヲ取リテ産出セル所ノ小兒ハ、其前額、項部ニ向ツテ壓平セラレ、後頭ハ著シク延張ス可シ。而シテ一側ノ顛頂部ニ

圖七十七 後頭位

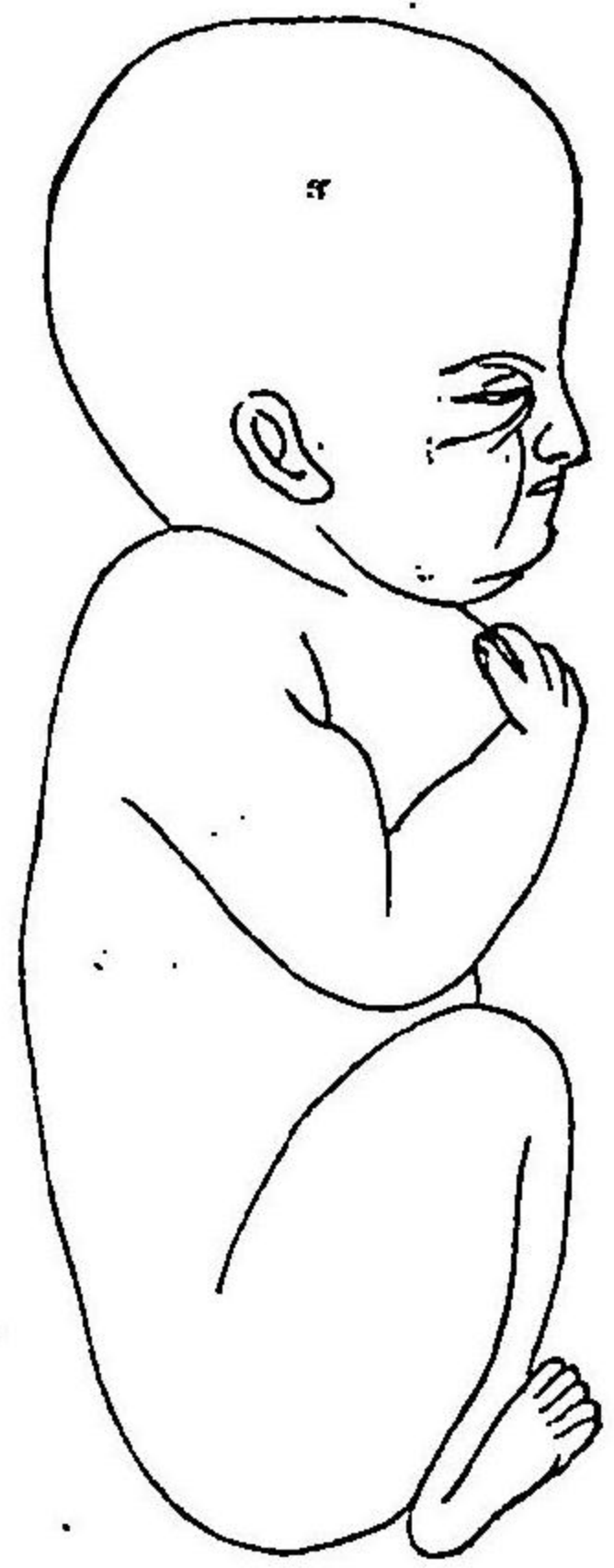
ヲ以テ
産出セ
ル兒頭
ノ圖



産瘤ヲ生ズルニヨリ、其部高起シ、之レヲ後方ヨリ望ムトキハ、頭蓋ノ歪斜セルガ如

圖八十七 前頭位

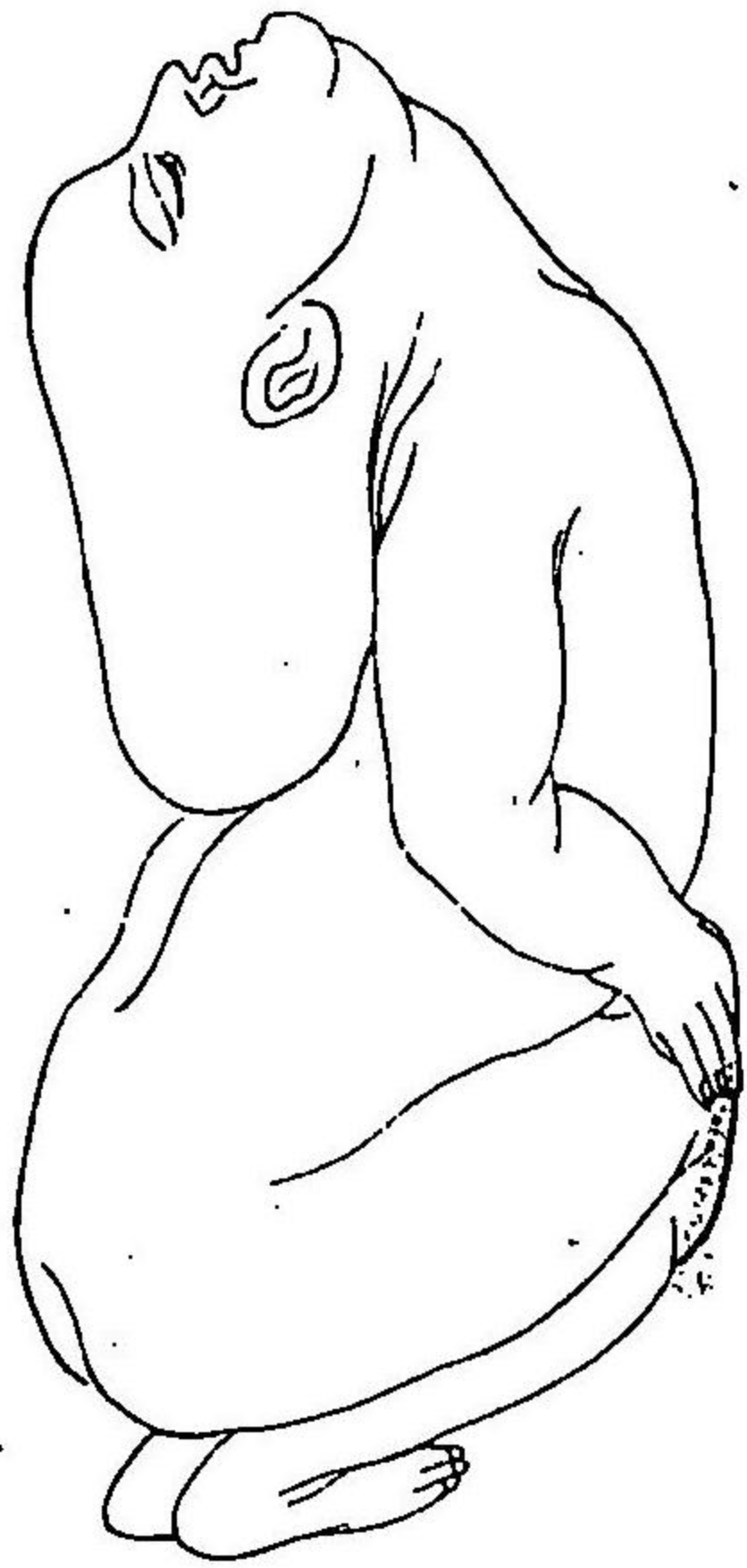
ヲ以テ
産出セ
ル兒頭
ノ圖



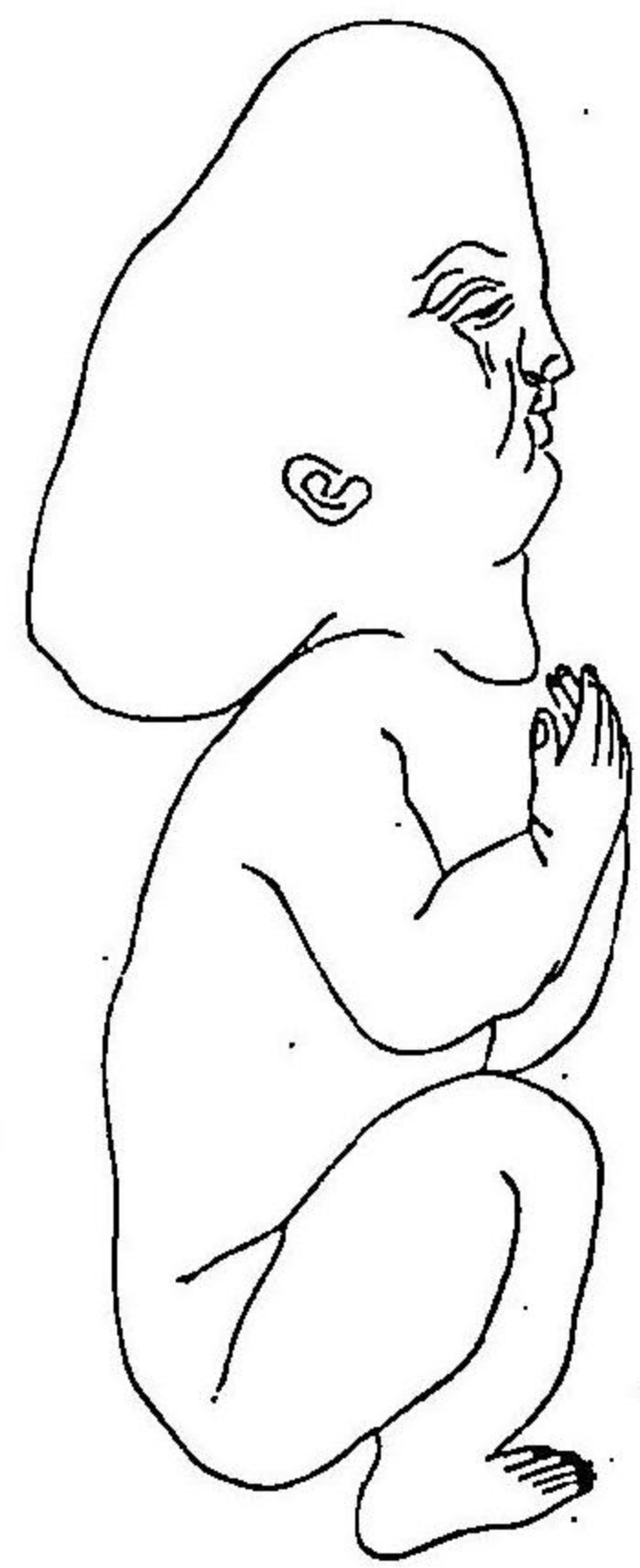
キヲ見ル可シ。第三、第四頭蓋位即チ前頭位ヲ取リ産出セル小兒ノ頭蓋ハ、産道ヲ通過スルノ際、前額及び後頭ヨリ壓平セラル、ガ故ニ、全頭蓋ハ頗ル圓形ヲ呈スル

圖九十七 顔面位

ヲ以テ
産出セ
ル兒頭
ノ圖



第八圖 額位ヲ以テ産出セル兒頭ノ圖



モノナリ。其他額位ノ小兒ハ頭部殆ト三角形ヲナシ、顔面位ナルトキハ、後頭位ニ於

ケルガ如ク後頭延長シ、顔面ハ縦横ニ壓縮セラレ醜形ヲ呈ス。

第六十章 正規分娩處置ノ概要

「第二七二項」正規分娩ニ於ケル産婆ノ任務 正規分娩ノ際

ニハ、産婆ハ自然ノ分娩力ヲ助ケ、母體及ビ兒體ニ危険症ヲ發スルヤ否ヤニ注意スルヲ要ス。決シテ妄リニ、無用ノ手術ヲ施コスガ如キコトアル可カラズ。若シ異常ヲ發見スルコトアラバ、速カニ醫師ノ診察ヲ請フ可シ。

「第二七二項」正規分娩處置ノ要領 正規分娩ノ處置ヲ極メテ

簡略ニ説述スレバ、先ツ分娩ニ要スル器具即チイルリガートル、カテーテル、温湯、襪襪、臍帶結紮品、其他分娩ニ必要ナル器具ヲ整備シ、法ニ從テ産床ヲ作り、防腐法ヲ行フテ、産婦ノ内外検査ヲ施コシ、開口期ノ終リニ至リ、胎胞ノ破裂ニ近クヲ見バ、必ズ産床ニ就カシメ、既ニ破水セルノ後ハ、防腐法ニヨリ、更ニ一タビ内診ヲ行ヒ、異常ノ有無ヲ検査可シ。若シ分泌物多量ナル者ニ在リテハ、二%石炭酸水ヲ以テ屢腔内ヲ洗滌シ、而シテ、兒頭、腔内ニ降り、甚ダシク會陰ヲ膨出セシムルニ至ラバ、法ノ如ク手ヲ會陰ニ抵テ之レヲ防護ス可シ。又、胎兒既ニ娩出セバ、鼻孔及ビ口内ノ粘液ヲ去リ、呼吸ヲ自由ナラシメ、温カナル布片ニ包ミ、母體ノ脚間ニ置キ、手ヲ母體ノ腹上ニ貼シ、以テ子宮收縮ノ狀ヲ検査スルヲ要ス。五乃至十分ノ後、臍帶ノ搏動止ムニ至ラバ、之レヲ結紮切離シ、胎盤既ニ産出シ、子宮ノ收縮佳良ナルヲ見バ、小兒ヲ温浴ニ入ラシメ、次ニ産婦ノ外陰部ヲ検査シ、防腐液ヲ以テ洗滌シ、清潔ナル布片ヲ貼シテ、繃帶ヲ施コシ、更ニ子宮收縮ノ狀ヲ検査シ、二三時間

ヲ經テ出血其他ノ障害ナキヲ見バ、乃チ産婦ノ許ヲ去ルコトヲ得可シ。其概畧ヲ擧グレバ、正規分娩ノ處置ハ、上記スル所ニ外ナラズト雖ドモ、實際ニ當リテハ、此要領ノミヲ知了スルモ、到底用ヲナスコトナシ。故ニ、以下第六十一章乃至第七十章ニ於テ、之レガ詳細ヲ述ベント欲ス。即チ、其說述ス可キモノ次ノ如シ。

- 一、産婆携帶用器具并ニ衣服。
- 二、防腐法。
- 三、臨産婦ノ検査法。
- 四、開口期及ビ産出期ノ處置。
- 五、會陰防護法。
- 六、臍帶纏絡及ビ軀幹産出遲延ノ處置。
- 七、臍帶切離法。
- 八、後産期ノ處置。
- 九、分娩ヲ終レル子宮、其他ノ處置。

十、金規十則。

是レナリ。次ニ之レヲ各論ス可シ。

第六十一章 産婆携帶用器具并ニ衣服

〔第三七三項〕産婆ハ常ニ分娩ニ要スル器具ヲ整備シ、何時ニテモ差支ナカラシメ、毎ニ之レヲ携ヘテ産家ニ赴ク可シ。今、其器具ノ品目ヲ擧グレバ、次ノ如シ。

産婆携帶用器具

- 一、一〇〇〇〇以上ヲ容ル可キ、イルリガートル。
- 腔内用管、灌腸用管、各一ヲ具フ。
- 二、洗滌其他ニ用ユル瓦設片數枚。
- 三、長サ半迷的兒巾十仙迷的兒ヲ有シ、栓塞其他ニ用ユ可キ脱脂綿八枚。
- 四、臍帶結紮絲。
- 五、臍帶剪刀。

- 六、臍縋帶。
- 七、浴用及び體温用檢温器各々一。
- 八、聽胸器及び時計。
- 九、刷毛。
- 十、爪鏝子。
- 十一、排尿用カテーテル、小兒窒息用彈力カテーテル。
- 十二、小兒灌腸器。
- 十三、洗滌シ得ベキ前垂布。
- 十四、石鹼。
- 十五、溶解石炭酸三〇、〇。
- 十六、硼酸末、或ハ沃度フオルム末。
- 十七、ホフマン液二〇、〇。
- 十八、礫砂精二〇、〇。
- 十九、二十倍石炭酸油又ハワゼリン。

二十、三〇、〇液量計。

- 右ノ外、二十一、産婆用長ピンセット(末端ヲ甚シク鈍厚トナセルモノ)。
- 廿二、醫下ニ挿入シ得ベキ受水盤。
- 廿三、洗滌消毒液ヲ容ル可キ三個ノ金屬盤ヲ具フルトキハ最モ佳ナリ。高橋氏産婆携帶用器具ハ、總テ此等ノ器品ヲ有ス。詳細ハ第八編附録ヲ參看ス可シ。

以上ノ諸品ハ、消毒シ得ベキ一定ノ函若シクハ提籃中ニ收メ、常ニ清潔ナラシメ、藥品、瓦設等ハ必ズ缺亡セシムルヲナク、何時ニテモ、供用シ得ベカラシムルヲ要ス。

第二七四項「産婆ノ衣服」 産婆ハ、産床ニ臨ムトキハ、清潔ナル

衣服ヲ着ケ、白キ前垂布ヲ用ユ可シ。白色ノ看護衣ヲ用ユルトキハ、最モ佳ナリ。凡ソ、衣服、前垂布等ハ、一タビ着用シ、少ニテモ汚染セルトキハ、之レヲ洗濯ス可シ。又、傳染病ヲ有スル産婦ヲ取扱カフトキニ用キタル衣服ハ、蒸氣消毒法ヲ施コスカ、又ハ、熱湯中ニ煮沸洗淨セルノ後ニアラザ

レバ之レヲ用ユ可カラズ

第六十二章 防腐法

〔第二七五項〕産婦ノ處置ニ就キ防腐法即チ消毒法ノ必要ナルハ、分娩ノ際、子宮、腔内、外陰部等ニ創傷ヲ生ズルガ故ニ、若シ消毒法ヲ行ハザルトキハ、茲ニ微菌附着シ、化膿ヲ生ジ、遂ニ産褥熱ノ如キ危険症ヲ發スルノ恐アルニヨルモノナリ。

〔第二七六項〕産婆及ビ産婦ノ消毒法 産婆及ビ産婦ノ消毒法ハ、手及ビ外陰部ニ施コスモノナリ。此法ハ、既ニ第二編第三十五章中ニ説キ示セルガ故ニ、茲ニハ之レヲ省畧セリ。宜シク之レヲ參看ス可シ。

〔第二七七項〕器具ノ消毒 分娩ニ要スル剪刀、カテーテル等ハ、豫ジメ五%石炭酸水中ニ浸シテ用ニ供ス。又、液質ヲ吸取セシメンガ爲メニ、陳舊ノ布巾ヲ用キント欲セバ、豫ジメ洗濯煮沸シテ、丁寧ニ之レヲ貯藏セシコトヲ要ス。否ラザレバ、恐ベキ熱性病即チ産褥熱ヲ發スルコトアリ。又、

更ニ蒸氣消毒ヲ施コストキハ最モ佳ナリ。

第六十三章 臨産婦ノ検査法

〔第二七八項〕産家ニ於ケル第一ノ訊問 産婆ハ産家ニ至ラバ、先ツ陣痛ノ状態ヲ察シ、果シテ分娩ヲ催セルヤ否ヤヲ知り、既ニ分娩ヲ催セルモノニ在リテハ、陣痛初發ノ時期及ビ前胎水ノ漏泄セシヤ否ヤヲ問フ可シ。而シテ若シ前胎水既ニ漏泄セバ、直チニ防腐法ヲ施コシテ、内検査ヲ行フ可シ。否ラザレバ、分娩ノ至ルヲ知ラズシテ、狼狽スルコトアリ。之レニ反シ、陣痛尙ホ弱ク、胎水未ダ漏出セザルトキハ、必要ニ應ジ、徐ムロニ既往ヲ訊問ス可シ。

〔第二七九項〕既往ノ訊問 先ツ初産婦ナルカ、若シクハ經産婦ナルカヲ問ヒ、經産婦ナルトキハ、既往ノ分娩、産褥ノ經過、小兒ノ生死ヲ尋ヌ可シ。其他、該回終末月經ノ期日、妊娠末期ノ自覺的徵候ヲ尋テ、全身ノ健否ヲ知ル可シ。此ノ如クニシテ、外検査ヲ行ヒ、次ニ内検査ニ及ボス可シ。

〔第二八〇項〕外検査 ハ第二編第卅四章ニ説述セル所ノ方式ニヨリ子宮底ノ所在、胎兒ノ位置、心音ノ部位ヲ知り、又、兒頭ノ尙ホ耻骨縫際上ニ在ルヤ否ヤヲ検査ス可シ、又、陣痛發作セバ、検査ヲ停止スルヲ要ス。

〔第二八一項〕内検査ヲ施コスニハ 先ヅ第二編第三十六章ニ記セル方法ニヨリ、手及ビ外陰部ニ嚴密ノ防腐法ヲ施コシ、内検査ノ方式(第二編一八八項)ニ從ヒ、脛及ビ骨盤内ノ狀況ヲ検査シ、更ニ次ノ事項ヲ詳カニス可シ。

一、子宮口ノ所在、大小、及ビ其縁ノ状態。

二、胎胞ノ存否、若シ胎胞ノ存スルトキハ、胎水ノ多少、及ビ陣痛休歇時ニ胎胞ノ緊張セルヤ否ヤ。

三、胎兒先進部ノ辨別及ビ其子宮口内ニ進入セルヤ否ヤ。

是ナリ。但シ開口期ノ初メニ於テハ、前腔穹窿部ヨリ兒頭ヲ觸知シ、何レノ部分ニ至ルマデ降レルヤヲ知り、且ツ、子宮口ノ大サヲ検査スルヲ以テ足レリトス。爾後、子宮口ノ殆ント至ラバ、縫合及ビ頸門ヲ觸知

ス可シ。―若シ異常ノ存スルヲ見バ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第六十四章 開口期及ビ産出期ノ處置

〔第二八二項〕分娩初期ノ徴候及ビ其處置 既ニ分娩ヲ始ル

トキハ、數分間ヲ隔テ産婦ハ疼痛ヲ訴エ、手ヲ腹上ニ貼スレバ、明カニ子宮ノ固ク收縮セルヲ知ル可シ。是レ即チ陣痛ナリ。内検査ヲ施コセバ、前胎水ハ、陣痛時ニ先進頭部ノ下ニ集マリ、卵膜ヲ子宮口ヨリ膨出セシム。子宮口未タ開カザルトキハ、子宮壁ヲ隔テ、卵膜ノ緊張ヲ觸知ス可シ。子宮口ノ開クト否ラザルトハ、分娩ノ初期ヲ證スルコト能ハザルモノナリ。―經産婦ニ在リテハ、間々、妊娠七八ヶ月ニシテ、子宮口著シク弛緩シ、容易ク一二指ヲ挿入シ得可ク、初妊婦ナルトキハ、既ニ分娩ヲ始ムルト雖トモ、子宮口尙ホ開大ヲ現ハササルコトアルヲ見ル可シ。

以上ノ徴候ニヨリ、既ニ分娩ノ初期ナルコトヲ知ラバ、糞キニ便通アリシト否トニ論ナク、石鹼水五六百瓦(石鹼凡ソ八瓦ヲ含ム)ヲ以テ灌腸ヲ行ヒ、

十分ニ糞便ヲ排泄セシム可シ否ラザレバ、胎兒娩出ノ際、多量ノ糞便漏出シ、大ニ困難スルコトアリ。但シ内検査ノ際、直腸内ニ糞便ヲ認メザルトキハ、場合ニヨリ灌腸ヲ缺クコトヲ得可シ。

〔第二一八三項〕産室 ハ可及的廣ク明カニシテ、温度ハ凡ソ華氏ノ六十三度ナルヲ佳トス、而シテ不潔ナル物品ハ必ズ之レヲ除キ去リ、不必要ノ器具モ亦之レヲ遠ケ、且ツ無用ノ人ハ室内ニ止ム可カラズ。總テ産室ハ、豫シメ分娩前ニ之レヲ撰定シ、清潔ナラシメ、必要ノ準備ヲ調フルヲ緊要ナリトス。

〔第二一八四項〕産床 ハ必ズ其周圍ヲ廣カラシメ、床ノ頭部ハ、稍々之レヲ高カラシメ、敷布團ハ、頭部ノ外、全ク油紙若シクハ、護謨布ヲ以テ之レヲ覆ヒ、其上ニ敷布ヲ延ヘ、安全針ヲ以テ之レヲ固定シ、臀部ニハ、方凡ソ二尺五寸ノ油紙若シクハ護謨布上ニ同シ、大サノ脱脂綿ニテ造レル敷布團(若シクハ藁布團)ヲ載セ、再ビ同シ大サノ敷布ヲ延ベ、茲ニ産婦ヲ臥セシム可シ、又、別ニ方二尺五寸ノ油紙又ハ護謨布上ニ、同大ノ敷布

ヲ延ベタルモノヲ備ヒ、分娩終レルノ後、汚染セル臀部ノ敷布團ト交換スルノ用ニ供スルヲ要ス。總テ産床ニ供用スル物品ハ、豫ジメ分娩前ニ、善ク之レヲ準備スルヲ要ス、又、産床用ノ敷布團又ハ敷布等ハ、蒸氣裝置ヲ以テ消毒スレバ、最モ佳ナリ。

〔第二一八五項〕産婦ノ衣服 衣服ハ總テ緊密ナルモノヲ去リ、襯衣ハ液質ニ汚サレザランガ爲メ、背部ニ捲キ舉ゲ、輕キ布團ヲ以テ、身體ヲ覆ヒ、分娩終ラバ、温暖ノ被衾ヲ以テ交換ス可シ。分娩ノ際、腹部以下ハ、特ニ清潔ナル廣キ布片ヲ加ヘテ之レヲ覆ヒ、且ツ、特別ノ股引ヲ着ケシムルヲ便ナリトス。

〔第二一八六項〕産室内所要ノ器具 産室内ニ於テ分娩ニ要スル器具ハ、産婆携帯用器具及ビ産床用諸品ノ外、種々アリ、皆ナ善ク之レヲ整列シテ、其用ニ供ス可シ。今、之レヲ列記スレバ、大畧次ノ如シ。

- 一、産婆携帯用器具(第六十一章ノ諸器具)
- 二、前項ニ記セル産床用諸品。

三、産婦及ビ小兒用布巾類

手巾(或ハ之レナクモ可ナリ)〇瓦設及ビ綿布ノ壓抵巾、各數個〇洗濯セ
ル晒布二三〇丁字綿帶〇方二尺餘ノ襦袢二(一ハ産出直後小兒ヲ包
被シ、一ハ小兒浴後ノ濡リ取りトス)〇兩膝間及ビ臀下ニ挿入シ得ベキ大
及ビ中枕子、各々一〇分娩後ニ用ユル腹帶〇豫備用油紙一〇小兒ノ衣服

四、温湯及ビ冷水ノ多量並ニ小兒用浴盤及ビ温婆二三個

五、洗滌消毒用鹽三個、廢水溜桶一個

六、食料及ビ藥品(温牛乳、肉煮汁、赤葡萄酒、若シクハブランデー酒)

右ノ外、看護婦又ハ適當ノ介者一名ヲ侍セシメ、且ツ他ニ必要ノ際、醫師
ノ許ニ赴カシム可キ人夫一名ヲ備フルヲ要ス。

〔第一八七項〕産婦就褥ノ時期

就褥ハ開口期ノ初メニ於テハ、
敢テ必要ナラズ、陣痛増盛シ、子宮口頗ル開大セバ、直チニ産床ニ入ラシ
ム可キモノトス。胎胞ノ破裂ヲ待チ、床中ニ入ラシムルハ不可ナリ、何ト
ナレバ、胎水漏泄スルノ後、直ニ娩出スルコト多ク、且ツ起立ノ際、羊水漏
泄スルトキハ、臍帶脱等ノ異常ヲ發シ易キニヨル。時トシテハ、胎水ノ早

期ニ漏泄スルコトモ亦多ク之レアリ。此ノ場合ニハ、産婦ヲ安靜ニ平臥
セシメ、多量ノ胎水ヲ失ハザラシムルヲ要ス。一、虚弱ナル婦人、狹窄骨盤、
懸垂腹、又ハ下肢、陰部ニ浮腫ヲ有スルモノ、如キハ、分娩ノ初期ヨリ、産
床ニ就カシムルヲ良トス。

〔第一八八項〕産婦ノ位置并ニ其緊要ナル規則

産婦ノ位置
ハ、産婦ノ便宜ニ從ヒ、或ハ平臥セシメ、若クハ倚座セシム可シ。而シテ陣痛
微弱ナルモノニ在リテハ、交番ニ座位ヲ與ヘ、又ハ平臥セシメ、若クハ種々
ノ臥位ヲ與フルヲ要ス。但シ臥位ノ交換ハ、陣痛間時ニ於テセシム可シ。此
ノ如ク位置ヲ變ズレバ、産婦ヲシテ快カラシメ、且ツ陣痛ヲ増盛セシムル
益アリ。一、若シ又、兒頭容易ニ下降セザルカ、或ハ回轉ヲ營ミ難キトキハ、一
定ノ臥位ヲ取ラシム可シ。即チ其規則トシテ、
「先進ス可キ兒體部ノ存スル側方ニ臥セシム可キコト」

是レ、甚ダ緊要ノ件ナリ。

此故ニ、兒頭若シ右腸骨窩上ニ位シテ下降セザルトキハ、産婦ヲシテ右側

ニ臥セシム可ク之レニ反シ、兒頭ノ左腸骨窩上ニ存スルトキハ、左側ニ臥セシムルヲ要ス。若シ、兒頭既ニ骨盤内ニ入ルト雖ドモ、第一、第二ノ回轉ヲ現ハサズシテ、小顛門ハ下降セズ、且ツ前方ニ回轉セザルトキハ、第一頭蓋位ナレバ、左側ニ臥セシメ、第二頭蓋位ナレバ、右側ニ臥セシム可シ。加之、第三、第四頭蓋位ニ在リテモ、此規則ニ基キ、兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシムルトキハ、小顛門ヲ下降シ且ツ前方ニ回轉セシメ、第一或ハ第二頭蓋位ニ變ゼシムルコトアリ。又、兒頭骨盤内ニ降り、其矢狀縫合、依然トシテ横徑ニ位スルモノ(深在横位)ト雖ドモ、亦、産婦ヲシテ、小顛門ノ側方ニ臥セシムルトキハ、兒頭回轉シテ、其後頭ヲ前方ニ向ハシムルコトアリ。

〔第一八九項〕初生兒眼炎ノ豫防 内検査ノ際ハ、第二編、第卅六章ニ示セルガ如ク、嚴ニ陰部ノ消毒ヲ行ヒ、若シ、多量ノ帶下アルモノハ、必ズ二%石炭酸水一〇〇〇ヲ用ヒ、指ヲ挿入シテ精密ニ洗滌シ、腔内ヲ消毒ス可シ。否ザレバ、淋毒ヲ小兒ノ眼ニ傳ヒ、恐ル可キ初生兒眼炎ヲ誘起セシムルノ危険アルモノトス。(尙ホ第四篇、第四二七項參照)

〔第二一九〇項〕胎水ノ漏泄

卵胞破開シ、胎水漏泄スルトキハ、初産婦ニ在リテハ、爲メニ驚クコトアルガ故ニ、豫ジメ之レニ注意ス可シ。而シテ、羊水多量ナルモノニ在リテハ、受水盤ヲ抵テ、之レニ受ケ收メ、甚ダシク床上ヲ汚染セシメザルヲ便ナリトス。胎水漏泄ノ際、産婆ハ、胎水ニ注意シ、其性質正常ナリヤ、胎尿ヲ以テ着色セラル、コトナキヤ、死胎兒ニ於ケルガ如ク、綠色ヲ呈スルコトナキヤ、異常ノ臭氣ヲ發スルコトナキヤ、ヲ觀察ス可シ。(第八十八章ヲ參看ス可シ) 一若シ適當ノ時期ヲ過グルモ、胎胞自ラ破開セザルトキハ、人工ヲ以テ破開セザル可カラズ、即チ次ノ如シ。

〔第二一九一項〕人工胎胞破開法

子宮口、十分開大セルモ、胎胞破開セズ、分娩遲滞セルカ、若クハ、兒頭骨盤内ニ進入シ、胎胞陰唇間ニ露出セルトキハ、人工ヲ以テ之レヲ破開ス可シ。但シ、之レヲ破開セントスルノ前、善ク胎胞内ヲ檢シ、四肢又ハ臍帶ノ存セザルヤ、否ヤヲ知ラザル可カラズ。(若シ此等ノ存スルヲアラバ、先ヅ之レヲ復納センコトヲ求ム可シ) 而シテ、其破開法ハ、陣痛時ニ、胎胞ノ緊張スルヲ見バ、指頭ヲ以テ、強ク之レヲ薦骨ニ

向テ押壓スルヲ要ス。若シ此ノ如クスルモ尙ホ破開セザルトキハ、カテー
 テル内ノ鐵線ヲ用キ、石炭酸水ヲ以テ消毒シ、示指ヲ嚮導トナシ、注意シテ
 胎胞内ニ刺入スルヲ佳トス。卵膜穿刺法或ハ、ピンセットヲ用キテ胎胞ノ一
 部ヲ挾鉗シ、破開セシムレバ最モ便ナリ。

〔第二一九二項〕胎胞破開後ノ内検査并ニ開口期及び産出
 期ノ内検査 胎胞破開セルノ後ハ、防腐法ヲ行フテ内診シ、子宮口
 ノ全ク開大セルヤ否ヤ、臍帶若シクハ上肢等ノ脱出セルコトナキヤ否
 ヤヲ檢セザル可カラズ。加之、此際必ズ縫合ノ方向、顔門ノ部位ヲ認知セ
 ンコトヲ要ス。何トナレバ、胎胞破開前ニハ、之レヲ知り能ハザルコト多
 ク、而シテ更ニ後期ニ至レバ、産瘤ヲ生ズルガ爲メニ、之レヲ認メ得ザル
 ニ至ルコトアルニヨル。此ノ如クニシテ、臍帶ノ脱出若クハ頭蓋位置ノ
 不正又ハ其他ノ異常ヲ認知セバ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。―其他、開
 口期及ビ産出期ニ於テハ、妄リニ屢内検査ヲ行フ可カラズ。何トナレバ、
 内陰部ヲ不潔ナラシメ、傳染症ヲ誘起セシムルノ害アルニヨル。而シテ、

兒頭、膈内ニ降レバ、内検査ヲ施コサズ、注意シテ會陰ノ膨出スルヤ否ヤ、
 兒頭ノ陰唇間ニ露出スルヤ否ヤヲ觀察ス可シ。此間、屢々心音ヲ檢シ、胎
 兒ノ狀況ヲ察知センコトヲ要ス。

〔第二一九三項〕排尿ノ必要并ニカテーテル送入法 分娩中
 ハ、善ク排尿セシムルヲ要ス。膀胱若シ充滿スルトキハ、爲メニ陣痛微弱ヲ
 發ス可シ。若シ自ラ排尿スルコト能ハザルトキハ、カテーテルヲ用ユ。即チ
 之レヲ三十倍石炭酸水中ニ浸シ、尿道口モ亦、同石炭酸水ヲ蘸セル綿花ヲ
 以テ拭ヒ、カテーテルノ末端ハ、二十倍石炭酸油ヲ塗り、金屬カテーテルナ
 ル時ハ、指ヲ以テカテーテルノ外口ヲ塞ギ、尿道彎曲ノ方向ニ沿ヒテ挿入
 シ、膀胱内ニ達セシメ、塞ゲル指ヲ放チテ尿ヲ流出セシム。若シ兒頭ノ壓迫
 ニヨリ、カテーテルヲ送入シ難キトキハ、他ノ手指ヲ膈内ニ送り、兒頭ヲ壓
 上シ、其壓迫ヲ免レシム可シ。若シ金屬カテーテルヲ用キ、送入シ能ハザル
 トキハ、細クシテ硬キ彈力カテーテルヲ撰用センコトヲ要ス。而シテ尙ホ
 送入シ能ハザルトキハ、之レヲ醫師ニ託センコトヲ要ス。若シ妄リニ強力

ヲ用ユルトキハ、尿道ヲ損傷ス可シ。カテーテルヲ拔去セントスルノ際ハ、再ビ指ヲ以テ其外口ヲ塞グ可シ。否ラザレバ、空氣ハ不潔物ヲ伴フテ膀胱内ニ入り、膀胱加答兒ヲ發セシムルノ害アリ。

〔第一一九四項〕便通ノ注意 開口期ノ末期及び産出期ニ於テ、産婦便意ヲ訴フルモ、決シテ固ニ行カシム可カラズ。否ザレバ、胎兒不意ニ産出シ、若クハ爲メニ甚ダシク會陰ヲ裂傷セシムルヲアリ。蓋シ産出期ニ於テ、頻リニ便意ヲ訴フルハ、通例、兒體ノ直腸ヲ壓迫スルニ基ヅクモノナルガ故ニ、産婦ヲ慰諭シ、妄リニ便通ヲ試マシム可カラズ。

〔第一一九五項〕産婦ノ飲食物 ハ通常之レヲ欲スルコトナキガ故ニ、與フルコトヲ要セザレドモ、若シ渴アルトキハ、水、牛乳若クハ稀薄ノ茶ヲ與フ可シ。但シ分娩長時ヲ費ヤスモノハ、陣痛ノ甚シカラザルノ際、適宜ニ消化シ易キ食品ヲ取ラシメ、體力衰憊スルノ恐レアルトキハ、葡萄酒、肉羔汁等ヲ飲マシムルヲ要ス。

〔第一一九六項〕體温及び脈搏 ハ分娩中時々之レヲ検査シ、若シ、

脈搏甚ダ増進スルカ、又ハ體温三十八度以上ニ至ルコトアラバ、醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ。

〔第一九七項〕努責腹壓 ハ開口期ニ於テハ、之レヲ營マシム可ラズ。胎胞ヲシテ早ク破開セシメ、分娩ヲ遅延セシムルノ害アリ。然レドモ産出期ニ在リテハ、努責スルヲ緊要ナリトス。是レ、管ニ産出ヲ速カナラシムルノミナラズ、陣痛ニ堪ヘ易カラシムル益アリ。

努責ノ方法 兒頭深ク腔内ニ下リ、將ニ外陰部ニ露出セントスレバ、産婦ハ自ラ努責ヲ發ス可シ。此際、産婆ハ、産婦ニ其手及び足ヲ他物ニ固定シ、且ツ呼吸ヲ停止シ、以テ努責ス可キコトヲ教示ス可シ。但シ、過度ニ努カセシムルコトナク、陣痛止メバ則チ之レヲ停止セシムルヲ要ス。若シ又、努責スルコト凡ソ半時間ニ至ルモ、産機進行セザルトキハ、暫ラク休止セシメ、後更ニ之レヲ營マシムルヲ佳トス。第三篇第二三一項參照

〔第一九八項〕會陰及び陰唇間ノ視察 前項ニ記スルガ如ク、

兒頭會陰ヲ膨出セシメ、且ツ、陰唇間ニ露出セバ、則チ會陰防護法ヲ施サ
ル可ラズ。

第六十五章 會陰防護法(并ニ

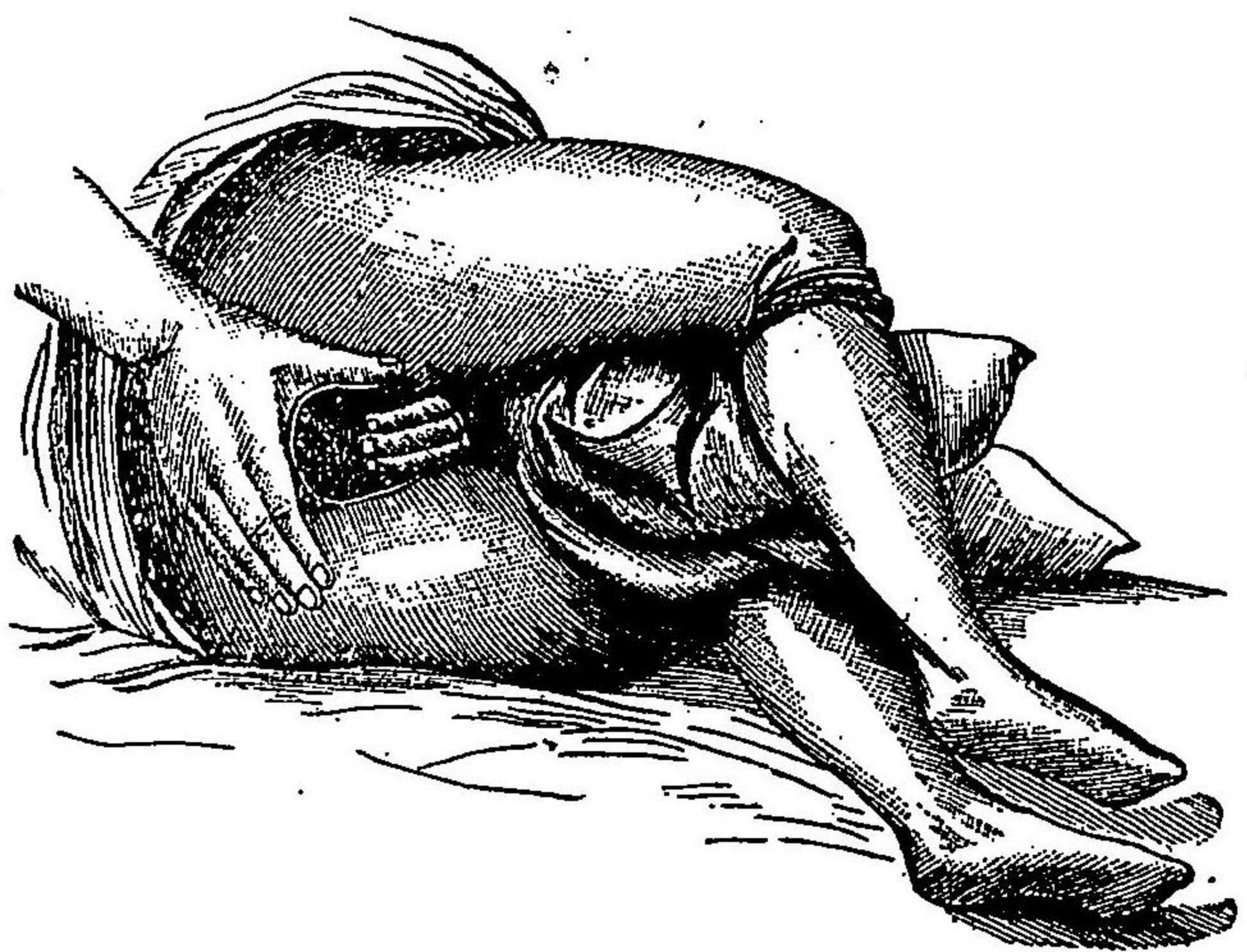
後會陰壓出法)

「第一九九項」會陰防護ノ理由 兒頭會陰ヲ通過シテ産出スル
ノ際若シ其通過スルヲ急速ナルトキハ、大ニ會陰ヲ破裂セシムルガ故
ニ、之レヲ防護セザル可カラズ、而シテ之レヲ防護スルニハ三個ノ要旨
アリ、「一」産婦ニ適當ノ臥位ヲ與フルコト、「二」兒頭ヲシテ會陰ヲ徐々ニ通
過セシムルコト、「三」兩手ヲ以テ會陰ヲ支持スルコト、是ナリ、但シ、會陰防
護ノ際ハ一盤ノ三%石炭酸水ト、脱脂綿又ハ瓦設片トヲ備へ、以テ手及
ビ肛門部ノ洗滌用ニ供ス可シ。

會陰防護法ニ二種アリ 側臥ニ於テスルモノ及ビ仰臥ニ於テ
スルモノ是レナリ。

「第三〇〇項」側臥ニテ會陰ヲ防護スル法

第十八圖 側臥ニ於テ會陰ヲ防護スル法ノ圖



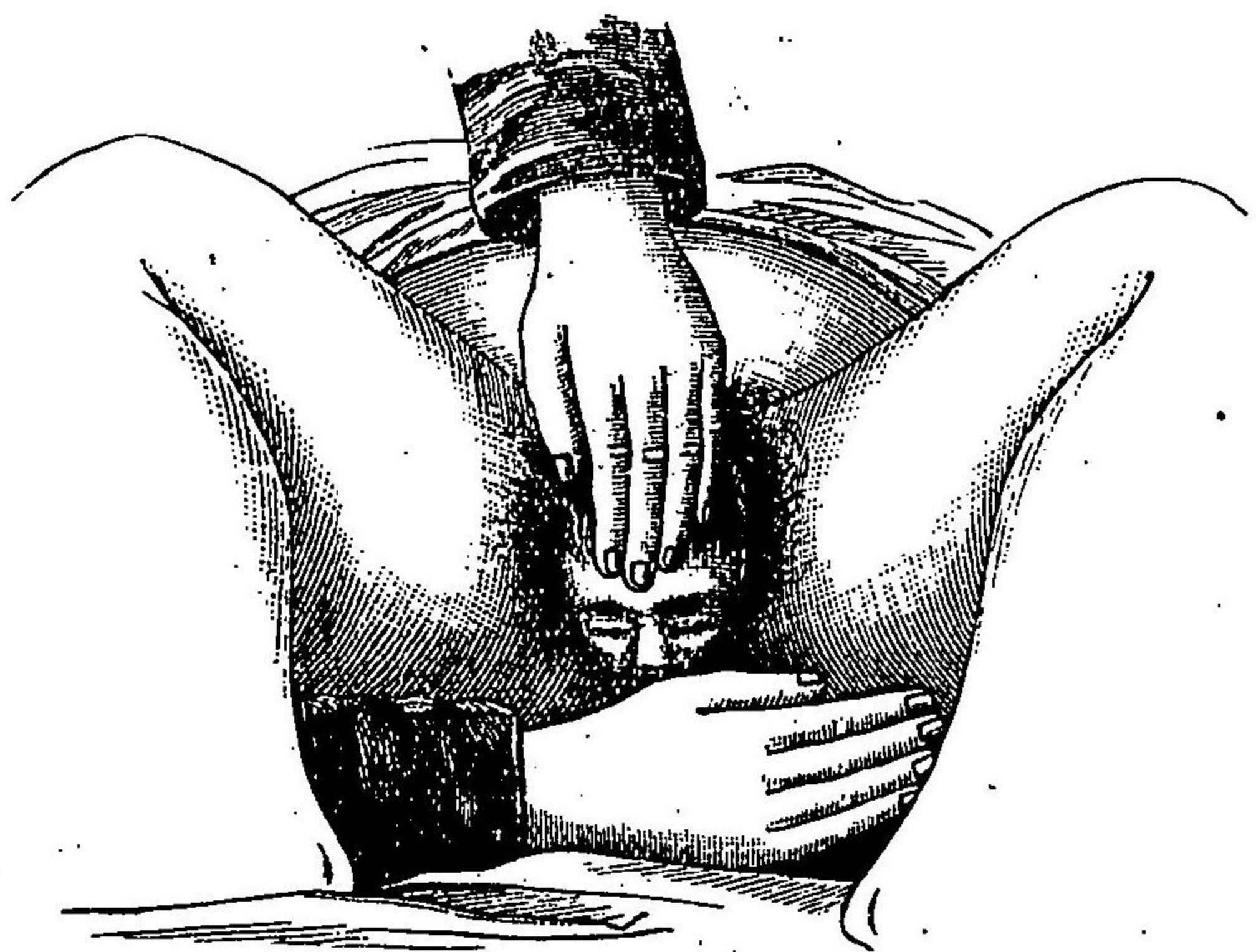
此法ハ殊ニ初産婦ニ適用ス可シ。是レ其部分ヲ明カニ視得ト、施術シ易キノ便アルニヨル。而シテ第一頭蓋位ニ於テハ、左側ニ臥セシメ、第二頭蓋位ニハ、右側臥ニ就カシムルヲ要ス。此ノ如クニシテ、産婦ニ強ク膝ヲ屈セシメ、兩膝間ニ

ハ大ナル枕子ヲ挿入シ、以テ之レヲ離開セシメ、術者ハ産婦ノ背側ニ座ヲ占メ、豫カシメ其手ヲ防腐シ、肛門及び會陰ノ後部ニハ、石炭酸水中ニ浸セ、ハ一片ノ綿花ヲ貼シ、圖ニ示スガ如ク、一手(例之ハ右手)ノ指ヲ伸展シ、拇指ヲ一側ノ陰唇ニ、他ノ四指ヲ他側ノ陰唇ニ抵テ、拇指及び示指ノ中間ヲ、正ニ陰唇繫帶ノ部ニ抵テ、其縁ヲ去ルコト凡ソ半仙迷ナラシム、又、他手ハ恥骨縫際上ヨリ兩脚間ニ送り、其四指ヲ以テ兒頭ヲ支持ス、此ノ如クニ、陣痛發起スレバ、會陰ノ手ヲ以テ兒頭ヲ骨盤内ニ壓シ、恥骨縫際ヨリセル手ヲ以テ、兒頭ヲ前方ニ牽引ス可シ、而シテ、兒頭前進シ、前額露出スルノ際、即チ兒頭最大周圍徑ノ産出スルノ時期ニ於テ、會陰部ノ手ヲ以テ、會陰部ヲシテ顔面ヲ越エテ、頤部ニ至ルマデ推送セシム。

【第二〇一項】仰臥ニテ會陰ヲ防護スル法 産婦ヲ仰臥セシメ、其兩脚ヲ開キ、且ツ屈セシメ、臀下ニハ枕子ヲ挿入シ、少シク之レヲ高クシ、術者ハ産婦ノ右側ニ座ヲ占メ、側臥防護法ニ於ケルガ如ク、其手ヲ防腐シ、綿花ヲ貼用シ、圖ニ示スガ如ク、右手ノ指ヲ並列シ、會陰及び肛門ノ上ニ

第二十八圖

仰臥ニ於テ會陰ヲ防護スルノ圖



貼シ(或ハ便宜ニヨリ、側臥防護法ノ如ク手ヲ貼用スルモ亦佳ナリ)陰唇繫帶ノ部、凡ソ半仙迷ヲ露ハシ、更ニ前法ノ如ク、他手ハ、腹壁上ヨリ兒頭ニ貼シ、陣痛ノ際、側臥防護法ト同一ノ方法ニヨリ、其力ヲ

施コス可シ

〔第三〇二項〕兒頭ヲシテ徐々ニ會陰ヲ通過セシムルニ
産婦ヲ安靜ニシ、努責ヲ禁ジ、手足ニ支持セル物品ハ皆之レヲ除
去スルヲ要ス。若シ此ノ如クスルモ、尙ホ努責スルモノハ、急速ニ深キ呼
吸ヲ營マシムルヲ佳トス。

〔第三〇三項〕防護ス可キ時期 會陰防護法ヲ施コス可キ適當
ノ時期ハ、會陰部頗ル膨出シ、且ツ非薄トナリ、兒頭ノ産出近キニ在ルノ
際ニ於テス可シ。早キニ失スルトキハ、兒頭ノ前進ヲ妨ゲ、且ツ會陰部ノ
十分ニ延張スルヲ妨害ス可シ。但シ初産婦ニ於テハ、經産婦ニ比スルニ、
稍早ク防護スルヲ佳トス。凡テ防護ヲ要ス可キ時期ニ近カバ、手及び
其他ノ準備ヲ整ヒ、直チニ施術シ得ベカラシムルヲ要ス。

〔第三〇四項〕後會陰壓出法 ハ若シ兒頭深ク腔内ニ下リ、而シテ
其露出スルニ至ルマデ、久シク時間ヲ費ヤシ、爲メニ羊水中ニ胎尿ヲ混ズ
ルカ、又ハ、心音緩慢トナルガ如キ、胎兒危險ノ徵ヲ發スルニ當リ、容易ニ産

出セザルトキハ、即チ兒頭ノ後會陰壓出法ヲ行ハザル可ラズ。此ノ如キ場
合ニ於テハ、會陰部球狀ニ膨出シ、尾骶骨ノ尖端ト肛門トノ間若クハ稍々
其側部ニ於テ薄キ皮膚ヲ隔テ、兒ノ前額及び上下顎ノ存スルヲ觸知シ
得可シ。依テ産婦ヲ側臥ニ就カシメ、而シテ第一頭蓋位ニ於テハ左側臥、第
二頭蓋位ニ在リテハ右側臥ヲ與ヘ、手ヲ尾骶骨ト肛門トノ中間ニ貼シ、陣
痛時又ハ陣痛休憩時ニ於テ、顔面ヲ壓出スベシ。此際一手ヲ兒頭ニ加ヘ、其
急劇ノ産出ヲ豫防シ、以テ可及的會陰ヲ損傷セザラシメンコトヲ務ムル
ヲ要ス。

第六十六章 軀幹産出時ノ處置

〔第三〇五項〕兒頭産出後ノ狀況及び肩胛産出ノ處置

兒頭既ニ産出シ、兒體未ダ出デザルニ先チ、多クハ呼吸ヲ發シ、稀レニハ啼
泣スルコトアリ。此際、小兒ノ口鼻ニ粘液ノ附着セルモノナルガ故ニ、注意
シテ小指ノ補助ニヨリ之レヲ除去シ、且ツ綿花若クハ瓦設ヲ以テ其周圍

ヲ拂拭シ、以テ、次回ノ陣痛ヲ待ツ可シ、而シテ、二三分間ヲ經ルモ尙ホ陣痛起ラザルハ、子宮底ヲ環狀ニ摩擦シテ陣痛ヲ喚起シ、且ツ産婦ニ努責セシム、此ノ如クニシテ、兒ノ下顎及び後頭ニ沿ヒテ兒頭ヲ把持シ、先ツ會陰ノ方ニ壓シ、前方ノ肩胛ヲ恥骨弓下ニ産出セシメ、次に兒頭ヲ恥骨ノ方ニ推進シ、以テ、會陰ノ方ニ位セル肩胛ヲ脱出セシム可シ、此際、尙ホ一手ヲ以テ、會陰ヲ防護ヘンコトヲ要ス、一若シ尙ホ肩胛ノ産出シ難キトキハ、兒背ヨリ一手ノ示指ヲ前方ノ腋窩ニ懸ケ、初メハ會陰ノ方ニ牽キテ前肩ヲ出ダシ、次に恥骨縫際ニ向テ引キ、後方ノ肩ヲ脱セシムルヲ要ス、肩胛産出スレバ、他ハ自ラ脱出スルモノナリ、凡ソ兒體ヲ挽出スルニハ、決シテ頭ヲ執リテ牽引ス可カラス、是レ、頸筋及び脊椎ヲ傷クルノ危険アルニヨル。

〔第三〇六項〕頸部臍帶纏絡ノ處置 小兒ノ頸部ニ一回若シクハ二三回ノ臍帶纏絡ヲ呈スルハ、屢々之レアリ、此纏絡ハ解除スルヲ要スレドモ、兒頭ノ産出スルヤ否ヤ之レヲ探リテ解カントラ求ムルハ不可ナリ、肩胛ノ稍々産出スルニ及ビ、輕ク其兩端ヲ牽キ試ミテ、之レヲ緩メ、頭

部ヲ廻ラシテ胸面ニ送り、以テ、纏絡ヲ脱セシム可シ、若シ又、其纏絡セルコト緊密ニシテ脱シ難キコトアラバ、剪刀ヲ以テ切離シ、豫カジメ兩個ノ結紮ヲ施コシ、其中間ヲ切離シ得レバ、更ニ佳ナリ、直チニ軀幹ヲ挽出ス可シ。

〔第三〇七項〕兒體全ク娩出スレバ 側臥セル産婦ハ、靜カニ仰臥セシメ、小兒ハ臍帶ヲ牽引若クハ壓迫スルコトナク、母ノ兩脚間ニ置キ、温メ且ツ清潔ナル襦袢ヲ以テ身體ヲ被ヒ、顔面ヲ自由ナラシメ、大凡ソ五分間ニシテ、臍帶ヲ切離スルニ至ル可シ、若シ、小兒ノ假死ニ陥レルモノニ在リテハ、直チニ臍帶ヲ結紮切離シ、以テ人工呼吸ヲ施サル可カラズ。

○小兒産出シ、臍帶ヲ切離スルニ至ルノ間、手ヲ産婦ノ腹上ニ貼シ、子宮收縮ノ狀ヲ檢シ、且ツ、或ハ尙ホ、一胎兒ノ存スルヲナキヤヲ檢知ス可シ。

小兒若シ、直チニ聲ヲ放チテ啼泣セザルトキハ、手ヲ以テ、輕ク兒ノ臀部又ハ心下ヲ打チ、若クハ冷水ヲ此部ニ灌グ可シ。

第六十七章 臍帶切離法

〔第三〕八項〔臍帯結紮ノ時期及ビ法方〕 小兒産出シ、二三分

若クハ五分間、時トシテハ十分時間ヲ經ルトキハ、臍帯ノ搏動漸ク微弱ト

ナリ。終ニ止ムニ至ル。而シテ呼

吸活潑ナルトキハ、臍帯搏動ノ

止ムコト從テ速カナル者ナリ。

既ニ臍帯ノ搏動止メバ、之レヲ

結紮ス可シ。即チ、小兒ノ臍ヲ隔

ツルコト三指横徑ニシテ、長サ

二十仙迷ヲ有スル結紮紐若シ

クハ麻絲ヲ以テ、第八三圖ニ示スガ如キ結節ヲ造リ、緊シク第一ノ結紮ヲ

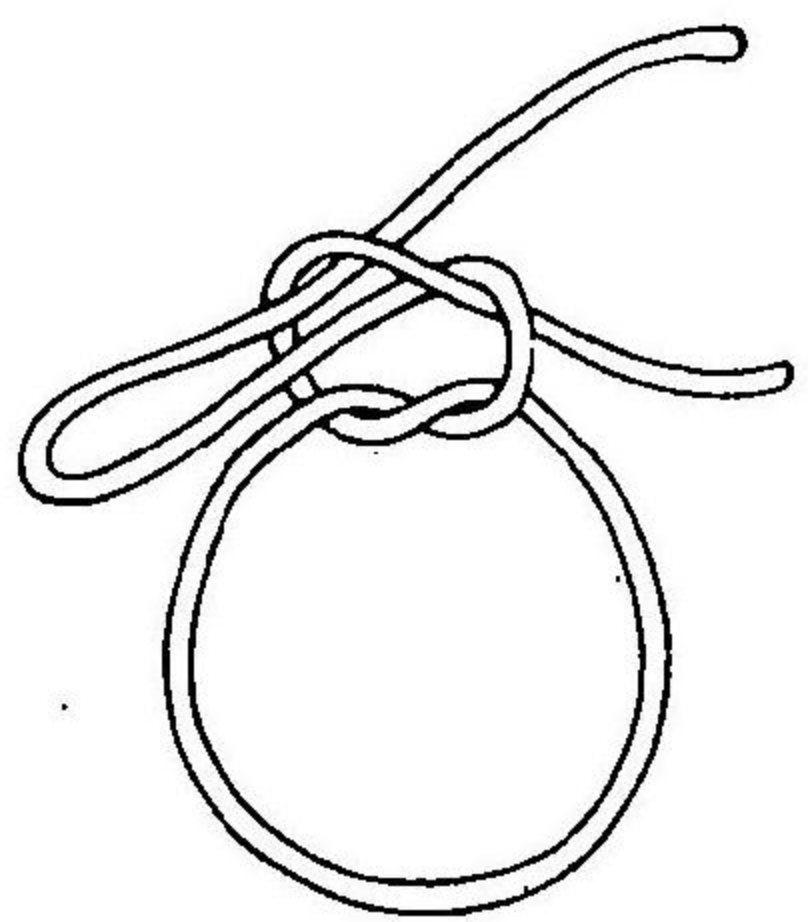
施コシ、次ニ第一結紮ヨリ更ニ三指横徑ヲ隔テ、第二ノ結紮ヲ行ヒ、臍帯

剪刀ヲ取リテ、兩結紮ノ中央ヲ切離ス可シ。此ノ際、一手ヲ以テ剪刀ヲ覆ヒ、

誤テ兒ノ手足ヲ傷ツクルコトナカラシム可シ。此ノ如ク胎盤ノ方ニ第

二ノ結紮ヲ施コス所以ハ、出血ノ爲メニ、妄リニ床上ヲ不潔ナラシムルヲ

第八圖 臍帯結紮ノ圖



クハ麻絲ヲ以テ、第八三圖ニ示スガ如キ結節ヲ造リ、緊シク第一ノ結紮ヲ施コシ、次ニ第一結紮ヨリ更ニ三指横徑ヲ隔テ、第二ノ結紮ヲ行ヒ、臍帯剪刀ヲ取リテ、兩結紮ノ中央ヲ切離ス可シ。此ノ際、一手ヲ以テ剪刀ヲ覆ヒ、誤テ兒ノ手足ヲ傷ツクルコトナカラシム可シ。此ノ如ク胎盤ノ方ニ第二ノ結紮ヲ施コス所以ハ、出血ノ爲メニ、妄リニ床上ヲ不潔ナラシムルヲ

防ギ、又ハ、胎盤ヨリ流出スル血液ヲ防止シ、胎盤ヲ軟カナラシメズシテ、剝離ヲ容易ニシ、且ツ、若シ雙胎ナルトキハ、第二兒ノ血液ヲ失ハザラシムルノ要アルモノトス。

〔第三〕九項〔既ニシテ臍帯ヲ切離シ終ラバ 温カニ小兒ヲ

包被シ、之レヲ傍ニ置キ、若クハ介者ニ渡シ、産婆ハ、抱アルゴトニ子宮ノ

状態ニ注意シ、手ヲ腹上ニ置キ、其弛緩スルコトナキヤヲ觸知ス可シ。

第六十八章 後産期ノ處置

〔第三〕十項〔既ニ後産期ニ至レバ 子宮ハ變小シ、硬固トナリ、

胎盤ハ漸次ニ下降シ、從テ、臍帯モ亦進出スルモノナルガ故ニ、善ク之レニ

注意ス可シ。即チ、前章中ニ述ブルガ如ク、手ヲ腹上ニ貼シテ子宮ノ状態ヲ

檢シ、且ツ、臍帯ヲ徐カニ引キテ、其ノ何レノ部マデ出デ居ルヤヲ記憶シ、以

テ爾後ノ比較ニ供ス可シ。而シテ他ニ異常ナキトキハ、子宮ヲ摩擦シ、若ク

ハ、胎盤ヲ牽出スル等ノ事ヲ試ム可ラズ。然レドモ、子宮柔軟トナリ、變小ス

ルコトナキトキハ、腹上ヨリ輪狀ニ摩擦シ、之レヲ收縮セシムルヲ要ス。其他、外陰部ノ下方ニハ布片ヲ抵テ、以テ出血ノ多少ヲ檢ス可シ。子宮善ク收縮スルノ際、甚ダシク出血アルトキハ、産道ノ損傷ニ基クモノナリ。出血ニ就ヤラハ、第五編、異常分娩ノ處置ナス可シ。

此ノ如クニシテ三十分間ヲ經過スルモ、胎盤ノ下降セザルトキハ、先ツ子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ、産婦ニ努責ヲ命ジ、腹上ヨリ子宮ヲ薦骨ニ向テ壓シ、(一)種ノ胎盤壓出法ナリ。尙ホ産出セザルモノハ、次ノ挽出法ニヨリ、輕ク臍帶ノ牽引ヲ試ム可シ。而シテ二時間ヲ經ルモ、胎盤娩出スルコトナケレバ、茲ニ初メテクレイデ氏胎盤壓出法ヲ行ハンコトヲ要ス。

〔第二一〇項〕胎盤挽出法 臍帶ヲ執リテ、強劇ノ力ヲ加フルコトナク、先ツ下方ニ挽キ、次ニ前方ニ向ハシメ、胎盤ノ一部、外陰部ニ露ハルヲ見バ、新タニ防腐セル手指ヲ以テ之レヲ握ギリ、徐カニ轉振シ、傍ラ之レヲ挽出ス可シ。然ルトキハ、卵膜索狀ヲナシ、多ク破裂ヲ生ズルヲナシ。此ノ如クニシテ、後産ヲ娩出セシムルキハ、盪等ノ如キモノニ載セ、委シク胎盤

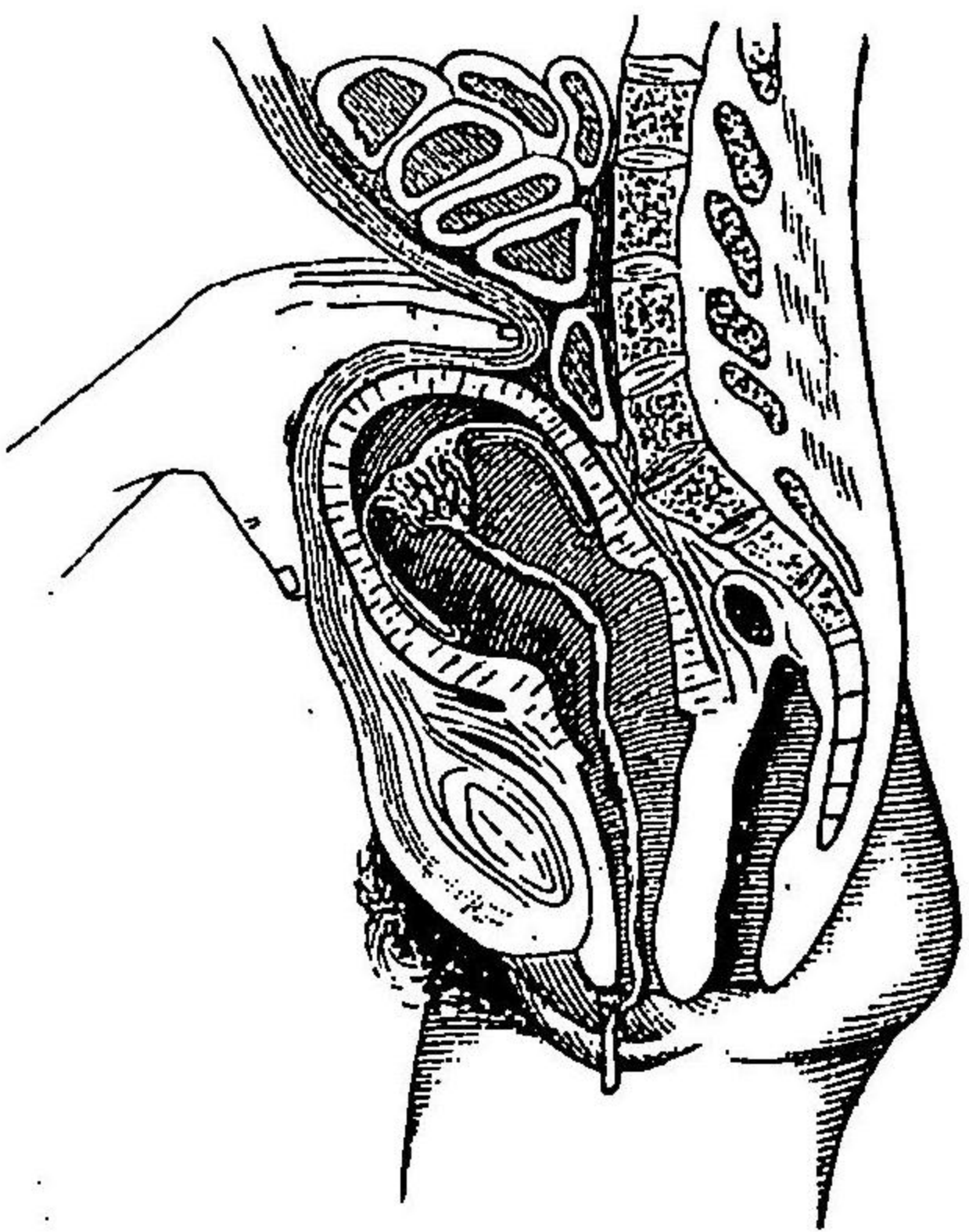
卵膜ノ各部ヲ檢シ、其一部、破裂シテ子宮内ニ遺存セルコトナキヤヲ視ル可シ。後産挽出ノ際、卵膜ノ一片裂ケテ産道内ニ遺存セントスルモノハ、臍帶結紮紐ヲ以テ之レヲ固結シ、以テ胎盤部ヨリ切離シ、消毒法ヲ嚴ニシテ之レヲ放置ス可シ。十二乃至二十四時間ノ後、容易ク抽出シ得ルモノナリ。

〔第二一一項〕クレイデ氏ノ胎盤壓出法

先ツ子宮ヲ腹上ヨ

リ輪狀ニ摩擦シ、陣痛ノ起ルニ乗ジ、一手ノ拇指ヲ子宮ノ前壁ニ抵テ、四指ヲ後壁ニ送りテ、子宮底ヲ把握シ、以テ子宮ヲ骨盤内ニ

第八十圖
クレイ
デ氏胎
盤壓出
法ノ圖



脈ス可シ之レヲクレーデ氏胎盤壓出法ト云フ。此法ハ最モ効アルモノニシテ、之ヲ施コスコト五分乃至十分ナルトキハ、後産ヲ娩出セシムルヲ常トス。只、此法ヲ施コスコト早キニ失スルトキハ、時トシテ未ダ剝離セザル後産片ヲ遺殘セシメ、出血、子宮内膜炎、産褥熱等ヲ誘起セシムルノ害アリ。此等ノ壓出法ヲ施コシ、兼テ挽出法ヲ行ヒ、而シテ尙ホ後産ヲ娩出セシムルコト能ハザルコトアラバ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

〔第二一三項〕出血若クハ胎盤ノ娩出セザル場合 前項

ノ方法ヲ施コスニ係ラズ、小兒娩出後二時間以上ヲ經ルモ胎盤下降セザルカ、若シクハ甚ダシク出血スル時ハ、速カニ醫師ノ來診ヲ請フ可シ。而シテ醫治ヲ求ムルニハ、必ズ事情ヲ記シテ報告スルヲ要ス。

第六十九章 新タニ分娩ヲ終レル産婦ノ處置

〔第二一四項〕陰部及び子宮ノ處置并ニ小兒ノ入浴 後産

全ク娩出スルトキハ、陰部ニ損傷ヲ生ゼシコトナキヤヲ檢ス可シ。即チ産婦ヲ仰臥セシメ、兩脚ヲ屈シ、兩膝ヲ開キ、防腐セル一手ノ拇指及び示指ヲ以テ陰唇ヲ開張シ、之レヲ檢査スルヲ要ス。此際、多量ノ出血アラバ、子宮ノ弛緩ニヨルカ、外陰部又ハ子宮口ノ損傷ニヨルカ、若クハ單ニ子宮内ノ溜血ニ基ツクカヲ檢知ス可シ。此ノ如クニシテ、外陰部ハ二%石炭酸水若クハ二%硼酸水ヲ以テ洗滌シ、若シ、大ニシテ一仙迷以上ニ達スル會陰裂傷アラバ、其狀ヲ記シテ醫ノ來診ヲ請フ可シ。小ナル者ハ、敢テ之レヲ要セズ。單ニ上記ノ防腐液ヲ瓦設ニ浸シ貼用シ、其上ニ乾燥セル綿花若シクハ布片ヲ抵テ、兩脚ヲ收閉シ安臥セシメ、次ニ一手ヲ腹上ニ抵テ、子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ、以テ陣痛ヲ催起セシメ、陣痛發スルトキハ、其手ヲ安靜ニ腹上ニ置キ、此ノ如クニシテ數回反復シ、子宮ノ再ビ弛緩シ増大セザルニ至ル。子宮善ク收縮スルトキハ、兒頭大ニシテ、圓形ナル硬固物ヲナシ、恥骨ノ上方ニ觸知セラレ、モノトス。

此ノ如ク、子宮固ク收縮シ、著シキ出血ナキニ至ラバ、二%石炭酸水ヲ用キ

テ外陰部及び其周圍ヲ洗滌シ、同石炭酸水ニ浸セル綿花及び布片ヲ外陰部ニ貼シ、丁字繻帶ヲ施コシ、之レヲ固定シ、總テ汚染シ濕潤セル物品ヲ去リ、豫ジメ準備セル敷布ヲ以テ交換シ、次ニ腹帶(第三一八項)ヲ施コサントヲ要ス。以上ノ處置ヲ終ラバ、始メテ小兒ヲシテ入浴セシム可シ(第十七章)小兒ヲ浴セシムル間モ、亦、屢子宮ヲ觸診シ、及び陰部ノ布片ニ注意シ、且ツ出血アラバ、産婦ヲシテ直チニ告ゲシム可シ。

〔第二二五項〕後産期中ノ出血 小兒産出後、膺口、前庭等ノ小ナル數多ノ損傷ニヨリ、頗ル多量ノ出血ヲ見ルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、石炭酸水ヲ以テ浸セル綿花又ハ瓦設ヲ固ク陰部ニ壓抵シ、兩脚ヲ收閉セシメ、止血センコトヲ求ム可シ。但シ總テ此ノ如キ際ニハ、一手ヲ子宮部ニ貼シ、其收縮ヲ催進セシムルヲ忘ル可ラズ。●又、後産々出ノ後チ、子宮又ハ膺内ノ溜血頗ル夥シク流出スルヲアリ。但シ、此ノ如ク出血スト雖モ、一時ノ溜血ニ基クモノハ、敢テ恐ルヲ要セズ。即チ子宮ヲ摩擦シ收縮セシメ、且ツ壓迫ヲ施コシ、溜溜セル血液ヲ排除シ、且ツ外

陰部ハ、上述ノ如ク處置シ、止血セシム可シ。大ナル損傷ニ因スル出血若シクハ急性貧血ヲ發スルヲアラバ、即チ直チニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

〔第二二六項〕後産ノ検査 以上ノ處置ヲ終ラバ、後産ヲ検査セザル可ラズ。即チ之レヲ洗ヒ、胎盤及び卵膜ニ、斷裂シ、缺損セル所ナキヤ否ヤヲ視ル可シ。若シ其缺損セル所アラバ、醫師ヲ招カンコトヲ要ス。又後産ハ、時トシテ醫ノ検査ヲ要スルコトアルニヨリ、凡テ異常アルモノハ之レヲ保存シ、加之、正規ナルモノト雖ドモ、其排出後、二時間ヲ經ルニアラザレバ、之レヲ棄テ去ル可カラズ。一時トシテハ、胎盤完全ニ産出スルモ、副胎盤アリテ遺存スルコトアリ。

〔第二二七項〕産婦分娩後ノ處置 分娩後、二三時間ヲ經、以上記スル所ノ必要ナル處置ヲ終ルノ後チ、著シキ出血ナク、子宮ハ善ク收縮シ、他ニ異常ナキトキハ、産婦眠ヲ催スト雖ドモ、妄リニ之レヲ妨グ可ラズ。○次ニ小兒ニ就キテハ、更ニ臍帶ヲ檢シ、出血ノ存スルヲナキヤヲ見ル可シ。此ノ如ク、總テノ處置ヲ終リ、産婦及び小兒ノ共ニ安全ナルヲ見バ、始メテ

産家ヲ去ルヲ得ベシ。初生兒ノ處置ハ、第九十七章ヲ見ル可シ。

〔第二一八項〕**腹帶**　　バ腹壁ノ弛緩ヲ防ギ、子宮ノ收縮ヲ催進スル

ノ益アリ。腹帶ノ最モ簡便ナルモノハ長サ一迷ノ布片ヲ取り、中央、凡ソ

二十仙迷ヲ殘シテ、兩端ヲ各々四片ニ裂キ、産婦ノ腹上ニハ、綿花ヲ置キ

腹帶ヲ背ヨリ廻ラシテ、其兩端ノ各片ヲ、綿花ノ上ニ結合スルニ在リ。

〔第二一九項〕**腔内ノ洗滌**　　腔内ハ、分娩輕易ナル者ニアリテハ、

必ズシモ之レヲ洗フコトヲ要セズ。若シ洗滌ヲ要スルモノハ、必ズ醫師

ノ命ヲ請フ可シ。而シテ、洗滌ヲ施コス際ハ、挿入セルイルリガートルノ

嘴管ヲ以テ會陰ヲ壓シ、善ク洗滌液ヲ流出セシメ、且ツ、脱脂綿ヲ以テ拭

ヒ去ル可シ。

第七十章 金規十則

〔第二二〇項〕**金規十則**　　ハ獨逸國、レオボルド、ツワイフェル兩氏ノ

撰ブ所ニシテ、分娩ヲ處置スルニ當リ、必ズ、常ニ服膺ス可キ所ナリ。即チ

次ノ如シ。

〔一〕**外検査**ハ多キヲ良トシ、内検査ハ少ナキヲ要ス。

〔二〕**胎兒ノ心音**ハ、屢聽取センコトヲ要ス。是レ、心音ハ不意ニ危急トナルコトアルニヨル。

〔三〕理由アルニアラザレバ、胎胞ヲ破ルコトナカレ、殊ニ、子宮口狭キモノハ決シテ破開ス可カラズ。

〔四〕善ク外検査ヲナセバ、内検査ヲ節略スルコトヲ得。蓋シ、外検査ニヨリテ、

頭部、背部及ビ臀部ト胎盤モ亦概テ善ク觸知セラル、モノナリ。

〔五〕**手ト指爪ト**ハ、常ニ、全ク無臭純潔且ツ清潔ナラザル可ラズ。

〔六〕若シ、母體及ビ小兒ニ危険アルヤ否ヤヲ明知セザルコトアラバ、速カニ

醫師ヲ招ク可シ。自負スルコト勿レ、人ハ、其實力ヨリモ賢ナルガ如ク見

セシムルハ、醜キモノナリ。

〔七〕**後産**ハ、忍耐シテ之レヲ待ツ可シ。若シ否ラズシテ、**卵膜ヲ遺殘**セシム

ルコトアラバ、**産婆**ハ、其罪ヲ免ル可カラズ。

第七十二章 第三及び第四頭蓋位(前頭頂位)ノ分娩

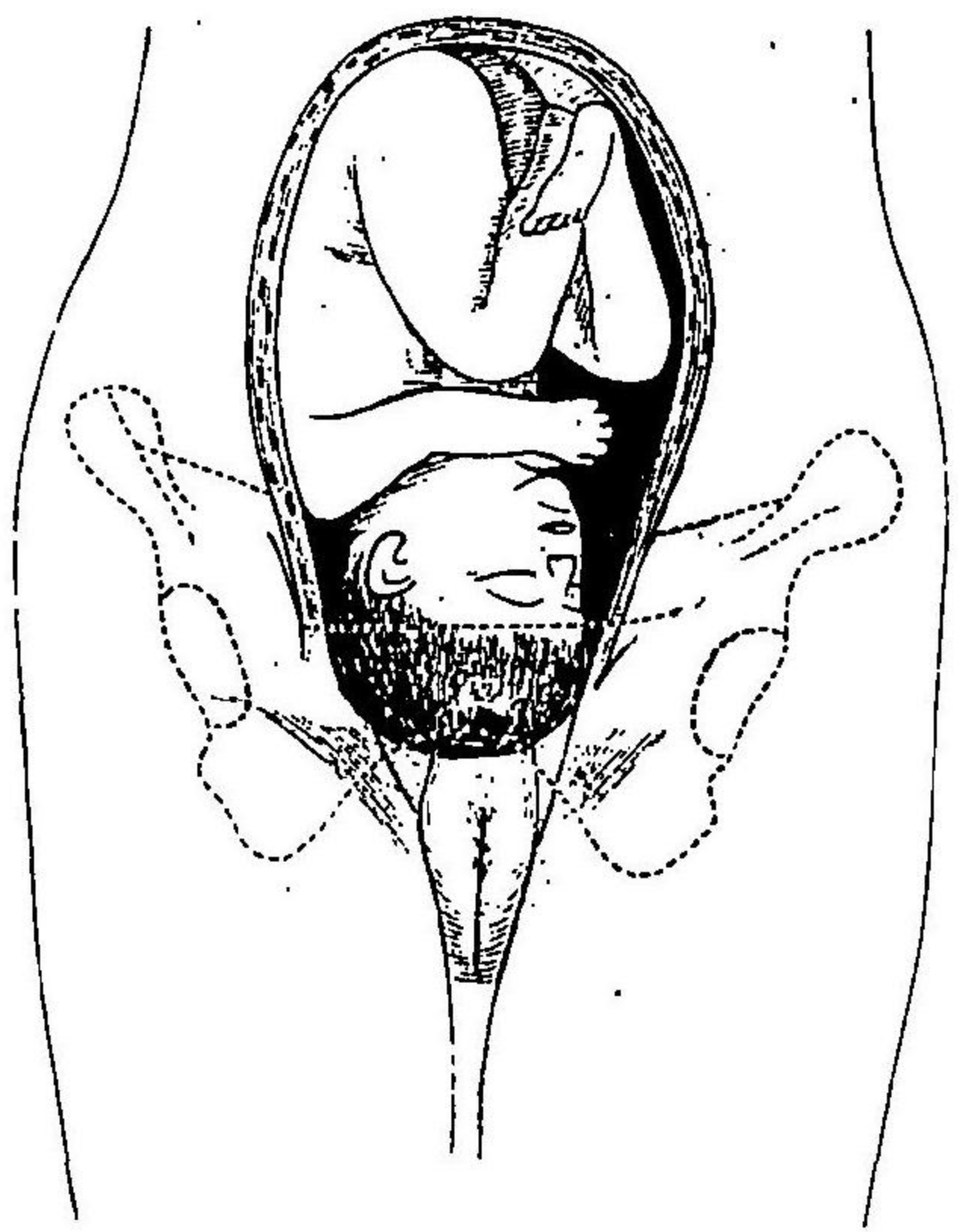
頂位若クハ前頭位)ノ分娩

〔第二二二二項〕第三及び第四頭蓋位 此位置ハ、既ニ第五十八章ニ於テ説述セルガ如ク兒ノ後頭、右後方ニ向ヒ、或ハ左後方ニ對シ、骨盤内ニ進入スルモノニシテ、前頭即チ顛頂部ノ前部初メニ産出スルガ故ニ、前頭位又ハ前頭頂位ト名ク、此位置ハ、小ナル胎兒、圓形ナル兒頭、廣濶ナル骨盤ニ之レヲ見ルコト多シ、而シテ兒頭、骨盤内ヲ通過スルノ際、後頭位第一第二頭蓋位ニ比シ、頭蓋ノ周圍徑大ナルガ故ニ、分娩困難ニシテ、小兒ノ死ヲ致スコト稍々多シ、又、第三及び第四頭蓋位ハ、其前頭、前方ニ位スト雖ドモ、時トシテハ、骨盤内ヲ通過スルニ當リ、全ク回轉シテ、前頭ハ後方ニ、後頭ハ前方ニ向ヒ、變ジテ後頭位トナルコトアリ、即チ第三ハ第二、第四ハ第一頭蓋位トナルモノトス。

〔第二二二四項〕内外検査

外検査ニ就キ、第三頭蓋位ハ第二頭蓋位

第八 前頭位
(第三頭蓋位)
第五 圖



ニ同ジク、第四頭蓋位ハ、第一頭蓋位ト異ナルコトナシ、尙ホ第二五九項及ビ第二六二項ヲ參看ス可シ(第五

十八圖ハ第三頭蓋位第五十七圖ハ第四頭蓋位ヲ示ス併セ見ル可シ)内検査ニ在リテハ、第三頭蓋位ノ大顛門ハ左前方ニ、小顛門ハ右後方ニ位シ、第四頭蓋位ノ大顛門ハ右前方ニ、小顛門ハ右後方ニ存ス。

〔第二二二五項〕器械的作用 兒ノ前頭即チ大顛門ノ部、最モ低ク降り、其顔面ハ左若クハ右ヨリ前方ニ廻リ、前頭結節ノ部位、恥骨弓下ニ止マ

リ後頭ハ會陰部ヨリ産出ス。

〔第三二六項〕處置 敢テ特別ノ方ヲ施コスヲ要セズ。特ニ胎兒ノ小ナル際ヲ然リトス。只第一及ビ第二頭蓋位ニ比スレバ會陰破裂ヲ生ジ易キニヨリ之レニ注意ス可シ。若シ分娩甚ダシク遲延スルトキハ醫治ヲ求めルヲ要ス。

第七十三章 前顛頂骨位及ヒ後顛頂骨位ノ分娩

骨位ノ分娩

〔第三二七項〕前顛頂骨位 ニ在リテハ矢狀縫合骨盤ノ横徑ニ位シ著シク薦骨岬ニ密接シテ存シ。

後顛頂骨位 トハ矢狀縫合同ジク骨盤ノ横徑ヲ占メ且ツ甚ダシク恥骨ニ近接セル者ナリ。此ノ兩位置ハ通例狹窄骨盤若クハ過大ナル胎兒ニ基因セルモノニシテ到底自ラ分娩シ能ハザルヲ常トス。故ニ速カニ醫治ヲ求めム可キモノトス。

第七十四章 頭蓋位深在横位ノ分娩

〔第三二八項〕頭蓋位深在横位 兒頭骨盤内ヲ下降スルニ當リ、第二回轉ヲ營マズ爲ニ骨盤腔内ニ至ルモ其矢狀縫合依然トシテ横徑ニ位シ時トシテハ骨盤出口ニ達スルコトアリ之レヲ頭蓋位深在横位ト云フ。此ノ如クナルトキハ兒頭兩坐骨間ニ嵌入シ産機全ク停止ス可シ。此變狀ハ兒頭圓形ナルカ若クハ扁平骨盤ナルニヨリテ發スルモノナリ。

〔第三二九項〕處置 産婆ハ産婦ヲ兒ノ後頭ノ位セル側方ニ臥セシメ以テ兒頭ノ回轉ヲ促サンコトヲ要ス。若シ兒頭回轉セズ分娩遲延スルトキハ速カニ産科醫ヲ招聘センコトヲ要ス。

第七十五章 顔面位ノ分娩

〔第三三〇項〕顔面位トハ 前頭ヲ伸展シ胸ヲ突出シ後頭ハ背ニ

密着シ顔面初メニ骨盤内ニ進入スルモノナリ。此位置ハ稀レニシテ凡ソ三四百回ノ分娩中一回アリトス。

【第二三三三項】顔面位ノ區別 顔面位ニ二種アリ。第一顔面位及ビ

第二顔面位ト云フ。【甲】第一顔面位トハ、其背及ビ前額、母體ノ左側ニ向フモ

ノ乙第二顔面位トハ、母體ノ右側ニ於テ兒背及ビ前額ノ位セルモノナリ。

【第二三三三項】顔面位ノ外検査法 第一顔面位ニ於テハ、其胸、母

第六十八圖

顔面位(第一顔面位)



體ノ右側ニ於テ、廣キ面ヲナシテ觸知シ、茲ニ心音ヲ聽クベシ。臀部ハ足部ト共ニ子宮底ノ左側若クハ中央ニ位シ、骨盤入口上ニハ、兒

頭ヲ觸知ス可ク、殊ニ後頭ハ左方ニ於テ、兒ノ背面ヨリ著シク突隆セルヲ知ル可シ。●第二顔面位ニ在リテハ、此等ノ部分、左右全ク相反セルヲ檢知ス可シ。但シ、外検査法ニヨリ明カニ第一及ビ第二顔面位ヲ識別スルコト能ハズシテ、或ハ第一位ヲ第二位トナシ、或ハ之レニ反シ、第二位ヲ第一位ト誤認スルコトナキニアラズ。之レヲ詳カニ識別センニハ、内検査法ニヨルヲ要ス。

【第二三三三項】顔面位ノ内検査法 内検査ヲ施コスゴトキハ、顔

面ヲ觸知セラル。此際、注意シテ、顔面殊ニ眼ヲ損傷セシム可ラズ。但シ、兒頭

尚ホ高ク位シ、胎胞存在スルトキハ、顔面ヲ識別スルヲ得ザルコトモ亦之

レアリ。而シテ觸診ノ際、第一顔面位ニ於テハ、骨盤入口内ニ横ニ位セル

鼻梁ヲ觸ル可ク、鼻梁ニ沿ヒ、左方ニ到ルトキハ、前頭縫合ニ達シ、右方ニ於

テハ、口及ビ頤部ヲ觸知セラル。第二顔面位ナルトキハ、其左右ノ方向、之レ

ニ相反ス可シ。●凡ソ顔面位ニ於テハ、前頭縫合ヨリ、鼻梁ヲ通り、頤ノ中央

ニ達スル線路ヲ、顔面線ト云フ。前ニ記セル所ハ、此顔面線、骨盤入口内ニ於

テ、其横徑ニ位セルモノナリ。又、右側(母體ノ)ニ位セル顔面ノ半部即チ頤部ハ、爾後最モ深ク位シ、産出ノ際、先進部ヲナスモノトス。

【第二三四項】第一顔面位ノ器械的作用

前項記スル所ノ位置ヲ取り、顔面骨盤内ニ進入スルトキハ、先進セル頤部、前方ニ廻リ、骨盤腔内ニ於テ、顔面ハ第二斜徑線ト一致ス。次ニ骨盤下口ニ至レバ、顔面益回轉シ、其顔面線ハ遂ニ骨盤ノ直徑線ニ合シ、爾後、右頰部及び右口角部、最初ニ陰裂間ニ露出シ、頤部ハ恥骨弓下ニ抵止シ、茲ニ於テ、初メニ顔面、次ニ前額、顛頂ヨリ、終ニ後頭ニ至ルマデ會陰部ヨリ産出ス。●兒頭既ニ産出スレバ、顔面ハ右ニ向ヒ、肩胛ハ左斜徑即チ第二斜徑ヨリ骨盤内ニ入り、骨盤出口ニ至レバ、右肩ハ恥骨弓下ニ出デ、左肩ハ會陰部ヨリ産出シ、兒體モ亦タ直チニ娩出スルコト、第一頭蓋位ニ異ナルコトナシ。―産瘤ハ顔ノ右側ニ生ズ、且ツ顔面ハ横ニ壓縮セラレ、甚ダシク醜形ヲ呈ス。

【第二三五項】第二顔面位

ニ於テハ、内検査ヲ施コスニ、前額、右方ニ頤部、左方ニ向ヒ、顔面骨盤内ニ進入スルトキハ、頤部、前方ニ廻リ、恥骨縫

際下ニ出デ、第一顔面位ノ如ク産出シ、其顔面、左腿ニ向ヒ、次ニ肩胛ハ第一斜徑線ヨリ骨盤内ニ入り、左肩、恥骨縫際下ニ出デ、右肩ハ會陰部ヨリ産出ス。―産瘤ハ、顔ノ左側ニ現ハル、顔面ハ壓縮セラレ、甚ダシク醜形ヲ呈ス。

【第二三六項】顔面位分娩ノ難易

顔面位ニ於テハ、先進部ノ周徑、大ナルガ故ニ、分娩頗ル困難ナリ。且ツ小兒ノ死亡數ハ十三%ノ多キニ至ル。此ノ如ク死亡數ノ多キ所以ハ、分娩困難ニシテ時間ヲ費ヤスノ外、小兒ノ伸展セル頸部ハ、産道ノ壓迫ヲ蒙リ、爲メニ血行不良トナリ、腦ノ鬱血ヲ起スニヨル。鬱血トハ、血液ノ還リ流ル、コト不良ニシテ、靜脈血ノ鬱滯スルヲ云フ。又充血ト名クルコトアリ。血液ノ流入スルコト多量ニシテ、動脈血ノ充積スルヲ云フ。又、初産婦ニ於テハ、顔面位ノ分娩甚シク困難ナリトス。―若シ顔面位ニシテ、頤部、前方ニ廻轉セズ、却テ後方ニ向フトキハ、甚ダシク不良ニシテ、到底自ラ分娩スルコト能ハザルモノトス。

【第二三七項】顔面位分娩ノ處置

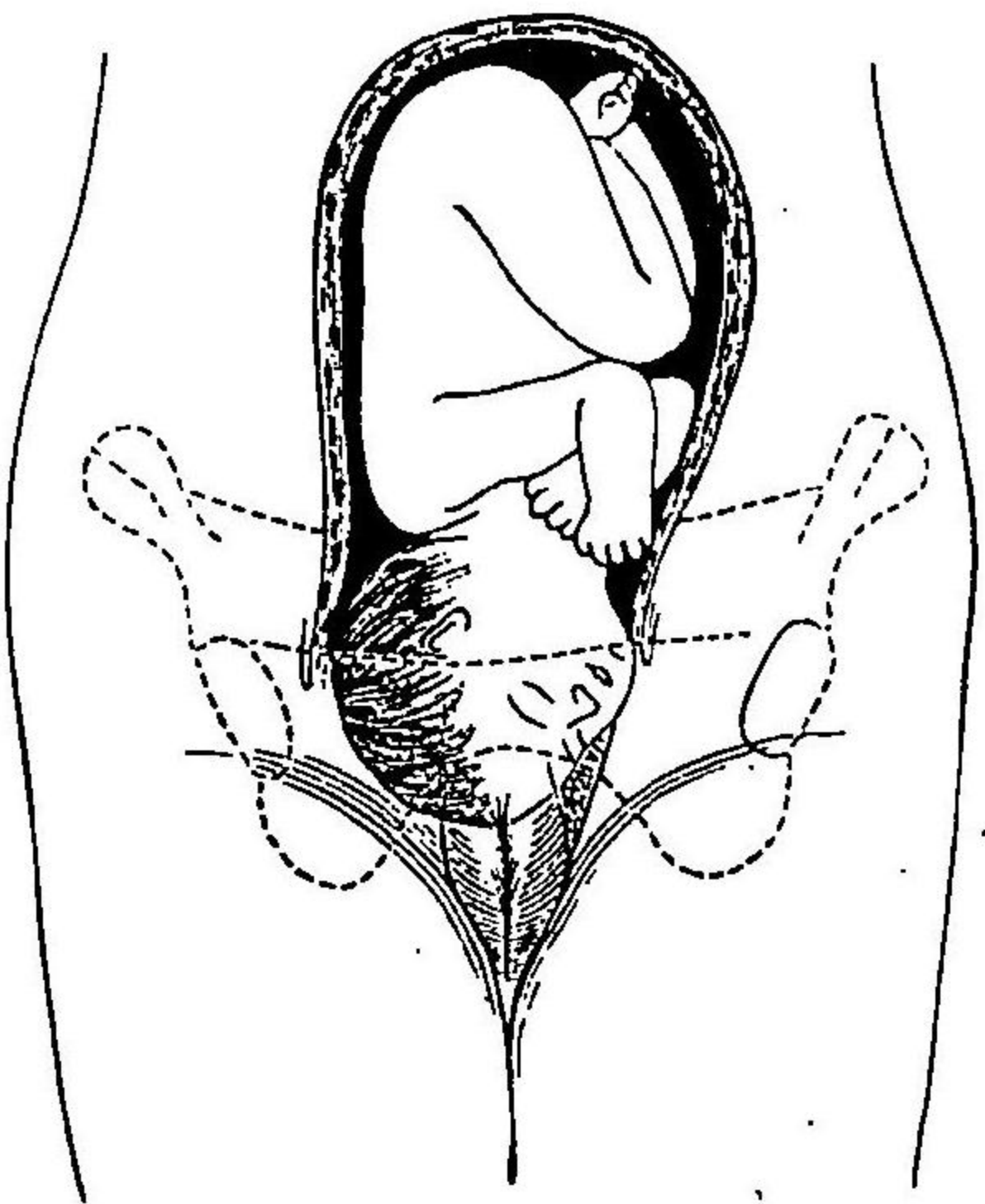
顔面位ハ、多クハ自ラ分娩ヲ

費○ミ○得○ル○ガ○故○ニ○必○ズ○シ○モ○醫○治○ヲ○求○ム○ル○ヲ○要○セ○ザ○レ○ド○モ○若○シ○分○娩○時○間○ヲ○
 費○ヤ○シ○願○部○前○方○ニ○回○轉○セ○ズ○又○ハ○却○テ○後○方○ニ○向○フ○モ○ハ○速○カ○ニ○醫○師○ノ○處○
 置○ヲ○求○ム○ル○ヲ○要○ス○而○シ○テ○產○婆○自○ラ○之○レ○ヲ○處○置○ス○ル○ニ○ハ○骨○盤○端○位○ニ○於○ケ
 ル○ガ○如○ク○早○期○ノ○努○責○ヲ○禁○ジ○内○診○ヲ○慎○重○ニ○シ○務○メ○テ○胎○胞○ヲ○長○ク○保○存○セ○シ
 ム○ル○ヲ○要○ス○而○シ○テ○產○婦○ノ○臥○位○ハ○兒○願○ノ○向○ヘ○ル○側○方○ニ○就○カ○シ○メ○胎○胞○既○ニ
 破○ル○ハ○後○ハ○殊○ニ○注○意○シ○テ○内○診○ヲ○施○コ○シ○小○兒○ノ○眼○ヲ○損○傷○セ○シ○ム○可○ラ○ズ○
 會○陰○防○護○法○ハ○側○臥○ノ○位○置○ニ○於○テ○之○ヲ○行○フ○可○シ○妄○リ○ニ○壓○迫○ス○ル○ト○キ○ハ○兒
 ノ○頸○部○ヲ○恥○骨○ニ○押○壓○シ○其○ノ○血○行○ヲ○妨○ゲ○死○ニ○至○ラ○シ○ム○ル○コ○ト○ア○リ○●○兒○頭
 既○ニ○娩○出○ス○ル○ト○キ○ハ○其○ノ○他○ノ○處○置○ハ○頭○蓋○位○ト○異○ナ○ル○コ○ト○ナ○シ○只○小○兒○ノ
 醜○キ○顏○貌○ハ○直○チ○ニ○之○レ○ヲ○產○婦○ニ○見○セ○シ○ム○可○カ○ラ○ズ○

第七十六章 額位ノ分娩

「第三三八項」額位 トハ前額部ヨリ初メニ産出スルモノニシテ
 極メテ稀レナリ内診スルニ骨盤入口ノ中央ニ前額ヲ觸レ一側ニハ大

第八十七圖
 額位(第一額)ノ圖



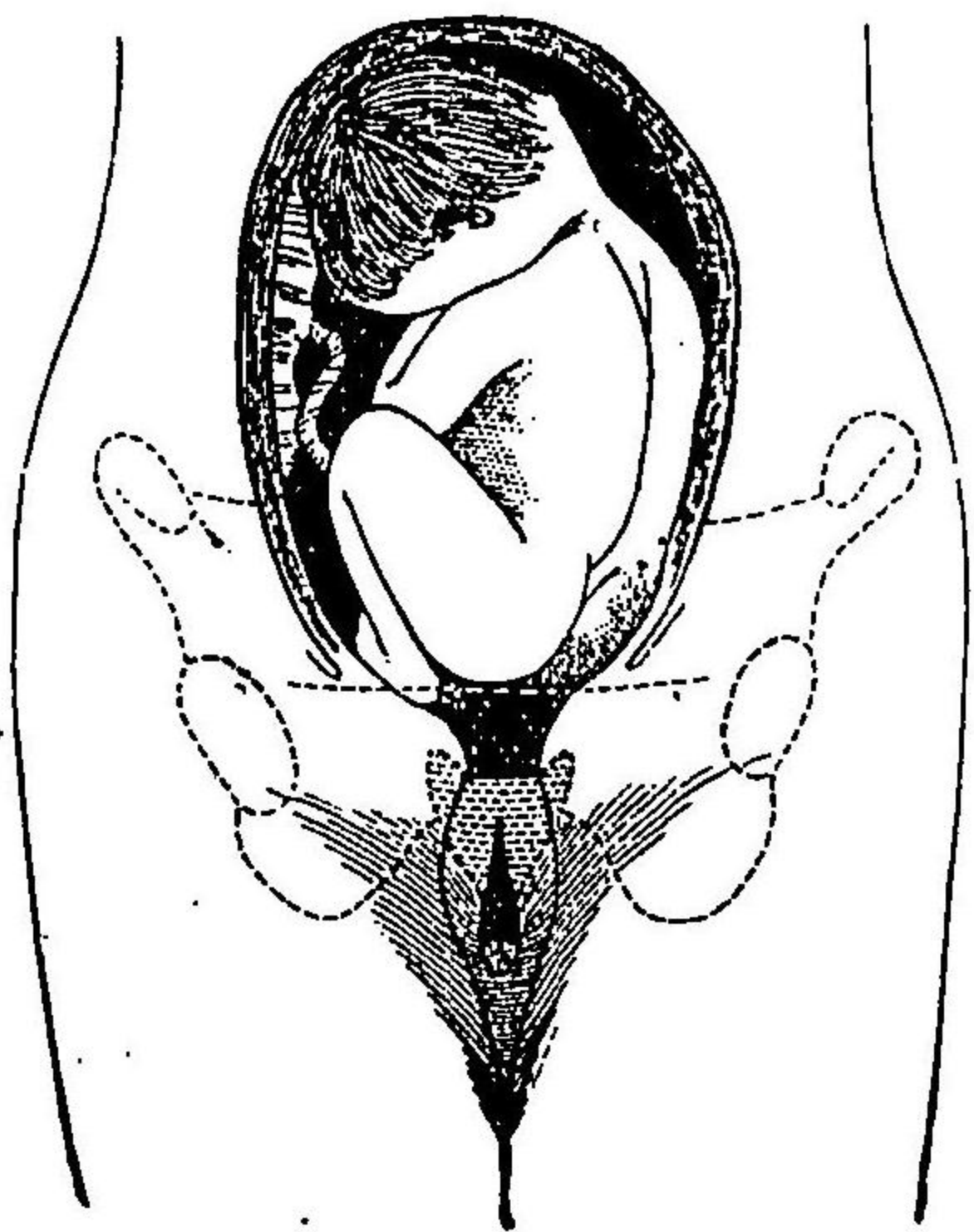
腸○ス○是○レ○ヲ○以○テ○速○カ○ニ○醫○師○ヲ○聘○ス○可○シ○而○シ○テ○其○來○診○ス○ル○ニ○至○ル○マ○デ
 ハ○產○婦○ヲ○兒○ノ○顏○面○ノ○存○セ○ル○側○方○ニ○臥○セ○シ○メ○以○テ○顏○面○位○ニ○變○ゼ○シ○メ○ン
 コ○ト○ヲ○求○ム○ル○ヲ○良○ト○ス○

額門他側ニハ鼻
 梁ノ存スルヲ知
 ル可シ此位置ヲ
 取ルトキハ兒頭
 大斜徑ヲ以テ骨
 盤内ニ進ミ其周
 徑最モ大ナルガ
 故ニ頭位中最モ
 困難ナル分娩ニ

第七十七章 骨盤端位

「第三三九項」骨盤端位 トハ小兒ノ骨盤部母ノ骨盤入口内ニ位スルモノヲ云フ而シテ前章既ニ述ブルガ如ク其先進部ノ臀部ナルト膝部

第 八 十 八 圖
第(一)位(位臀)



ナルト若シクハ足部ナルトニヨリ之レヲ臀位膝位及ビ足位トナス足位ノ中更ニ全足位及ビ不全足位ノ二者ヲ區別ス就中最モ多數ナルヲ臀位トナス又骨盤端位ハ

多産婦狭窄骨盤及ビ流産兒若シクハ早産兒ニ於テ屢之アルモノナリ。
「第三四〇項」各骨盤端位ノ區別 臀位其他ノ各骨盤端位ニ於テハ顔面位等ニ於ケルガ如ク第一及ビ第二位ヲ區別ス今臀位ニ就テ之

レヲ云ヘバ其兒背ノ左ニ向フモノヲ第一臀位ト名ケ右ニ對スルヲ第二臀位ト稱ス其他膝位及ビ足位モ亦之レト異ナルヲナシ。

第七十八章 臀位ノ分娩

「第三四一項」臀位 ニ於テ兒背左ニ向フトキハ第一臀位右ニ對スルトキハ第二臀位ト名クルコト既ニ前章ニ述ブルガ如シ。

「第三四二項」外検査 ヲ施コストキハ子宮底ノ中部若クハ側部ニ於テ圓形硬固ナル兒頭ヲ觸知シ恥骨ノ上方ニ稍々柔軟ナル臀部ヲ見ル可シ心音ハ臍部ノ高サ若シクハ其上方ニ在リテ第一臀位ナルトキハ左側第二臀位ナルトキハ右側ニ聽取ス可シ小體部ハ深く下腹内ニ位シ時トシテハ全ク觸知シ難キコトアリ。

「第三四三項」内検査 ヲ行フトキハ脛穹窿部ヲ隔テ柔軟ニシテ不正圓形ナル臀部ヲ觸ル可ク而シテ臀部ノ一側ニハ尖リタル尾骶骨ト其上方ニ在リテ背面不平ナル薦骨ヲ探知ス可ク又臀部ノ前方ニハ小ニシ

テ移動ス可キ足部アリ、指ヲ以テ之レニ觸ル、トキハ容易ク逃去スルモノナリ。○子宮口開大スルトキハ、卵膜尙ホ存スト雖ドモ、指ヲ以テ詳カニ臀部ノ周圍ヲ觸知ス可シ。

第七十九章 臀位分娩ノ器械的作用

第三四四項第一臀位分娩ノ器械的作用
ニ在リテハ、胎兒腰部ノ廣徑、骨盤入口内ニ於テ、多クハ第二斜徑ニ位シ(稀レニハ横徑ニ、最モ稀レニハ第一斜徑ニ位スルヲアリ、第一斜徑ニ在ルトキハ、背面左後方ニ向フ)骨盤内ニ於テハ、常ニ第二斜徑ヲ取り、骨盤出口ニ至レバ、左ノ臀部、右前方ヨリ恥骨縫際下ニ至リテ止マリ、右臀ハ會陰部ヨリ出デ、臀部全ク産出スレバ、腹面ハ母體ノ右腿ニ向フ。足ハ高ク舉上シ、胸部ト共ニ露ハレ、若シクハ膝ヲ屈シ、臀部ニ沿ヒテ位シ、之レト共ニ産出ス可シ。次デ、肩胛ハ第二斜徑ニ就キテ骨盤内ヲ下リ、下口ニ至ルニ從ヒ、臀部ノ産出スルガ如ク左肩ハ先ヅ恥骨縫際下ニ至リテ停止シ、右肩ハ會陰部ヨリ出デ、遂ニ兩

肩胛全ク産出ス。此際、兩上肢ハ胸前面ニ於テ交叉シ、共ニ外陰部ニ露ハレ、爾後、兒頭ハ屈伏セル位置ヲ取り、頤部、胸上ニ接着シ、兒頭ノ直徑、骨盤入口ノ横徑若クハ第一斜徑ト一致シテ、其腔内ニ進入シ、漸次ニ回轉シテ、後頭ハ恥骨縫際下ニ至リ、頤部ハ始メニ會陰部ヨリ産出シ、顔面、顙頂部之レニ次ギ、遂ニ全ク娩出スルニ至ル。一産瘤ハ先進臀部即チ左臀ニ位シ、生殖器ニ至ルマデ蔓延ス可シ。

第二四四項第二臀位分娩ノ器械的作用 第二臀位ニ在リ

テハ、兒背、右ニ對シ、腰部ノ廣徑ハ第一斜徑若クハ横徑(稀レニハ第二斜徑)ニ就キテ骨盤内ニ進ミ、回轉シテ、右臀部、恥骨弓下ニ來リ、左臀部始メニ會陰部ヨリ出デ、兒ノ腹面ハ母體ノ左腿ニ對向シ、肩胛ハ第一斜徑ヨリ同ジク骨盤内ニ入り、右肩胛、恥骨弓下ニ來リ、左肩胛初メニ會陰部ヨリ露ハレ、兒頭ハ、頤部ヲ胸上ニ接着シ、其直徑ハ、骨盤ノ横徑若クハ第二斜徑ニ就キテ、骨盤腔内ニ進ミ、回轉シテ、其後頭、恥骨弓下ニ止マリ、頤部初メニ會陰部ヨリ出デ、遂ニ全ク産出ス可シ。手及ビ足ノ産出ハ、第一臀位ト異ナルコト

ナシ。産瘤ハ右臀ニ位シ、陰部ニ波及ス。

第八十章 臀位ノ異常ナル分娩

「第三四六項」異常ナル臀位

時トシテハ、臀位ニシテ、兒背後方ニ向ヒ、臀部若クハ肩胛ノ産出セル後チ、回轉シテ前方ニ向フコトアリ。若シ、終ニ此回轉ヲナサル時ハ、兒頭、骨盤内ヲ通過スルノ際、其顔面前方ニ向ヒ、後頭ハ會陰部ニ對シ、其分娩困難ナルモノトス。

第八十一章 足位ノ分娩

「第三四七項」足位

ニ全足位及ビ不全足位ノ二種アリ、且ツ各足位ニ第一足位及ビ第二足位アルハ既ニ之レヲ記述セリ。

「第三四八項」内外検査

外検査ニヨルニ、足位ハ臀位ト區別スルコト能ハズ、内検査ヲ施コストキハ、足ヲ觸知ス可ク、而シテ胎胞尙ホ存スト雖ドモ、足ノ形状ニヨリ、手ト區別シ得可シ、即チ足趾ハ長クシテ一方ニ

踵ヲ有シ、趾ハ短クシテ運動スルコト少ナク、踵趾ハ、手ノ拇指ト異ニシテ、他ノ趾ヨリ離開セシムルコト難キモノトス。

「第三四九項」足位ノ器械的作用

ハ第一足位ハ第一臀位ト同ジク、第二足位ハ第二臀位ト異ナルコトナキモ、軀幹及ビ頭部ノ娩出スルコト稍々容易ナラザルモノナリ。是レ先進部ノ小ナルガ爲メニ、産道ノ開大スルコト不充分ナルニヨル。

第八十二章 膝位ノ分娩

「第三五〇項」膝位

ハ子宮口内ニ、膝ヲ先進シ來レルモノニシテ、外検査、器械的作用及ビ分娩ノ處置ハ、概テ足位ト異ナルコトナク、且ツ、大腿ニ至ルマデ産出スレバ、足位ニ變ズ可シ。但シ、膝ハ内検査ニヨリ、横位ニ於ケル手ノ肘部ト區別シ難キコトアリ。此場合ニ於テハ、速カニ醫治ニ委ヌ可キモノトス。

第八十三章 骨盤端位分娩ノ利害

「第二五二項」骨盤端位分娩ノ害ナキ場合 陣痛強盛ニシテ骨盤廣ク小兒過大ナラズ軟部産道善ク延張シ得ルトキハ、毫モ母兒兩體ニ害ナクシテ、自ラ分娩ヲ遂グルコトヲ得可シ。若シ之レニ反シ、陣痛其他ノ事項ヒニ述ブル所ト相反對スルトキハ、多少害ナキコト能ハズ。

「第二五二項」各骨盤端位分娩ノ難易 骨盤端位ニシテ就中佳良ナルハ臀位ナリ。不全足位ハ之レニ次ギ、全足位最モ不良ナリ。是レ、全足位ナルトキハ、産道ヲ開大スルコト最モ不充分ナルガ故ニ、肩胛及ビ頭部ノ産出スルニ際シ、甚ダシク支障多キニ因ル。加之、全足位ニ於テハ、産道ヲ壓開スルコト少ナキニヨリ、産婦ハ有益ナル腹壓ヲ營ムコト少ナク、且ツ、安リニ不法ノ牽引ヲ試ラレ易ク、然ルトキハ、爲メニ小兒ノ膈ハ胸上ヲ離レ、上肢ハ容易ク舉揚シ、大ニ娩出ノ害ヲ醸ス可シ。又、小兒ヲシテ甚ダ死ニ陥リ易カラシム。

「第三五三項」骨盤端位小兒ノ死亡シ易キ理由 ハ凡ソ三

アリ、「一」臍帶ノ壓迫、「二」胎盤ノ剝離、「三」胎水早期ノ流泄トナス。之レヲ次ニ説述ス可シ。

「一」臍帶ノ壓迫 骨盤端位ニ於テハ、臍部マデ産出スルモ、産道ノ開クト尙ホ小ニシテ、肩胛及ビ頭部ハ頗ル大キク、爲メニ臍帶ヲ壓迫ス可ク、且ツ、分娩ハ時ヲ費ヤスト多シ。而シテ臍帶ノ壓迫セラル、ト五分間以上ナルトキハ、小兒ヲシテ死ニ至ラシム。○又、臀部ハ小ニシテ、骨盤入口ヲ充塞セザルニヨリ、臍帶脱ヲ發スルコトアリ。然ルトキハ、更ニ早く臍帶ノ壓迫ヲ生ズ可シ。

「二」胎盤ノ剝離 骨盤端位ニ於テハ、兒頭未ダ産出セザルニ當リ、子宮ノ變小スルガ爲メニ、胎盤ノ剝離ヲ生ジ易ク、以テ、小兒ヲ死ニ至ラシムルコトアリ。

「三」胎水ノ早期流泄 骨盤端位ニ在リテハ、頭蓋位ト異ニシテ、其先進部小サク、産道ヲ充塞セザルガ爲メニ、胎水ノ全部、直チニ胎胞ノ上ニ押

脈シ來ルモノトス。此故ニ、産婦ノ努力若シクハ粗暴ナル検査ニヨリテ、容易ニ胎胞破裂シ、胎水ノ早期流泄ヲ致ス可シ。而シテ胎水早ク流出スルトヤハ、子宮縮小貧血シ、胎盤ノ物質交換不良トナリ、加之胎胞ノ缺クルニヨリテ、子宮口ノ開クコト遅ク、分娩時ヲ費ヤシ、爲メニ胎兒ヲ死ニ陥ラシムルコトアリトス。

「第三五四項」母體ニ於ケル害 母體ニ於テハ、手術ヲ受ルコト多クニヨリ、容易ニ傳染症ヲ發スルノ危険アリ。又、初産婦ニ在リテハ、頭蓋位ニ比スルニ、大ナル會陰破裂ヲ生ズ可シ。是レ、小兒ノ危害アルガ爲メニ、善ク會陰防護法ヲ行フ能ハザルコト多キニヨルモノトス。

第八十四章 骨盤端位分娩ノ處置

「第三五五項」骨盤端位分娩處置ノ要領 豫ジメ妊娠ノ末期ニ際シ、骨盤端位ナルコトヲ檢知セバ、外回轉術ニヨリテ之レヲ頭蓋位ニ整復スルヲ緊要ナリトス。既ニ分娩時ニ至リ、此位置ヲ取レルモノニ在リ

テハ必ズ先ヅ産科醫ヲ招聘シ、消毒ニ要スル藥液、産床用諸品、小兒ノ回生術ニ用ユ可キカタテテ、其他、温湯、冷水等ヲ準備シ、産婦ヲ安靜ニシ、長ク胎胞ヲ保存センヲ勉メ、以テ醫師ノ至ルヲ待ツ可シ。然レドモ、若シ醫師ヲ待ツ能ハザルカ、又ハ、醫師ヲ招聘スルコト能ハザルトキハ、産婆ハ自ラ之レヲ處置セザル可カラズ。即チ産婦ヲ仰臥セシメ、少シク臀部ヲ高カラシメ、小兒ノ臀部産出ノ際ハ、一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ、他ノ手ヲ以テ兒ノ臀部ヲ支持シ、其産出ヲ扶ケ、次ニ胸部ニ至ルマデ露出セバ、劇シク努責ヲ命ジ、兒體ヲ強ク母ノ腹面ニ向ケテ舉揚シ、以テ後側ノ肩胛ヲ脱出セシメ、肩胛至ク産出セバ、産婦ヲシテ更ニ劇シク努責セシメ、兒體ヲ母ノ腹面ニ向ケテ益々舉揚シ、一手ヲ以テ強ク會陰ヲ防護シ、以テ兒頭ヲ産出セシム。●小兒産出後ノ處置ハ、正規分娩ト異ナルコトナシ。若シ胸部ニ至ルマデ露出シ、上肢ハ舉揚シテ産出セザルトキハ、先ヅ後方ノ一手ヲ牽出センガ爲メニ産婆ハ其手ヲ防腐シ同名ノ一手ヲ深ク産道内ニ送りテ、之レヲ牽下シ、次ニ兒體ト共ニ前方ノ兒手ヲ後方ニ回旋シ、其同名手即チ他ノ一

手ヲ產道内ニ進メテ、同ジク之レヲ牽下シ、而シテ、直チニ該手ノ示中二指ヲ兒ノ口内ニ挿入シ、他ノ一手ヲ兒ノ後頭ニ掛ケ、兩手ヲ協合シテ、兒頭ヲ誘導線ノ方向ニ挽出ス可シ之レヲ骨盤端位ノ挽出術ト稱ス(胸部以下ノ挽出術ノ大要ハ第三六四項ニ在リ)以上ハ、骨盤端位處置ノ要領ニ過ギザルヲ以テ、實際上ニハ更ニ詳細ニ習得セザル可カラザルモノアリ。故ニ次ノ第三五六乃至三六九項ニ於テ特ニ之レヲ詳説ス可シ。

〔第二五六項〕醫師ヲ招ク可キ
 於テハ可及的速カニ醫師ヲ招聘セザル可カラズ、且ツ醫ヲ招カントスルニハ、必ズ書狀ヲ以テシ、其分娩ノ狀況ヲ記載ス可キ者トス、然レドモ若シ、其胎兒生存シ能ハザルカ、又ハ、既ニ死亡セルヲ確知セバ、必ズシモ醫治ヲ求ムルヲ要セズ。○蓋シ骨盤端位ニ於テハ、人工ノ補助ヲ用キザレバ分娩シ能ハザルニアラズト雖ドモ、若シ其臀部ニ至ルマデ産出シ、臍帶壓迫ニヨリ、小兒ノ危險ニ迫レルニ當リ、産婆ハ、必シモ迅速且ツ確實ニ緊要ノ補助ヲ與ヘ得可シト云フコト能ハズ、是レヲ以テ醫師ヲ

招クヲ法トナス、而シテ産婦若シ之レガ爲メニ懼レヲ懷クトキハ、醫師ヲ聘スルハ、小兒ニ注意センガ爲メニシテ、決シテ目前ノ危急アルニアラザルコトヲ告ゲ其心ヲ安ンゼシム可シ。

〔第二五七項〕醫師來着以前ノ準備
 シテ、種々ノ要器ヲ具フルヲ要ス。即チ臀下ニ挿ム可キ枕子、施術時ニ下肢ヲ覆フ可キ被衣、臍帶結紮紐及ビ剪刀、小兒ノ回生術ニ用ユルカタール、數個ノ壓抵巾並ニ温水及ビ冷水ノ適量ヲ用意ス可シ。若シ寢臺ヲ用キ、横床位ヲ造クルトキハ、之レニ要スル三個ノ椅子ヲ備フルヲ要ス。次ニ横床位及ビ半横床位ノ方式ヲ記ス可シ。

〔第二五八項〕横床位
 寢臺ヲ用キテ横床位ヲ取ラシムルトキハ、陰部ニ對スルコト便ニシテ、且ツ兒ヲ牽引スルコト容易ナルノ益アリ。即チ産婦ノ上腿ハ、布片ヲ纏ヒ安全針ヲ以テ之ヲ固定シ、襪ヲ穿タシメ、産婦ヲ床上ニ横ニ臥セシメ、臀部ヲ床端ニ置キ、臀下ニハ清淨ナル布片ヲ以テ被覆セル枕子ヲ挿置ス、而シテ、寢臺ニ沿フテ二個ノ椅子ヲ對向

レシメ、産婦ノ各脚ヲ之レニ載セ、若クハ二人ノ介者、其椅子ニ就キ、産婦ノ各脚ヲ其腿上ニ置キ、之レヲ固定シ、術者ハ其中間ニ坐ヲ占メ得可カラシム。

「第二五九項」半横床位　ハ横床位ヨリモ産婦ノ頭ヲ一方ニ偏シ、斜メニ臺上ニ臥セシメ、一足ハ横床位ノ如ク椅子ニ載セ、若シクハ介者ニ保タシメ、他足ハ床上ニ止ムルモノナリ。此位置ニ於テハ、術者ノ坐位、狭隘ナルヲ以テ、横床位ニ劣レリトス。

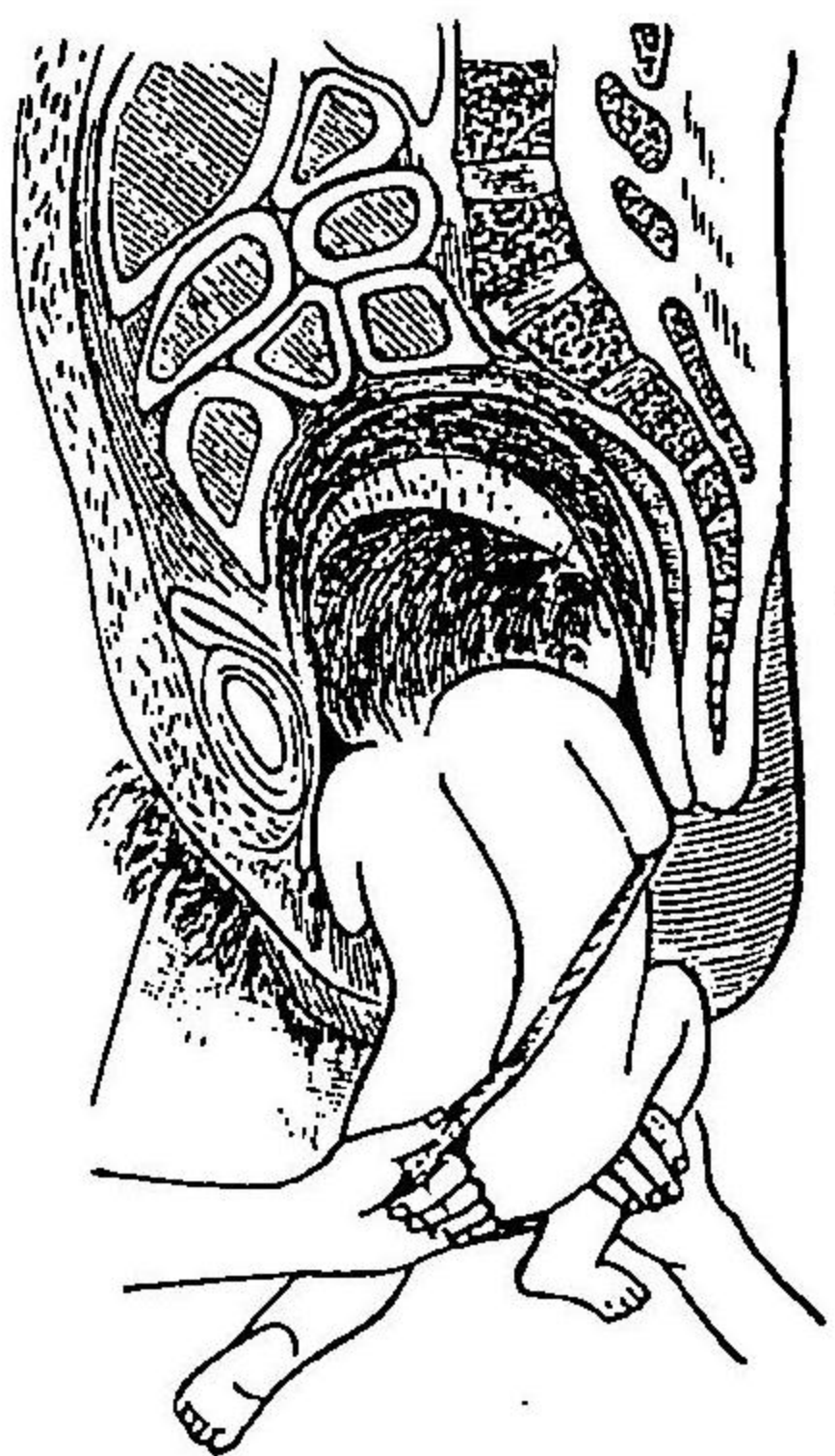
「第三六〇項」胸部産出前ノ要件　胸部産出ニ至ルマデハ、醫師ニ在リテモ、施術スルノ要ナシ。殊ニ胎胞破裂前ナルトキハ、可及的胎胞ヲ保護シテ、長ク存セシムルコト、必要ナルニヨリ、必ず無用ノ検査ヲ避ケ、努責ヲ禁ジ、産婦ヲ兒背ノ向フ所ノ側方ニ臥セシム可シ。便通ノ際ニハ決シテ蹲踞セシムルコトナク、必ず差込ノ便器ヲ用ユルヲ要ス。

「第三六一項」胎胞破開セルトキハ　防腐法ニヨリテ、子宮口開大ノ程度、並ニ臀部果シテ先進セルヤ否ヤ、腰部廣徑ノ方向及ビ臍帶脱ノ

存セザルヤ否ヤヲ檢知ス可シ。胎胞破裂スト雖モ、産婦ニ努責スルヲ禁ジ、其力ヲ蓄エテ、臀部露出ノ後ニ至リ、大ニ努責ヲ營マシムルヲ要ス。産科醫若シ適當ノ時期ニ來着セバ、産婆ハ小兒分娩後ニ至ルマデ、一モ自ラ主トシテ行フ可キモノナク、唯、醫師ノ命ニ從テ、之レヲ補助ス可キモノトス。

「第三六一項」然レドモ、醫若シ適當ノ時期ニ來着セザルトキハ、産婦ニ適當ノ臥位ヲ與ヘ、臀部ヲ高クシテ仰臥セシメ、若シクハ横床位ヲ與ヘ、經産婦ニ於テハ、小兒ノ臀部、既ニ陰裂間ニ産出スルノ際、初

第九 小兒ノ臍帶ヲ解除スル圖



寬ヤカニ臍帶ノ胎盤端ヲ牽キ兒ノ右脚ヲ超エテ脱セシムルヲ示ス

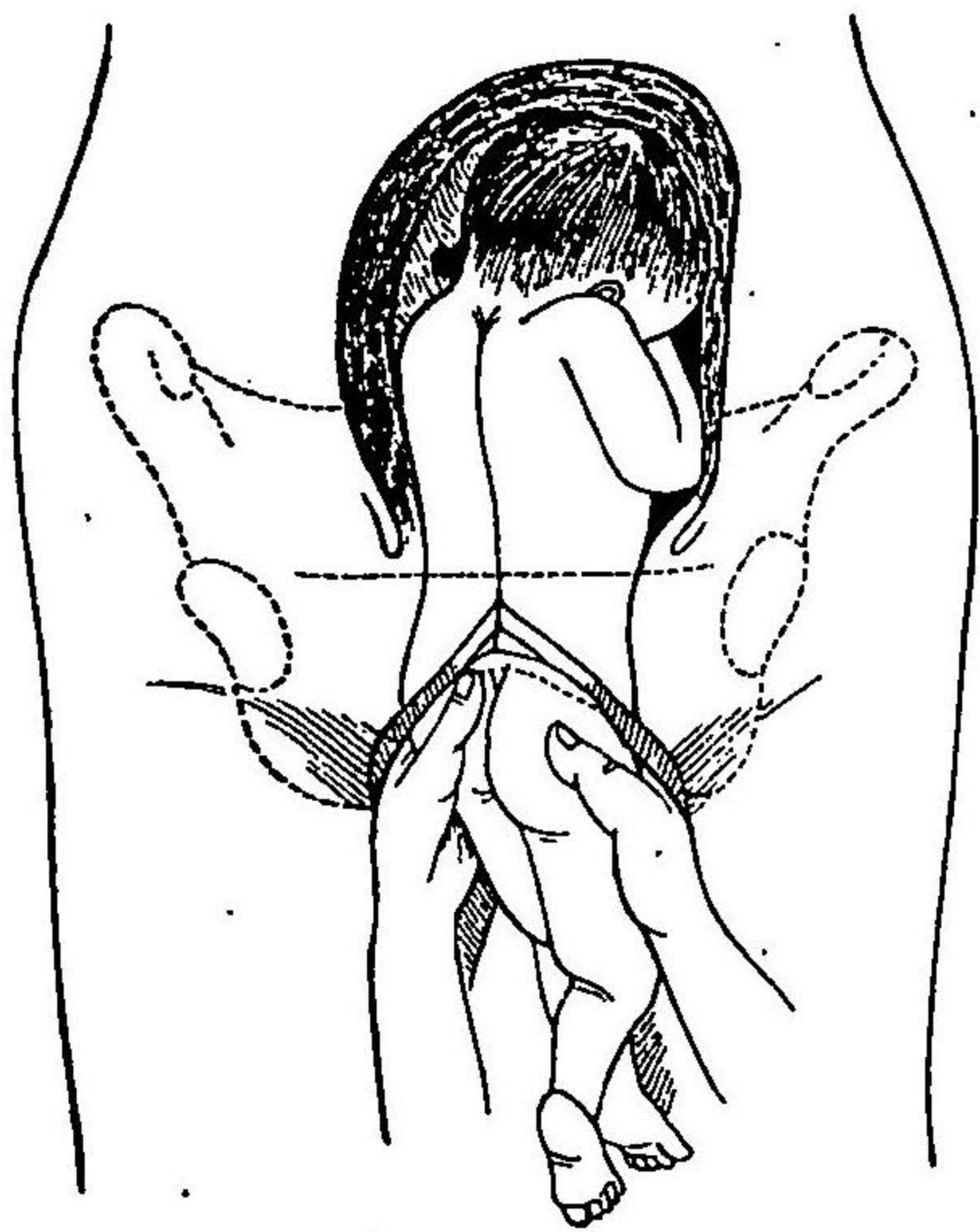
産婦ナルトキハ、臀部少シク現ハル、ヲ見バ、豫ジメ其手ヲ防腐シ、一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ、他手ニ兒ノ臀部ヲ支持シ、稍之レヲ舉上ス可シ。之レニヨリテ、兒體ヲ前方ニ彎曲セシメ、大ニ娩出シ易カラシムルモノナリ。次ニ臍帶ヲ檢シ、若シ強キ緊張ヲ現ハサバ、緩和ニ其胎盤端ヲ牽キ、之レヲ寛クセシコトヲ務ム可シ。
若シ又、小兒臍帶ニ跨リ居ラバ、背部ノ一端ヲ牽キテ之レヲ緩メ、後チ後方ノ足ヲ踰エテ脱セシムルヲ法トス。

〔第三六三項〕既ニ胸部ニ至ルマデ産出セバ、若シ介者アルトキハ、子宮ヲ輪狀ニ摩擦シ、陣痛ヲ催起シ、而シテ後チ、子宮ヲ骨盤内ニ壓セシム。又産婦ニハ、陣痛ノ起ルニ乘ジ、強ク努責ヲ命ジ、次ニ小兒ノ肩胛會陰部ニ來ラバ、兒體ヲ腹上ニ向テ舉上シ、以テ會陰ノ裂傷ヲ防ギ、次ニ肩胛部ヲ把持シ、注意シテ舉上シ、頭部ノ産出ヲ助ク可シ。此ノ如クスルモ尙ホ産出セズ、且ツ、醫師ノ到ラザルトキハ、即チ娩出術ヲ行ハザル可カラズ。即チ次章ニ於テ之レヲ述ブ可シ。

第八十五章 骨盤端位娩出術

〔第三六四項〕骨盤端位娩出術 此娩出術ヲ行フニハ、豫ジメ坐側ニ二％石炭酸水ヲ備ヘ、之レヲ以テ更ニ其手ヲ洗滌シ、兒ノ體部ハ、同ジク石炭酸水中ニ浸漬セル布片ヲ以テ包被シ、足部ナルトキハ、拇指及ビ示中二指ヲ以テ之レヲ執持シ、下脚ノ露ハレタルモノハ、可及的兩手ヲ用キ、拇指ヲ其後側ニ貼シテ之レヲ把握シ、臀部ノ既ニ娩出セルトキハ、兩手ノ拇指ヲ薦骨上ニ貼シ、以テ骨盤部ヲ把持シ、同時ニ介者ヲシテ腹上ヨリ子宮ヲ骨盤内ニ壓セシメ、以テ牽引ヲ施シ、傍ラ兒體ヲ廻旋シ、肩胛ノ下角マデ娩出セバ、肩胛ノ廣徑ト骨盤下口ノ直徑線ト相一致スルニ至ラシム。此時期ニ至レバ上方ニ舉上セル兒足ハ、自ラ脱下スルモノナリ。次デ術者ノ手ヲ胸部ニ進メ、兩拇指ヲ背椎ノ兩側ニ貼シテ胸廓ヲ把持シ、牽引ス可シ。腹部ハ、内臟ヲ損傷スルノ恐アルニヨリ、必ズ之レヲ把握ス可カラズ。○娩出ノ間、兒背、後方ニ向フカ、若クハ向ハントセバ、前方ノ臍部ヲ頗ル強ク牽引

第九節 骨盤端位挽出術 術中臀部ヲ把持スルヲ示ス

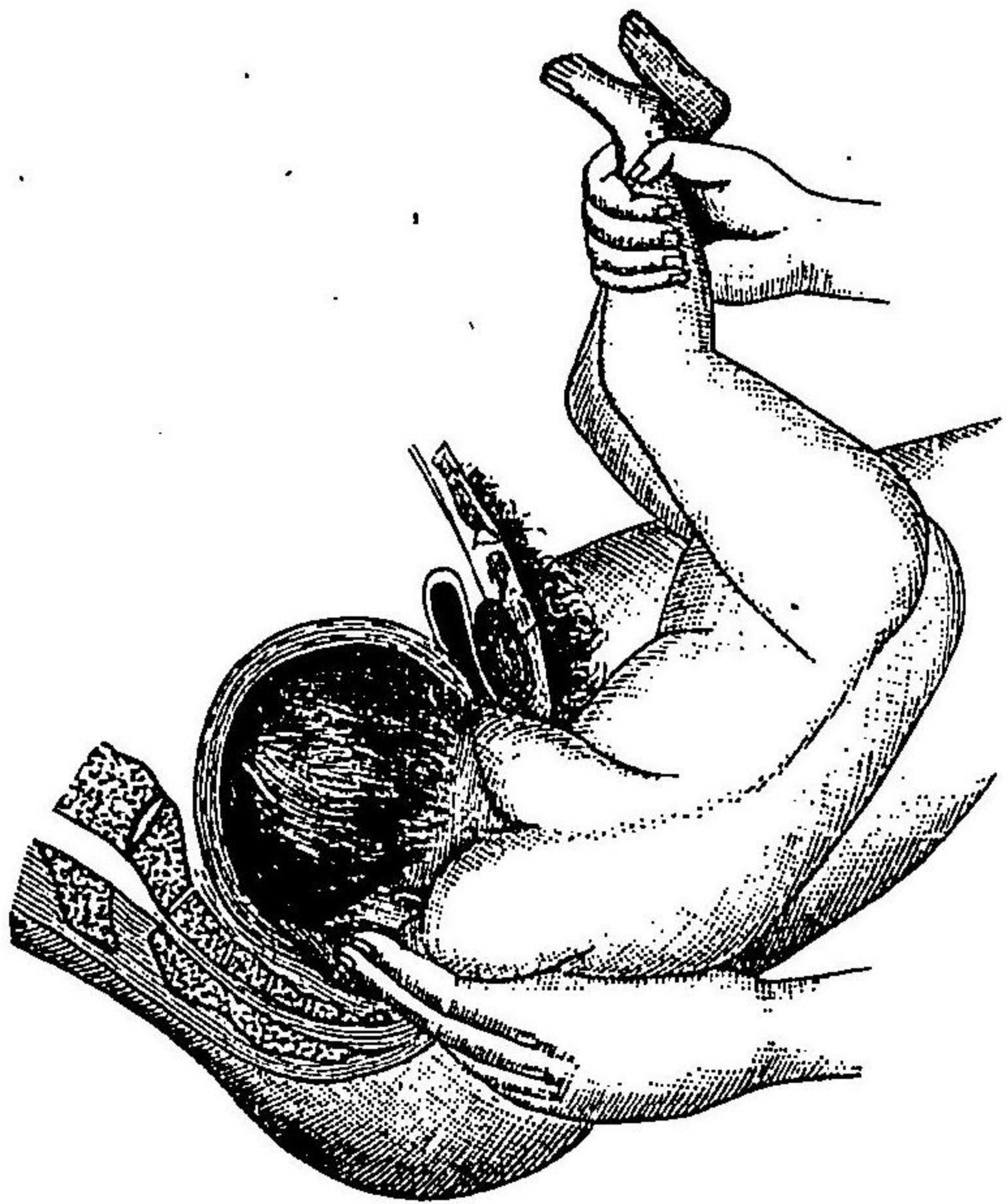


實際ハ布片ヲ兒體ニ纏フテ其上ヨリ把握スルヲ可トス 圖中之レチ省ケ

シ、且ツ兒體ヲ廻旋シテ、其背ヲ前方ニ對向セシメントラ要ス。兒背若シ後方ニ向フトキハ、上肢ハ耻骨ニ抗止セラレ、之レヲ牽出スルコト難ク、頭部ノ挽出モ亦容易ナラザルモノナリ。此ノ如クニシテ胸部ヲ挽出シ、肩胛ヲ前後ニ向ハシムルトキハ、則チ上肢ヲ牽下セザル可カラズ。而シテ、之レニ三個ノ緊要ナル、規則アリ。

第九節

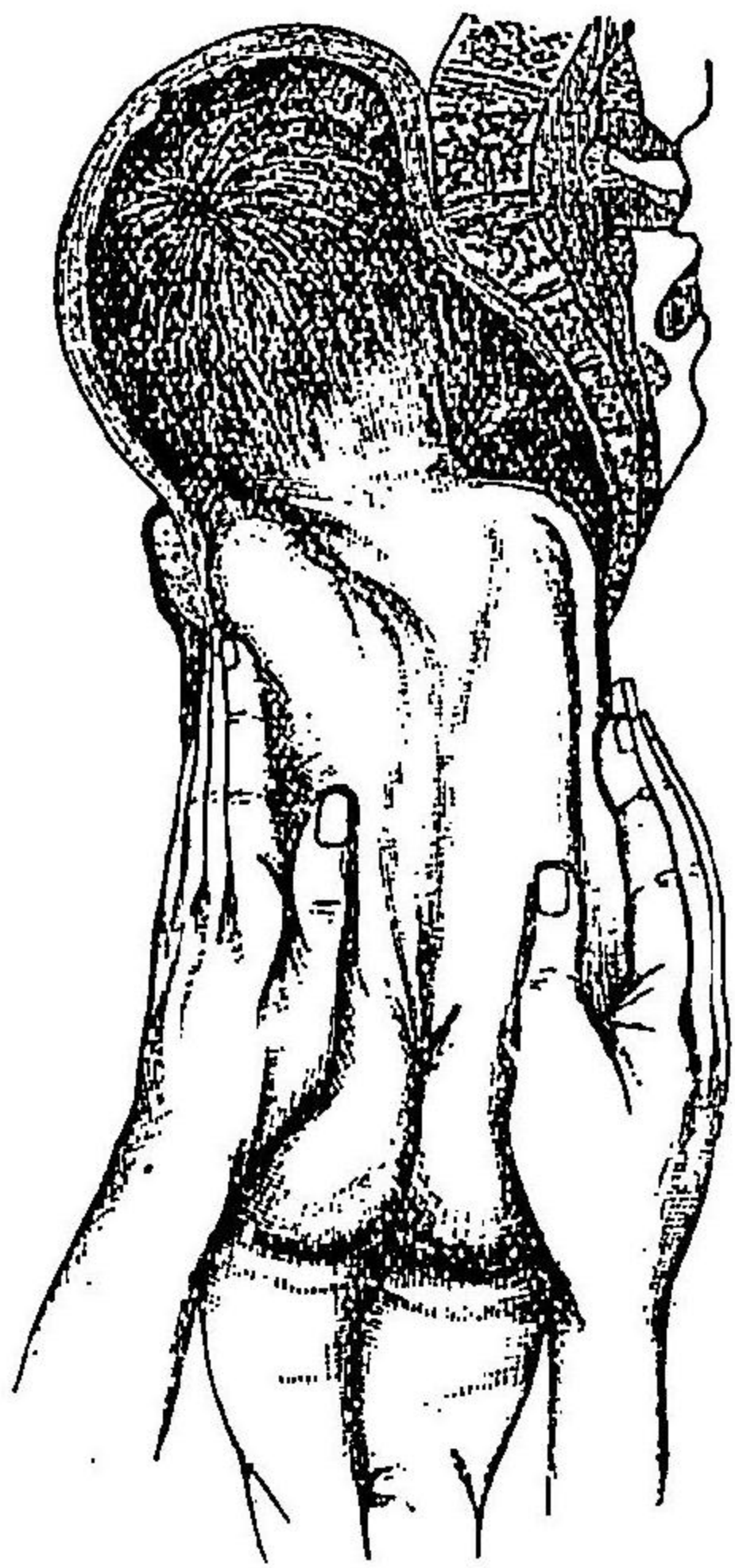
後方ノ上肢ヲ牽下ルヲ示ス



前圖ニ同シク足部ニハ布片ヲ纏フテ之レヲ把握ス可シ 圖中之レチ省ケ

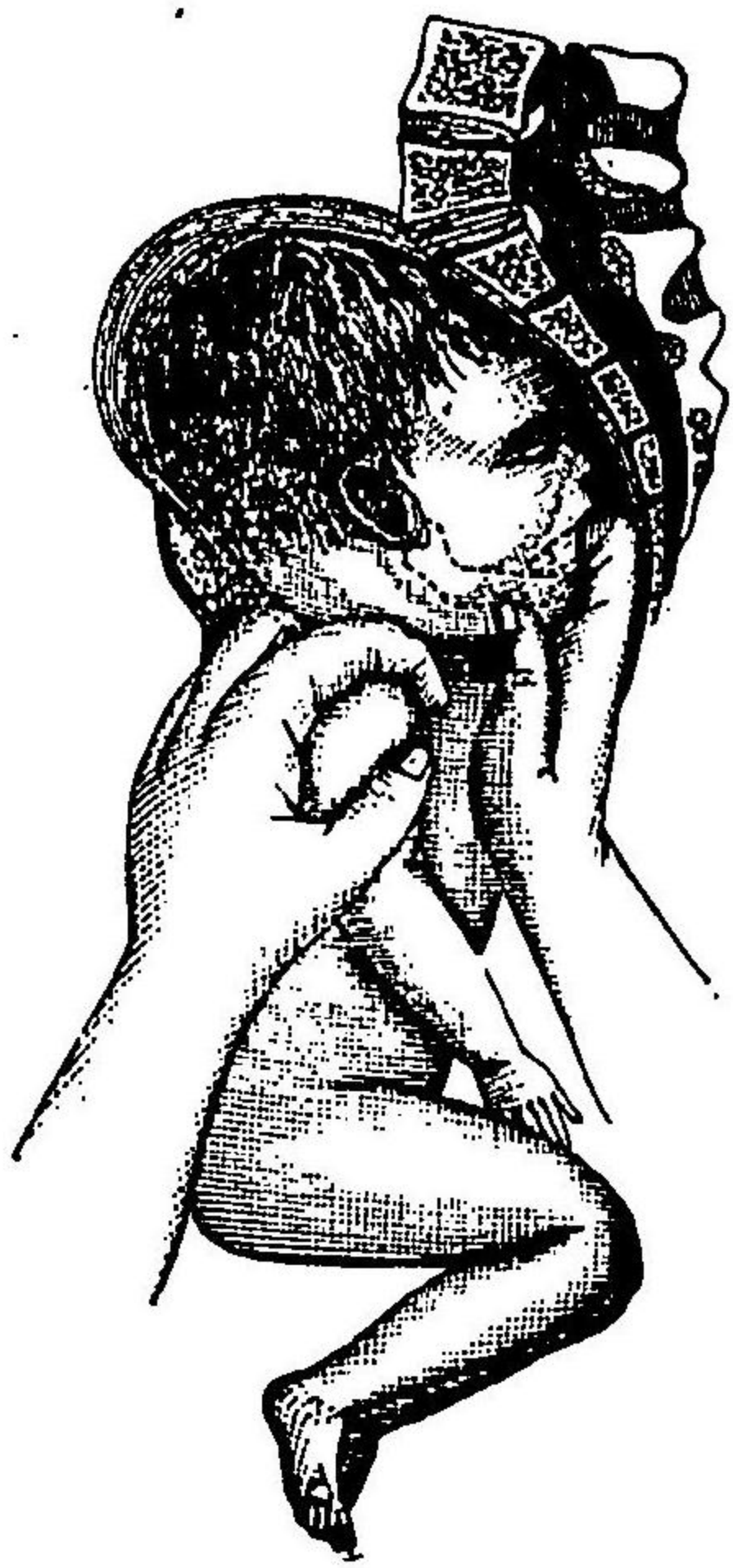
一、客上肢ハ、常ニ同名手ヲ用ユ。即チ兒ノ右手ハ、産婆ノ右手ヲ用キ、兒ノ左手ハ、産婆ノ左手ヲ用キテ牽下スルコト。
二、薦骨側ニ位セル上肢ヲ最初ニ牽下スルコト。

第九節 前方ノ上肢ヲ牽下センガ爲メニ其手ヲ後方ニ廻送セントスルヲ示ス



三前方ニ位セル上肢ハ先ツ後方ニ廻送シ而シテ後チ之レヲ牽下スルコト是レナリ。
例之第一臀位ニ施術スルトキハ先ツ左手ヲ以テ兒ノ臀部ヲ握リ之ヲ舉上シ且ツ強ク右側ニ(母體ノ)送り而シテ術者ハ右手ノ四指ヲ伸展シ産道ノ後側ニ沿ヒ其手ヲ兒ノ腕關節又ハ前膊ノ中央ニ送ル可シ此ノ如クニシテ兒ノ上肢ハ其顔面ヲ摩スルガ如クニシテ右下方(母體ノ)ニ壓下シ同

第九節 兒頭ヲ挽出スルヲ示ス



時ニ兒ノ臀部ヲ強ク母體ノ左側ニ來シ上肢ヲシテ肘關節ヲ屈シ脛ノ前側ニ出デシム次ニ前方ノ上肢ヲ牽下センニハ右手ヲ以テ腕部ヲ握リ左手ヲ前在上肢ト兒頭トノ間ニ就キ深ク之レヲ送入シ兩手ヲ併セテ兒體ヲ廻旋シ其背ヲ全ク右方ニ對向セシメ而シテ後チ術者ノ左手ヲ以テ前記ノ方法ニヨリ上肢ヲ牽下セシム此ノ如クニシテ上肢ヲ牽下シ終ラバ術者ハ直チニ左手ノ示指及ビ中指ヲ兒ノ口内ニ送り其下顎縁上ニ置キ

或ハ該兩指ヲ鼻ノ兩側ニ貼シ、而シテ其ノ餘ノ諸指ヲ以テ胸部ヲ把握シ、同時ニ他手ノ示指及ビ中指ヲ以テ背側ヨリ頸部ヲ挟ミテ兒ノ肩胛ニ掛ケ、以テ兒ノ後頭ヲ正シク恥骨弓下ニ來シ、次デ兒頭ヲ前上方ニ牽引シ、顔面ヲ會陰外ニ脱出セシム。○此際、注意シテ會陰ヲ破裂セザラシムルコトヲ務ム可シ、其他、妄リニ胎兒ニ強力ヲ加フ可カラズ、否ラザレバ、上肢、鎖骨等ノ骨折ヲ致ス可アリ。

〔第二六五項〕異常ナル手及ビ頭ノ挽出法 後方ニ位セル兒

ノ一手ハ、時トシテ初メニ牽下シ難キコトアリ、殊ニ其手兒ノ項下ニ存スル時ヲ然リトス。此ノ如キ場合ニ於テハ、先ヅ、兒體ト共ニ前方ノ手ヲ後方ニ廻旋シテ之レヲ牽下シ、而シテ更ニ復タ、兒體ト共ニ前方ノ手ヲ後方ニ廻ラシメ、以テ之レヲ牽出ス可シ。又、兒ノ後頭、前方ニ向ハズシテ、後方ニ廻旋シ、之レヲ正シクスルヲ能ハザルトキハ、先ヅ、兒體ヲ強ク舉上シ、以テ後頭ヲ會陰部ヨリ挽出センコトヲ要ス。

〔第二六六項〕挽出甚ダ困難ナル場合 挽出困難ニシテ、上記ノ

法ヲ施コスモ、上肢又ハ頭ヲ挽出スルコト能ハズ、以テ五分間以上ヲ經過セバ、小兒ハ此間、既ニ死ニ陥ルモノナルガ故ニ、母體ヲ損傷セザランガ爲メニ、挽出法ヲ停止シ、醫師ノ到ルヲ待ツ可シ。

〔第二六七項〕挽出後 ハ産婦ヲ通常ノ如ク臥セシメ、且ツ、正規定分娩後産期ノ處置ニ從テ處置ス可シ。

〔第二六八項〕足位分娩ノ處置 足位分娩ニ在リテハ、其處置、全ク臀位ト異ナルコトナシ、殊ニ、足ヲ執リテ牽引ヲ試ムルコトナク、臀部産出スルニ至ラバ、臀位ト同一ニ處置センヲ要ス。

〔第二六九項〕骨盤端位ニ於テ母兒兩體ニ危険ナルモノノ處置 小兒ノ危険ナル徴候ハ陣痛休憩時ニ於テ、心音緩徐(凡ソ八十搏)ニシテ不規則トナリ、若クハ疾數(凡ソ百八十搏)トナリ、臍帶ノ搏動モ亦緩慢若クハ幽微トナルヲ見ル可シ、但シ、胎尿ノ漏泄ハ、臀位ニ於テハ危険ノ徴候トナスコト能ハズ。此ノ如ク、胎兒危険ノ徴ヲ現ハスカ、又ハ母體ノ危険アリテ、速カニ挽出セシム可キトキハ、臀部ノ産出ヲ待タズ、直チニ挽

出セザル可カラズ。而シテ臀位ニ有リテハ、一手ノ示指ヲ鉤狀トナシ、前方ニ位セル股ノ屈曲部ニ掛ケ、先、下方ニ向テ牽出し、次デ上方ニ向ハシメ、以テ臀部ヲ把握シ得可カラシム。足位ナルトキハ、兩手ヲ以テ、先進セル一足ヲ把持シ、挽出術ヲ施コス可シ。兒體ヲ挽出スルノ法ハ、既ニ第三百六十四項ニ述ブル所ノ如シ。

第八十六章 雙胎ノ分娩

〔第三七〇項〕**双胎** 雙胎ノ胎兒ハ、成熟スルモ、單胎胎兒ヨリ小ニシテ、分娩モ亦、一二週早く發スルヲ常トス。但シ、雙胎ノ分娩ハ、他ニ異常ナキトキハ、敢テ不良ノ經過ヲ取ルモノニアラズ。

〔第三七一項〕**双胎分娩ノ狀況** 分娩ノ際ニハ、初メニ第一兒ノ胎胞ヲ現ハシ、通常ノ如ク產出シ、次ニ第二兒ノ胎胞出デ、同ジク分娩ヲ終ヘ、後チ、胎盤ヲ出ス可シ。稀ニハ、第一兒ニ次ギテ、其胎盤產出スルコトアリ。○兩兒分娩ノ間時ハ、時トシテ甚ダ短カキコトアリト雖ドモ、十五分乃至

三十分ナルヲ常トス。稀ニハ十二時若クハ二十四時ニ亘ルコトアリ。而シテ、極メテ稀ニハ、第一兒分娩後、第二兒ハ尙ホ數月間、子宮内ニ止マルコトナキニアラズ。○全分娩ノ時間ハ、單胎ヨリ短カキヲ常トス。是レ胎兒ノ發育不良ニシテ、小ナルニヨルモノトス。

〔第三七二項〕**双胎分娩ノ豫後** 双胎ニアリテハ、母體ハ過度ナル腹部ノ膨大ニヨリテ、呼吸又ハ消化ヲ妨ゲラレ、種々ノ疾病ヲ生ズ可ク、分娩時ニ在リテハ、陣痛微弱ヲ起シ、又ハ骨盤端位、横位等、不良ノ胎位ヲ致ス。多シ。小兒ハ發育不良ナルガ爲メニ、死ニ至ルコト甚ダ多シ。

〔第三七三項〕**双胎分娩ノ處置** 此分娩ノ處置ニ就キテハ、固ヨリ醫師ニ託センヲ要ス。各胎兒分娩ノ處置ニ就キテハ、概シテ通常分娩ト異ナルコトナシ。而シテ第一兒分娩セバ、其臍帶ノ胎盤端ハ殊ニ緊シク結紮ス可シ。是レ、兩兒、一胎盤ヲ有スルトキハ、臍帶ノ胎盤端ヨリ出血シテ、第二兒ノ血液ヲ失ハシムルヲアルヲ以テナリ。而シテ、胎盤早期剝離ノ爲メニ、第二兒ヲ危險ナラシムルヲアルガ故ニ、注意シテ心音ヲ聽診ス可シ。産

出●ヒ●ル●小●兒●ハ●發●育●不●良●ナ●ル●ガ●故●ニ●殊●ニ●注●意●シ●テ●温●カ●ナ●ラ●シ●ム●可●シ●然●ラ
レ●バ●容●易●ク●死●亡●ス●ル●モ●ノ●ナ●リ●
双●胎●分●娩●ニ●在●リ●テ●ハ●第●一●兒●ト●第●二●兒●ト●ハ●適●宜●ノ●目●標●ヲ●付●シ●テ●區●別●ス●可●
シ●是●レ●兄●弟●又●ハ●姉●妹●ノ●順●序●ヲ●定●ム●ル●ニ●必●要●ナ●ル●モ●ノ●ナ●リ●即●チ●其●目●標●ハ●
小●繩●帶●ヲ●手●若●ク●ハ●足●ノ●關●節●ニ●纏●結●シ●若●ク●ハ●臍●帶●結●紮●ヲ●以●テ●之●レ●ヲ●作●ル
ヲ●便●ナ●リ●ト●ス●

第八十七章 三胎以上ノ分娩

「第三七四項」三胎四胎等ノ分娩 ト雖ドモ其狀況概シテ双胎
ト異ナルヲナク只漸次ニ早期産出ノ度ヲ高ムルヲ見ル可シ○處置ハ概
シテ双胎ノ分娩ニ準ズ可キ者トス

第八十八章 分娩中胎兒生活

及ヒ死亡ノ診斷

「第三七五項」分娩中胎兒死亡 スト雖ドモ毫モ分娩ノ作用ニ障
害ナシ而シテ實際上ニハ胎兒ノ生死ヲ知ルコト甚ダ緊要ナリト雖ドモ
時トシテハ之レヲ知了スルコト最モ難ク或ハ全ク之レヲ判定スルト能
ハザルモノアリ

「第三七六項」分娩中胎兒生活セルトキ 「一」心音ヲ聴取スル
ヲ得「二」胎動ヲ觸知ス可ク「三」分娩遲延スルトキハ産瘤増大シ「四」若シ臍帶
脱アルトキハ直チニ其搏動ヲ觸レ得可シ但シ此等ノ徵候ハ兒背ノ方向
胎動ノ停休其他種々ノ事情ニヨリ之レヲ認知シ難キコト屢々之レアリ
「第三七七項」分娩中胎兒死亡セルモノ 既ニ妊娠中ニ於テ
死○セ○ル○ト○キ○ハ○第○二○三○項○中○ニ○記○セ○ル○死○亡○ノ○徵○ヲ○現○ハ○ス○可○シ○分○娩○時○ニ
於○ケ○ル○徵○候○ハ○「一」漏○泄○セ○ル○胎○水○綠○色○ヲ○ナ○シ○テ○一○様○ニ○混○濁○シ○胎○兒○ノ○生○活○セ
ル○際○ニ○混○ズ○ル○胎○尿○ノ○綠○色○性○小○片○ヲ○ナ○セ○ル○モ○ト○異○レ○リ○「二」頭○部○先○進○ス○ル
ト○キ○ハ○頭○蓋○骨○ノ○縫○合○弛○緩○シ○甚○ダ○シ○ク○動○搖○シ○臀○位○ナ○レ○バ○肛○門○哆○開○セ○ル○ヲ
見○ル○「三」先○進○部○ノ○表○皮○殊○ニ○手○足○ノ○表○皮○ハ○片○狀○ヲ○ナ○シ○テ○剝○離○ス○ル○ヲ○ア○リ●但

シ、梅毒ニ於テハ、生兒ト雖ドモ、此ノ如キ表皮ノ剝離ヲ現ハスコトアリト
「第二七八項」胎水漏泄後ノ死胎兒 死亡セル胎兒ニシテ、殊ニ胎水漏泄後、長時ヲ經ルモノニ在リテハ、微菌ノ侵入ニヨリ、子宮内ニ於テ腐敗ヲ起シ、母體ニ傳染症ヲ發スルノ危險アルヲ以テ、速カニ醫治ヲ求ム可

第八十九章 縦位分娩胎児ノ死亡數

「第二七九項」此章ニ於テハ 縦位ノ中、後頭位、前頭位、顔面位、骨盤端位ニ就キ之レヲ説述ス可シ、即チ、其死亡數、大凡ソ次ノ如シ、(獨乙ウ、ンケル氏ニ據ル)
後頭位ノ胎兒 ハ豫後最モ佳良ニシテ、其死亡數、即チ死産數ハ百人
中、二人五分即チ二、五%ナリトス。
顔面位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十三%トナス。

前頭位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十五%ヲ有ス。
骨盤端位ノ胎兒 ノ死産數ハ凡ソ十六%ヲ占ムト云フ。

第九十章 初生兒ノ徵候

「第二八〇項」初生兒 ハ數日間、次ノ徵ヲ有ス、(一)臍帶ノ斷端又ハ其離脱セル痕ヲ有ス、(二)胎尿ヲ泄ス、(三)時トシテハ、尙ホ、皮垢又ハ産瘤ノ痕ヲ現ハスコト、是レナリ、故ニ一、小兒アリテ、右ノ徵候アルヲ見バ、初生兒ナルヲ判知ス可シ。

第四編 正規産褥及び其取扱法

第九十一章 誘導篇

〔第二八二項〕此篇ニ於テハ 産褥トハ如何ナルモノナルカ、褥婦ノ生殖器及び全身體中ニハ如何ナル變狀ヲ現ハスカ、褥婦及び小兒ノ看護法ハ如何ニス可キカ、小兒ノ人工營養法ハ如何ナル方法ヲ施コス可キモノナルカヲ説キ、終リニ實際ノ必要アルガ爲メニ、褥婦ノ營養法ヲ附説ス可シ。

第九十二章 産褥

〔第二八二項〕産褥トハ 全ク分娩ヲ終レル時ヨリ、生殖器及び全身ノ變狀、回復シ、概テ妊娠前ト同一ナルニ至ルノ間ニシテ、凡ソ七週日間トナス。而シテ授乳セザルモノニ在リテハ、産褥ノ終期ニ至リ、再ビ月經ヲ現ハスモノナリ。但シ、授乳セル婦人ニ在リテハ、凡ソ第九ヶ月ニ至ルマデ月

經閉止ス可シ。

第九十三章 産褥婦ノ生殖器ニ現ハ

ル、狀況

此章ニ説ク可キモノハ、子宮ノ状態、惡露ノ性質、産道ノ變化、後陣痛、乳汁ノ分泌等トナス。

〔第二八三項〕子宮ノ状態 子宮ハ分娩ヲ終レバ、其底、恥骨縫際ノ

上方、四五指横徑ニ位スト、雖ドモ、爾後漸次ニ縮小シ、凡ソ第十二日(早キハ八九日)ニ至レバ、小骨盤内ニ入り、之レヲ觸ルコト能ハザルニ至ルモノナリ。此ノ如ク子宮ノ縮小スルハ、妊娠中ニ變大増殖セル筋質ノ、著シク收縮シ、且ツ其數ヲ減ズルニ基クモノトス。又、子宮ノ收縮ニヨリ、胎盤部血管ノ斷口、大ニ縮小シ、且ツ凝血ヲ生ズルニヨリテ、全ク閉塞シ、止血スルニ至

子宮頰 ハ分娩直後、自由ニ一手ヲ通過セシム可キモ、四五日ヲ經レバ、

備カ。指ヲ通ズ可ク、第八日ノ後チ、子宮内口ハ全ク、手指ヲ通過セシム

子宮口ハ分娩ノ際、多クノ裂傷ヲ生ズルガ故ニ、産褥中ニ治療スト雖
ドモ、爾後ハ大ナル横裂痕ヲ現ハシ、以テ前後ノ二唇トナス、各唇モ亦、小裂
痕ノ存スルニヨリテ、突隆不平ヲ呈スルモノナリ。

【第二八四項】腔及ビ外陰部ノ状態
腔ハ漸次ニ収縮スト雖ド
モ、分娩前ニ比スレバ頗ル潤ク、處女膜根ハ、断裂缺損シテミルチ状肉阜ト
ナリ、陰唇、繫帶ハ破裂ヲ止ムルヲ常トス。

【第二八五項】惡露
ハ主モニ子宮ノ内面ニ於ケル脱落膜及ビ胎盤
ノ剝離セル創面ヨリ生ズル分泌物ニシテ、脱落膜ノ細片ヲ含ム。最初二日
間ハ純血様ニシテ流動性ナリ、凝血ヲ雜ユルハ異常ニ屬ス。第三日ヨリ血
水状ヲナシ、第六日乃至第八日ニ至レバ、子宮内ノ膿様分泌物ニヨリテ、帶
黄白色ヲナシ、第三週ニ至リ、其量甚ダシク減少シ、第五週ノ頃ニ及ビ、全ク
盡クルモノナリ。惡露ハ通常、子宮内ニ於テハ、毒性ナキモ、此ヨリ腔内ニ至

レバ、多クハ數多ノ微菌ヲ混ジ、創面ニ附着スレバ、化膿ヲ生ゼシムルノ性
アリ。

【第二八六項】後陣痛

トハ産後二三日間ニ發スル弱キ陣痛ニシテ、
子宮ノ收縮ニヨリテ發ス。此後陣痛ハ分娩ノ時間短ク、其陣痛多カラザル
トキハ、之レヲ發スルヲ強キモノナルガ故ニ、經産婦ニ於テハ甚ダシキヲ
常トス。又、凝血、胎盤片等ノ子宮内ニ存在スルトキハ、同ジク強劇ナリ。故ニ
初産婦ニシテ、後陣痛強キモノハ、凝血若クハ胎盤ノ殘片ナキヤ否ヤヲ檢
知ス可シ。

【第二八七項】乳汁ノ分泌

乳房ハ妊娠中ヨリ、既ニ少シク分泌初
乳ヲ現ハスト雖ドモ、分娩後、二日又ハ三日(稀ニハ第一日)ヨリ乳汁ノ分泌
ヲ始メ、乳房腫脹シ、知覺過敏ヲ發シ、甚ダシキハ、腋窩ノ水脈腺ニ腫脹ヲ發
シ、疼痛ヲ現ハシ、同側ノ上肢ヲ運動セシメ能ハザルアリ。此際三十八度
以内ノ微熱ヲ發シ、一二日間持續ス可シ。所謂乳熱是レナリ。乳汁ノ始メテ
分泌セラレ、モノヲ初乳ト名ク。

「第二八八項」初乳

ハ既ニ妊娠中ニ其分泌ヲ始メ、乳汁分泌ノ初日ニハ多量ニ排出セラレ、モノニシテ、稍々粘液状ヲ帶ビ、半透明ヲナシ、點狀若クハ線狀物ヲ含ム、初乳小體是レナリ、又多量ノ蛋白質ヲ有シ、煮沸スレバ凝固ス可シ、小兒ニ飲マシムルトキハ、通利ヲ催サシムルノ性アリ、此初乳ハ、分泌後、二乃至四日ノ間ニ漸次ニ通常ノ乳質ニ移行シ、遂ニ全ク初乳小體ヲ失フニ至ルモノトス。

「第二八九項」常乳ノ成分

今常乳ノ成分ヲ示セバ、次ノ如シ。

脂肪	凡ソ三、〇
乾酪	凡ソ四、〇
乳糖	凡ソ四、〇
固形分	凡ソ一、一、〇
鹽類	凡ソ〇、一五

「第二九〇項」乳汁分泌ノ持續并ニ乳量乳成分ノ變化

乳汁ノ分泌ハ九乃至十ヶ月間持續スレバ、著シク減少シ、後チ漸次ニ止ム

ヲ常トス、然レドモ又、時トシテハ三、四年以上、乳汁ヲ出スモノアリ、〇乳量ハ食物中、飲料及ビ蛋白質ノ增多ニヨリテ増加ス可シ、殊ニ蛋白質類多キトキハ、脂肪量モ亦加ハリ、乳性良好ナリトス、〇又乳汁ノ分泌久シキヲ經ルトキハ、其成分中、蛋白質類増加シ、脂肪及ビ糖分ハ其量ヲ減ズルモノトス。

「第二九一項」乳汁ノ變狀ヲ呈スル場合

乳汁ハ種々ノ事情ニ

ヨリ變狀ヲ呈スルモノニシテ、精神ノ感動アルトキハ其量ヲ減ジ、時トシテハ性質不良トナリ、小兒ニ害ヲ及ボスコトアリ、又、結核、梅毒等ノ毒質ハ、乳汁中ニ移リ行クアルガ故ニ、此等患者ノ乳汁ハ之レヲ小兒ニ與フ可カラズ、多クノ醫藥モ亦乳汁中ニ分泌セラレ、善ク、小兒ニ其効力ヲ現ハス可シ、其母下痢ヲ用ユレバ、小兒モ亦下痢シ、母體ニ梅毒ノ藥ヲ與フレバ、小兒ニモ亦藥効ヲ呈スルガ如キ是レナリ、但シ通常量ノ藥品ヲ母體ニ投ズルモ、通例ハ敢テ害ナキモノトス、一月經中、時トシテ乳汁變質シ、乳兒ハ不安、啼泣等ヲ致スニアリ、此ノ如キアラバ、暫ク授乳セシメザルヲ良トス。

第九十四章 褥婦ノ全身ニ現ハル、變狀

〔第二九二項〕褥婦ノ自覺 既ニ分娩ヲ終ルトキハ、筋運動ノ止ムト、身體ノ冷却サル、トニヨリ、褥婦ハ概チ惡寒ヲ覺ユルモノナリ。然レドモ、次デ溫暖トナリ、發汗ヲ催フシ、爽快ヲ生ズルニ至ルモノトス。

〔第二九三項〕體温上昇 前項記スルガ如ク、褥婦溫暖ヲ感ズルノ際、即チ十二時間以内ニ於テ、三十八度以下ノ微熱ヲ發シ、更ニ十二時ヲ經過スルトキハ、消退ス可シ。此熱候ハ、分娩時ニ於ケル身體ノ動作ト、精神ノ興奮ニヨリテ生ズルモノトス。次ニ、第三日頃ニ至リテ、乳汁ノ分泌増進スルトキハ、再ビ三十八度以内ノ熱候ヲ現ハシ、前章中ニ述ブル如ク、一二日ニシテ下降スルモノナリ。若シ熱候、此程度以上ニ昇ルモノハ、是レ傳染症ニ屬セシム可キモノトス。産科ノ未開ナル地ニ在リテハ、産婦ノ防腐法不十分ナルガ故ニ、産褥婦ハ多少ノ傳染症ヲ患ヒ、四十度ニ近キ高熱ヲ現ハスモノ甚ダ多シ。

〔第二九四項〕食事 ハ最初三日間、不進ナルヲ見ルト雖ドモ、爾後甚ダシク増進スルモノトス。

〔第二九五項〕便通 ハ腹壓ノ減少、運動ノ休止ニヨリテ、最初一週間ハ秘結シ易キモノナリ。

〔第二九六項〕尿 ハ産褥ノ初メ、著シク増進ス可シ。又腹壓ノ減スルト尿道ノ腫脹若クハ屈曲スルコトアルニヨリ、一二日間、自ラ排泄シ能ハザルアリ。

〔第二九七項〕皮膚 ニ於テハ、汗ノ分泌増進シ、最初八日間ハ甚ダシク發汗シ易キモノナリ。或ハ汗ノ分泌、尿及ビ惡露ノ分泌ヲ産褥中三種ノ分泌増進ト稱ス。○毛髮ハ、産後、脱落スルヲ常トス。

第九十五章 褥婦ノ看護法（即チ攝生法）

〔第二九八項〕褥婦看護法（攝生法）ノ要領 産褥ノ初メ八日間ハ、毎日朝夕二回、褥婦ヲ訪ヒ、其看護ニ注意ス可シ。小兒ノ處置ヲナスノ際

ハ、必ズ之レヲ先キニスルヲ要ス。而シテ褥婦ニ就キテハ、先ヅ精神ノ状態、苦惱ノ有無ヲ問ヒ、次ニ脈搏、體温、乳房、腹部及ビ子宮ノ状態ヲ檢シ、正規ノ分娩ヲ營メル者ニ在リテハ、敢テ腔内ヲ洗滌スルヲ要セズ、自ラ利尿シ能ハザル者ハ、カテーテルヲ用ユ。外陰部ハ、最初朝夕一回宛、後ニハ一日一回、防腐藥ヲ用キテ清洗シ、法ニ從テ丁字綑帶ヲ施コシ、惡露ノ多量ナルモノニ在リテハ、屢々綑帶ヲ交換セシム可シ。又、精神、身體ヲ安靜ニシ、來訪者ヲ避ケシメ、第四日ニ至ラバ灌腸ヲ施コシ、便器ヲ用キテ通利セシム。後、陣痛強キモノハ、冷罌法ヲ施コシ、其ノ甚ダシキモノハ、醫治ヲ求メシメ、食事ハ、最初、流動性ノ滋養物ヲ與ヘ、後チ漸次ニ通常ノ食ニ就シメン事ヲ要ス。就テハ、最初九日間、必ズ之レヲ守ラシメ、後チ徐々ニ起床ニ慣レシム可シ。小兒ニ授乳スルハ、分娩後、七八時間ヨリ之レヲ初メ、其時間ヲ一定シ、授乳ノ前後ハ、必ズ乳頭ヲ清潔ナラシメザル可カラス。初メ、乳汁ノ分泌十分ナラザルモノハ、牛乳ヲ與フ可シ。此余、異常ヲ現ハセルモノハ、速カニ醫治ヲ求ム可キモノトス。以上ハ、其大要ニ過ギザルガ故ニ、次ニ各項ニ就キ、其詳

細ヲ論述セント欲ス。

〔第三九九項〕毎日ノ回訪 産褥ノ初メ八日間ハ、毎日、朝夕二回、爾

後、第二週ノ終リニ至ルマデハ、毎日一回宛、褥婦ヲ訪ヒ、褥婦及ビ小兒ノ看護ニ注意ス可シ。而シテ褥婦ニ就キ、先ヅ之レニ必要ノ事項ヲ訊問シ、後チ親シク各事項ヲ檢査センコトヲ要ス。即チ次ノ如シ。

〔第四〇〇項〕褥婦ニ就キ注意ス可キ事項 ハニ褥婦ノ自覺

徵候、發熱ノ有無、二乳房、腹部及ビ子宮ノ状態、三惡露ノ性状ニ在リトス。次ニ各事項ヲ細説ス可シ。

〔一〕先ヅ褥婦ニ就キ、睡眠佳良ナリヤ、食欲善良ナリヤ、渴ハ存セザルヤヲ問ヒ、次ニ脈ヲ診シテ、其疾キカ徐カナルカヲ檢シ、又、胸部ノ皮膚ニ觸レ、其熱ナキヤ否ヤヲ知り、後チ、檢温器ニヨリ、其體温ノ度ヲ測定ス可シ。

〔二〕乳房ニ就キ、先ヅ、乳頭ニ損傷ノ存スルコトナキカヲ檢シ、次ニ腹部ヲ按シ、疼痛及ビ膨滿、産褥熱若クハ便秘ノ徵ノ存スルコトナキカ、及ビ子宮底ノ高サヲ知ル可シ。膀胱充滿スレバ、子宮ハ屢々、高ク側方ニ壓推セララル、

「一」アリ。其他子宮及び子宮廣韧带(子宮ノ兩側部)ヲ輕ク押壓シ、其疼痛ヲ訴フルコトナキヤヲ察ス可シ。

「三」屢抵布及び敷布ニ就キテハ、出血ノ有無及び多少、惡露ハ純血ナルカ血水様ナルカ、又ハ膿汁様ナルカヲ視、且ツ其臭氣ノ有無ヲ檢センコトヲ要ス。

「第四〇」一項「壓抵布及び敷布ノ交換」 壓抵布ハ、最初屢々交換ス可キモ、爾後ハ、一日凡ソ二回ナル可シ、又、壓抵布及び敷布ハ、發汗若クハ出血ニヨリ濕潤セラル、トキハ、毎○回○速○カ○ニ○交○換○ス○ル○ヲ○要○ス。

「第四〇」二項「精神身體ノ安靜並ニ褥室」 褥婦ハ精神身體ヲ安靜ナラシムルヲ以テ、極メテ緊要ナリトス、故ニ、最初ハ、精神ノ感動ヲ避

クシメ、悲哀バ勿論、過劇ノ喜悅モ亦之レヲ遠ザケ、他人ノ來訪ヲ停メ、近親者ト雖ドモ、可及的、褥室ニ入ラシムルコトナク、且ツ、各種ノ運動ヲ禁ジ、談話

モ亦、可及的之レヲ營マシム可カラズ、而シテ、產褥室ハ喧鬧ニ遠カリ、中等

大ニシテ乾燥シ、善ク光線ヲ通入セシム可ク、加之、必要アラバ之レヲ曇暗トナシ得可カラシムルヲ佳トス、此ノ如クニシテ、褥婦ヲ安眠セシムルト

キハ、大ニ其精力ヲ回復セシム、但シ、熟眠ノ間ハ、顔色、四肢ノ温度等ニ注意シ、出血氣絶等ノ發スルコトナキヲ察ス可シ。

「第四〇」三項「褥婦ノ就褥」 褥婦ハ、最初九日間ハ、必ズ褥中ニ臥サシメ、交番ニ、左右側臥及び仰臥ニ居ラシムルヲ要ス、若シ過早ニ起床スル

トキハ、創傷ノ治癒ヲ妨ゲ、出血ヲ發シ、又ハ、子宮及び腔ノ脱出等ヲ生ズルノ害アリ、第十日ニ至ラバ、初メ一二時間、褥中ヲ出デシメ、日々其時間ヲ長

クシ、裁縫ノ如キ平易ノ業務ヲ試マシメ、強健ノ婦人ニ在リテハ、三週間、冬時ハ五六週間ヲ經レバ、慎重ニシテ外出ヲ許ス可シ、虛弱ノ婦人ニ在リテ

ハ、適宜ニ就褥靜居ノ時日ヲ長カラシムルヲ要ス、一褥婦全ク臥床ヲ離ルハ、際ハ、丁寧ニ内検査ヲ施コシ、子宮或ハ扁韧带部ニ疼痛存在セザルヤ、

及ビ子宮口ハ、既ニ指ヲ通ジ得ザルヤヲ檢知ス可シ。

「第四〇」四項「被衾」 ハ褥婦ノ求メニヨリ、之レヲ加フ可シ、産褥ノ初期ニハ、甚ダシク發汗ヲ催フスノ傾アルニヨリ、被衾ノ厚キニ過グルハ却テ不良ナリ、但シ注意シテ、感冒セシメザルヲ緊要ナリトス。

第四〇五項 外陰部ノ清潔法

外陰部ハ初メ毎日二回、爾後ハ一回宛、一%石炭酸水若クハ二%硼酸水ノ微温液ヲ用キテ洗滌シ、創傷アラバ、硼酸末又ハヨードフォルムヲ撒布シ、而シテ、外陰部ニハ三%石炭酸水ニ蘸セル瓦設ヲ置キ、其上ニハ乾燥セル數重ノ布片ヲ壓抵シ、丁字縋帶ヲ施シ、以テ惡露ヲ吸收スルノ用ニ供ス可シ、又布片及ビ縋帶ハ洗滌消毒シテ、再ビ使用スルヲ良トス。

布片ノ單簡ナル消毒法

布片ヲ單簡ニ消毒センニハ、普通ノ蒸飯器ヲ用キ、恰モ、冷飯ヲ蒸スガ如ク、消毒ス可キモノヲ片巾ニ包ミ、之レヲ器中ニ容レ、蒸熱スルコト三十分間ナル可シ、此ノ如クスレバ、其消毒ノ効、十分ナルモノトス。

第四〇六項 腔内ノ洗滌

ハ順正ノ經過ヲ取レルモノニ在リテハ、敢テ必要ナラズ、却テ不完全ノ洗滌ヲ施コストキハ、損傷又ハ傳染症ヲ生ゼシムルノ害アリ、故ニ醫師ノ命アルニアラザレバ、之レヲ行フ可カラ

第四〇七項 尿利

ハ産褥初期ノ間、殊ニ之レニ注意シ、若シ七八時間ヲ經テ自ラ排泄スルコトナケレバ、カテーテルヲ用ユ可シ、其送入法ハ、正規分娩處置、第二九三項ニ詳カナリ、又初メ七日間ハ、便器ヲ用キテ排尿セシム可シ。

第四〇八項 便通

ハ初メ三日間、休止シ、後、毎日一回之レアルヲ佳トス、第四日ニ至リ、自ラ通利スルコトナケレバ、微温ノ石礮水(石礮凡ソ二匁ヲ入ル)又ハ稀薄ノ葛湯五六匁ヲ用キ灌腸ス可シ、又、便通ノ際、最初七日間ハ、毎度便器ヲ用キ、決シテ固ニ往カシム可カラズ、否ラザレバ、眩暈、出血等ヲ發スルコトアリ、〇灌腸ヲ施コスモ、便通ナキカ、若クハ腹部甚ダシク膨滿スルトキハ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第四〇九項 後陣痛

ハ強劇ナリト雖ドモ、發熱ナキトキハ、通例疾病ニヨルモノニアラズ、若シ頻回強ク發起スルトキハ、下腹ニ氷巻法ヲ施コシ、第三日以後ハ、濕布巻法ヲ以テ交換ス可シ、此法ニヨリ、後陣痛緩解セザルトキハ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

〔第四一〕項「食事」ハ其食欲ニ應ジ、適度ニ與ハ、飢餓若クハ飽滿セシム可カラズ。而シテ初メ三日間ハ、流動性ノ食物、即チ牛乳、稀粥、肉蒸汁、半熟卵等ヲ與ハ、食欲亢進セル者ニハ、少量ノ柔軟ナル良肉ヲ與フルモ亦可ナリ。第四日ヨリ漸次ニ固形ノ食物ヲ取ラシメ、二三週間ニシテ、徐々に常食ニ復セシムルヲ要ス。○褥婦授乳セザルトキハ、最初十日間ハ、少シク食糧ヲ減ズルヲ良トス。又、虚弱ナル婦人ニ在リテハ、臥床ヲ離ル、ノ時期ニ至レバ、良好ノ酒類ヲ飲マシムルモ亦可ナリ。其他、褥婦ノ食料ニ就キ、其詳細ヲ知ラント欲セバ、該篇末ニ附録トセル、第百章褥婦ノ營養法ヲ參看ス可シ。

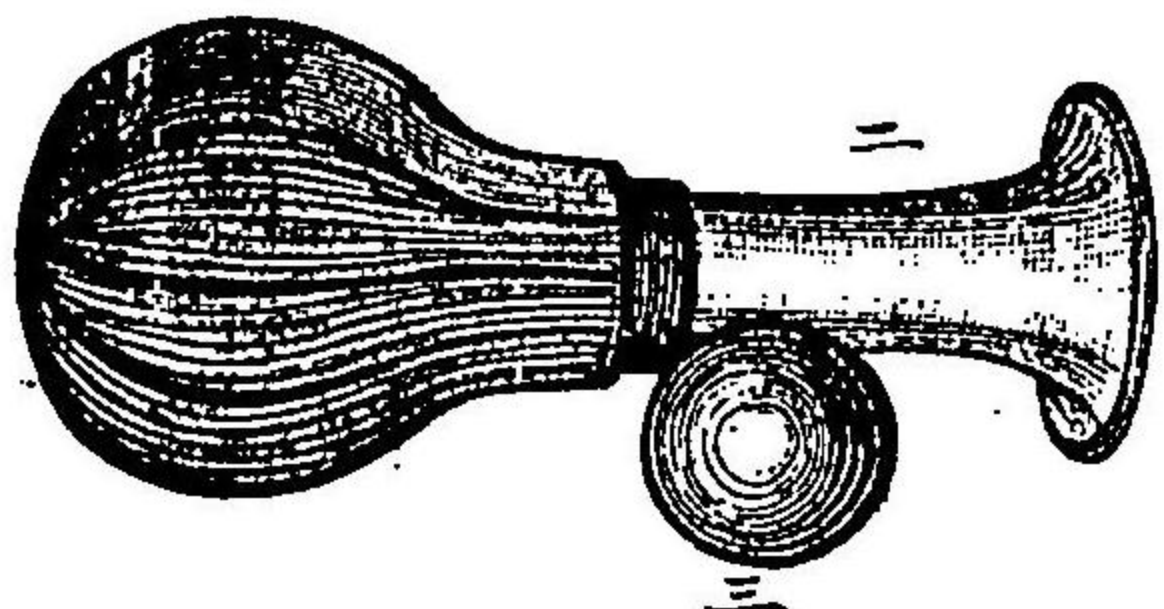
〔第四一二〕項「最初ノ授乳」褥婦及ビ小兒ノ、一タビ安眠セルノ後、即チ分娩後七八時間ヲ經レバ、第一回ノ授乳ヲナス可シ。或ハ一二日間、乳房ニ就カシメザルガ如キハ、甚ダ不可ナリ。若シ此ノ如クスレバ、小兒ハ衰弱シテ哺乳ノ力ヲ減ジ、乳房ハ刺戟ヲ受ケザルガ故ニ、分泌増進スルコトナク、若シ或ハ之レニ反シ、乳房緊滿スルコトアルトキハ、爲メニ乳頭短小

トナリ、小兒ハ之レヲ含ミ難キニ至ルノ害アリ。○又一回ノ授乳ニハ、一側ノ乳房ニ就カシムルヲ良トス。

〔第四一二〕項「授乳ノ困難ナル場合」

時トシテハ、授乳困難ナルコトアリ。殊ニ乳頭ノ甚ダ短キモノ、乳房ノ扁平ニシテ緊滿シタルモノ等是レナリ。此ノ如キモノニ在リテハ、圖ノ如キ吸乳器ヲ用キテ、乳頭ヲ吸出センコトヲ務ム可シ。小兒、乳房ニ附ザルトキハ、指ヲ以テ静カニ下顎ヲ押シ下ゲ、口ヲ開

第九 第四 圖 吸乳器 之 圖



- 一、護膜球
- 二、喇叭形ヲナセルモノニシテ硝子ヨリ成リ、乳房ニ貼シ吸引セシム
- 三、同ク硝子ヨリ成リ、「二」ニ附屬シ吸出セル乳汁ヲ受容スルモノ

キテ乳頭ヲ含マシメ、温カキ砂糖水二三滴ヲ、乳頭ヨリ兒ノ舌上ニ流入セシメ、以テ哺乳ヲ促ガス可シ。或ハ初メ、小指ヲ兒ノ口内ニ挿入シ、砂糖水ヲ

舌上ニ滴入セシメ、之レヲ嚥下スルニ至リ、乳頭ヲ啣マシムルモ、亦可ナリ。
 [第四一三項]授乳ノ時間　ハ一定シ、晝ハ凡ソ毎二時間トナスヲ良トス、此ノ如クナルトキハ、小兒モ亦之レニ慣レ、消化善良ニシテ、發育宜シク、且ツ、甚ダ看護ニ便ナルノ益アリ、又、夜間ハ、毎四時ニ授乳ス可シ。

[第四一四項]授乳時、乳房ノ處置　總テ授乳スルノ際ハ、先ツ清潔ナル布巾ニ清水ヲ浸シ、乳頭及ビ乳暈ノ部ヲ拭ヒ、而シテ既ニ授乳シ終ラバ、再ビ同前ノ法ヲ行ヒ、後チ、清潔ナル布巾ヲ以テ乳房ヲ被ヒ、温カニ保タシメ、ンコトヲ要ス、若シ乳房ヲ不潔ナラシムルトキハ、小兒ニ口内ノ疾患ヲ發セシメ、且ツ、乳頭ノ糜爛、乳管ノ閉塞、乳腺炎等ヲ生ゼシムルニ至ル。
 [第四一五項]乳量僅少及ビ乳汁緊滿ノ處置　泌乳僅少ナルモ、直チニ授乳ヲ廢スルコトナク、牛乳等ノ滋養物ヲ進メ、多量ノ飲料ヲ與フ可シ、殊ニ麥酒ヲ飲マシムルヲ良トス、泌乳劑ハ、必ずシモ確効ナシト雖ドモ、尙ホ之レヲ醫師ニ請フテ服セシムルヲ可トス、若シ又、乳量過多ニシテ緊滿シ、悉ク排泄シ、能ハズ、且ツ苦痛ヲ訴フルトキハ、少シク食量ヲ減ジ、

且ツ殊ニ飲料ヲ制限シ、乳房ヲ提舉シ、胸上ニ細帶ヲ施コシ、醫師ヨリ緩和ナル下劑ヲ請ヒ、用キシム可シ。一、産婦若シ授乳セザルニヨリテ、乳汁蓄積セル際ニモ亦、同様ニ處置ス可シ、妄リニ搾リ出ダスハ、却テ分泌ヲ増サシメ、苦痛ヲ加フルモノナリ。

[第四一六項]乳管閉塞及ビ乳頭損傷ノ豫防法　乳管ハ時トシテ、乾固セル乳汁若クハ表皮ニヨリテ閉塞シ、乳汁ハ乳腺中ニ蓄積シ、遂ニ時トシテハ、乳腺ノ炎症ヲ來スコトアリ、故ニ、此ノ如キ場合ニ於テハ、注意シテ、乳頭ヲ檢シ、附着物ヲ除キ、且ツ之レヲ洗淨スルヲ要ス、又、乳頭赤色トナリテ、糜爛ヲ呈セントスルモノハ、授乳ノ直後、十倍ノ硼酸ワゼリン(若クハ單グリセリン)ヲ塗布シ、授乳ノ際ハ、善ク之レヲ洗去ス可シ、其他表皮剝脫、糜爛、裂創等ヲ發セルモノ、處置ハ、第七篇、異常産褥中ニ於テ之レヲ説明ス可シ。

[第四一七項]其兒ニ授乳ス可カラザル場合　母若シ重症疾患、精神病、癩癩、肺癆、梅毒、慢性ノ皮膚病等アルカ、若クハ其身體甚ダ虛弱ナ

ルトキハ、醫師ノ診察ヲ求メ、其兒ニ授乳ス可カラザル者トス。但シ、慢性ノ梅毒ニ在リテハ、醫師ノ診斷ニヨリ、梅毒療法ヲ施コシ、其兒ニ授乳シ得ルコトアリ。是レ、醫藥ハ乳汁中ニ混ジ、兒體ニ奏効スルニヨル。

「第四一八項」乳腺炎ノ豫防法 乳腺炎ハ、褥婦ニ屢發スル所ノ疾患ニシテ、微菌ノ乳頭部ヨリ乳腺ニ進入スルニヨリテ發シ、大ニ婦人ヲ苦マシムルモノナリ。故ニ、時トシテ、之レガ豫防法ヲ必要トスルコトアリ。之レヲ次ニ記ス可シ。●新タニ分娩セル婦人ニ就キ、温湯、石鹼、及び刷毛ヲ用キ、五分時間、乳房ヲ洗滌シ、次ニ四千倍昇汞水ヲ以テ消毒シ、更ニ亞爾箇保兒ヲ以テ昇汞ヲ洗去シ、消毒性布片ヲ以テ被覆ス可シ。爾後、産褥中ハ、常ニ二箇ノ鉢ヲ備ヒ、一箇ニハ昇汞水ヲ盛り、一個ニハ煮沸ヲ經タル清水ヲ容レ、之レヲ傍ラニ置キ、授乳終ラバ、昇汞水ヲ以テ乳房ヲ洗ヒ、消毒セル布片ヲ以テ之レヲ被ヒ、授乳ノ前ニ至ラバ、清水ヲ以テ善ク附着セル昇汞ヲ洗去スルヲ要ス。○或ハ、此法ヲ行ヒ難キ場合ニ於テハ、温湯、石鹼、及び刷毛ヲ以テ乳房ヲ洗滌セルノ後チ、二%硼酸水ヲ以テ消毒シ、爾後、授乳後、毎回、單

ニ硼酸水ヲ以テ洗ヒ、清潔ナル布片ニヨリ、之レヲ被覆ス可シ。―總テ、乳頭ヲ不潔ナラシメ、乾固セル乳渣ヲ附着セシムルガ如キハ、乳腺炎ノ原因ヲナスモノナリ。

第九十六章 初生兒ノ狀態

「第四一九項」初生兒ノ體温 ハ分娩後、二時間ニシテ速カニ下降シ、三十五度ニ至リ、二十四時間ヲ經テ三十七度ニ達ス可シ。直腸ニ於テハ、平均凡ソ三十七度五分トナス。

「第四二〇項」初生兒ノ體量 ハ分娩後、三四日間ハ必ず減少スルモノニシテ、其量凡ソ二百瓦トナス。是レ胎尿等ノ排泄物多量ナルニ係ラズ、身體ノ冷却セラル、ト、哺乳ノ未ダ十分ナルヲ能ハザルガ爲メニ、營養不良ヲ致スニ基ツクモノトス。而シテ第七乃至第九日ニシテ最初ノ體量ニ復シ、第四ヶ月ニシテ倍量トナリ、第十二ヶ月ニシテ三倍ニ達ス可シ。又、毎日ノ増量ヲ示セバ、大凡ソ次ノ如シ。

●小兒各月中、毎日ノ體重増量

第一ヶ月	廿五瓦	第七ヶ月	十五瓦
第二ヶ月	廿三瓦	第八ヶ月	十三瓦
第三ヶ月	廿二瓦	第九ヶ月	十二瓦
第四ヶ月	二十瓦	第十ヶ月	十瓦
第五ヶ月	十八瓦	第十一ヶ月	八瓦
第六ヶ月	十七瓦	第十二ヶ月	六瓦

〔第四二二項〕臍帶斷端ノ變化

臍帶ノ斷端ハ、體温ノ爲メニ漸次ニ乾固シ、所謂木乃伊變性ヲナシ、通例五六日(早キハ三日、遅キハ十日)ニシテ、腹壁ノ接際即チ臍輪ヨリ離斷シ、濕潤セル肉芽面ヲ遺シ、第十一乃至第十五日ニシテ癒合シ、臍ヲ形成ス可シ。但シ、ワルトン氏酸肉ノ多クシテ、臍帶ノ大ナルモノ、又ハ、虚弱ナル小兒ニ在リテハ、斷端ノ離脫スルコト遅キヲ常トス。○若シ又、斷端腐敗シ、臍部化膿ヲ呈スルガ如キコトアルトキハ、種々ノ病變ヲ呈ス可ク、臍輪濶大ナルモノニ在リテハ、努力ニヨリテ、所謂

臍腸ヲ致スモノトス。其詳細ニ至リテハ、第七篇初生児ノ疾患ニ就イテ之レヲ論ズ可シ。

〔第四二二項〕胎尿

ハ、主ニ、大腸内ニ充積セラレタルモノニシテ、青色ノ軟泥ヲナシ、凡ソ三日ニ亘リテ、排泄セラレ、後漸次ニ淡黄色、卵黄様ノ糞便ニ移行シ、一日ノ便通凡ソ三四回トナス。而シテ、其卵黄様ヲナセル糞便ハ、全哺乳期間持續スルモノニシテ、綠色ニ變ジ、若クハ白色ノ小片ヲ混ズルモノハ、皆ナ疾患ニ屬スルモノトス。

〔第四二三項〕初生児ノ尿

初生児ハ膀胱内ニ尿ヲ蓄フルコト甚ダ少キガ故ニ、第一日中ニ排尿スルモノハ、初生児全數ノ三分ノ一ニ過ギズ。其餘ハ、第二日ノ終リニ至ルマデ、排尿セザル者モ亦之アリ。爾後ハ、一日ノ尿利十乃至十五回トナス。○又、初生児ノ尿ハ多量ノ尿酸ヲ含ミ、時トシテハ混濁ヲ呈シ、裸襠等ニ附着スレバ、乾固シテ、白點ヲ遺スコトアリ。

〔第四二四項〕初生児ノ消化器

凡ソ消化液ノ主要ナルモノニ就キ、唾液ハ澱粉質ノ消化ヲ營ミ、胃液ハ蛋白質ノ消化ヲ司ドリ、胆汁ハ蛋

白澱粉、脂肪ノ三者ヲ消化セシムルノ作用ヲ有スルモノトス。而シテ小兒ハ最初ヨリ、蛋白、脂肪ノ消化作用ヲ完備スト雖ドモ、澱粉ノ消化、即チ澱粉ヲシテ葡萄糖ニ變ゼシムルノ作用ハ、唾液、尿液共ニ第十乃至第十二週ニ至ラザレバ、之レヲ有スルコトナシ。故ニ、此期日前ニ在リテハ小兒ヲシテ、澱粉質ノ食飼ヲ取ラシム可カラズ。

第九十七章 初生兒ノ看護法

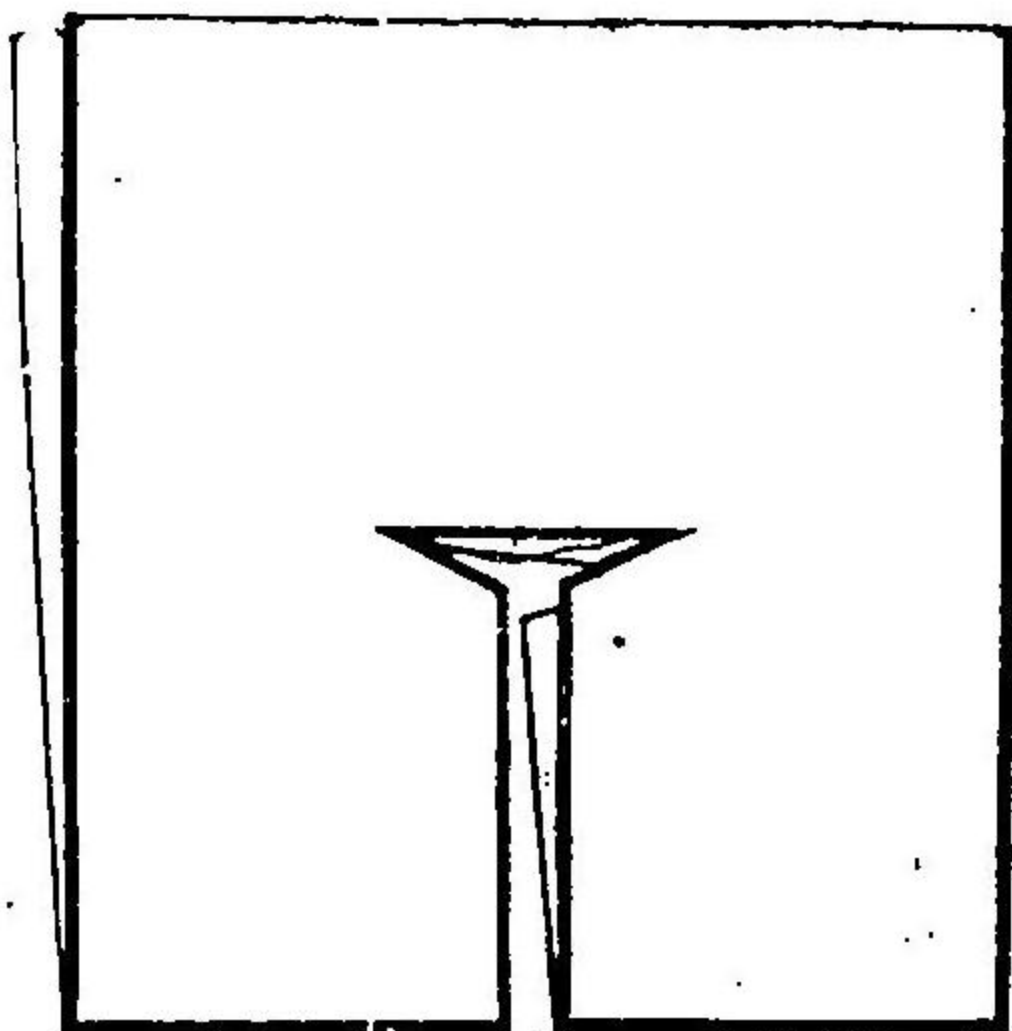
「第四二五項」第一回ノ温浴 臍帶ノ切離ヲ終ラバ、攝氏三十六度（日本ニ在リテハ、三十八度乃至四十度ヲ適當トス）ノ温湯ヲ取り初生兒ヲシテ第一回ノ温浴ニ入ラシメ、血液、粘液等ヲ洗除ス可シ。眼ハ決シテ浴湯ニ觸レシムルコトナク、別ニ清水ヲ器中ニ盛リ、軟カキ布片ヲ以テ之レニ浸シ、拭ハシコトヲ要ス。胎脂ハ、時トシテ硬固トナリ夥シク皮上ニ附着スルコトアリ。此ノ如キ場合ニ於テハ、阿列布油若クハ卵黄ヲ塗布シ、之レヲ洗除スルヲ良トス。又、浴湯ノ温度ハ、檢温器ヲ用キテ、之レヲ定ムルヲ佳ト

ス。否ラザレバ、多クハ熱キニ失シ、皮膚ニ損傷ヲ發シ、臍ノ治癒ヲ妨害シ、又ハ、神經ヲ刺戟シ、甚ダシキハ痙攣ヲ發セシムルコトアリ。○既ニ小兒ヲ浴セシメ終ラバ、之レヲ柔軟ナル布巾ノ上ニ受ケテ、丁寧ニ、皮膚及ビ皺襞間ノ濕潤ヲ去ル可シ。否ラザレバ、損傷ヲ發スルコトアリ。早産セル小兒、又ハ甚ダ肥滿セルモノハ、之レヲ致シ易キガ故ニ、注意セザル可カラズ。其他、浴湯ニ入ラシムルノ際ハ、善ク兒體ヲ檢シ、兔唇、鎖肛、駢指、脣口閉鎖等ノ畸形ナキヤ否ヤヲ見ル可シ。若シ之レアラバ、直チニ其母ニ知ラシムルコトナク、之レヲ家人ニ告ゲ、以テ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ。

「第四二六項」臍帶斷端ノ處置 臍帶ノ斷端ヲ處置スルニハ、殊ニ防腐ニ注意ス可シ。即チ、小兒ヲ浴セシメタル後チ、産婆ハ、其手ヲ清潔ニシ、先ヅ臍帶ノ結紮部ヲ檢シ、若シ出血アラバ、更ニ緊シク結紮ヲ施シ、硼酸末（著シクハ沃度仿）ヲ臍帶ノ斷端ニ撒布シ、消毒セル瓦設ヲ以テ、上圖ニ示セルガ如ク、方三寸ノ切片ヲ造リ、之レヲ包被シ、又ハ、消毒綿ヲ以テ之レヲ包ムモ亦可ナリ。而シテ巾四指横徑ニノ長サ五十仙迷ヲ有スル二片ノ綳帶

第九十五圖

圖ノ片設瓦ハ被句コ帶臍



瓦設チニ
重ニ折リ
中央チ丁
字形ニ剪
リテ造レ
ルモノチ
示ス

ヲ重積シ其中央部ヲ、
兒ノ背下ニ置キ、臍帶
ノ斷端ヲ上方ニ向ケ、
少シク左方(兒ノ右方)
ニ偏セシメ、綳帶ノ兩
端ヲ交互ニ閉合シ、以
テ之レヲ臍部ニ綳帶
ス可シ、而シテ爾後綳

帶ヲ交換スルニハ、毎回必ズ其母ノ處置ヨリモ先キニスルヲ良トス。否ラ
ザレバ、惡露ノ病毒ヲ臍ニ傳ヘ、其癒合スルコト遅ク、或ハ糜爛ヲ呈シ、遂ニ
潰瘍トナリ、甚ダシキハ發熱シテ壞疽ニ陥ルコトアリ。此ノ如キモノアル
トキハ、産婆ハ其罪ヲ免ルハコト能ハズ。殊ニ臍ノ甚ダシキ病變ハ、母體
ニ產褥熱アルノ際ニ發スルコト多キガ故ニ、注意スルヲ要ス。

「第四二七項」初生児眼炎ノ豫防

母體ニ淋毒性疾患アルトキ

ハ、小兒産出ノ際其毒ヲ受ケ、眼病即チ膿漏性結膜炎ヲ發シ、甚ダシキモノ
ハ、角膜炎ヲ來シ、遂ニ失明スルコトアリ、甚ダ恐ルベキモノトス。故ニ産婦
ノ陰部ヨリ多量ノ膿性分泌物ヲ生ズルモノハ、淋疾ノ疑アルガ故ニ分娩
中ニハ、既ニ記スルガ如ク防腐液ノ腔内灌注法(第二八九項)ヲ施コシ、其産
兒ハ、速カニ醫治ニ託シ、眼炎ノ豫防法ヲ請ハシム可シ。但シ此眼炎ノ豫
防法ハ、一眼中ニ二%硝酸銀水各々一滴ヲ點眼スルモノナルガ故ニ、産婆
ニシテ此法ヲ學ビ、之レニ習熟スルモノハ、自ラ此法ヲ行フヲ得ヘシ。而シ
テ、若シ尙ホ炎症ヲ發スルノ徵アルヲ見バ、速カニ醫治ヲ求メンコトヲ要

「第四二八項」毎日ノ温浴

小兒ハ、清潔ナラシムルヲ要スルガ故

ニ、毎日一回、浴湯ニ入ラシム可シ。温浴ノ際、臍帶ノ斷端ハ、毎回、上記ノ法(第
四二六項)ニヨリ處置ス可シ。

「第四二九項」小兒ニ授乳スルノ方法

ハ、既ニ第四一一項乃至

第四一八項ニ詳論セリ。就テ之レヲ看ル可シ。

「第四三〇項」小兒ノ吐乳 小兒ハ、一時ニ多量ノ乳汁ヲ飲マシムルトキハ、往々ニシテ吐乳スルモノナリ。是レ主トシテ、小兒ノ胃ノ比較的ニ小ナルト、胃ノ彎曲少ナキ(胃底小ナリ)ニヨル。而シテ小兒吐乳ズルト雖ドモ、疾病ナキモノハ、敢テ其成育ニ害アルモノニアラズ。只、其煩ラハシキガ爲メニ、一時ニ過多ノ乳汁ヲ飲マシメザルヤウ注意ス可シ。

「第四三一項」小兒ノ衣服及び臥床 衣服ハ、少ナクモ朝夕ニ回交換ス可シ。襪襪ハ、柔軟ナル綿布若クハ使用ヲ經タル布片ヲ用ユルヲ佳トス。而シテ此等ノ物品ハ、濕潤スレバ、體温ヲ導キ易キガ故ニ、速カニ交換スルヲ要ス。敷布團ハ、甚ダシク輕軟ニシテ、其身體ヲ埋沒セシムルガ如キモノハ、不可ナリ。而シテ布團ハ、屢々日光ニ晒ラス可シ。搖籃及ビ鞦韆ヲ用キ、劇シク小兒ヲ振搖セシムルハ、極メテ不良ナリ。之レニヨリテ、小兒ノ體温ヲ失ハシメ、甚ダシキハ、眩暈ヲ來タシ、嘔吐、腦症等ヲ生ズルコトアリ。

「第四三二項」坐位

ハ、頸部尙ホ薄弱ニシテ正シク頸部ヲ支エ能

ハザルノ間ハ、之レヲ致サシム可カラズ。

「第四三三項」小兒ヲ温暖ナラシムルノ必要并ニ特別ナル温槽 小兒ハ、體温ヲ失ヒ易キガ故ニ、温婆其他ノ器具ヲ用キ、注意シテ温暖ナラシムルヲ必要ナリトス。早産兒ノ如キ、虛弱ナル小兒ニ在リテハ、身體温暖ナラザルトキハ、容易ク死亡スルガ故ニ、最モ注意ヲ加ヘザル可カラズ。殊ニ、特別ノ温槽ヲ用ユルヲ良トス。即チ四壁及ビ底ノ重複セル金屬製ノ一槽ヲ造リ、兩壁間ニ攝氏四十度ノ温湯ヲ充テ、火力ヲ用キテ、斷エズ其温度ヲ均一ナラシメ、以テ槽内ニ小兒ヲ安臥セシム可シ。此ノ如クナラシムルトキハ、頗ル虛弱ナル小兒ト雖ドモ、能ク發育シ得ルモノトス。

「第四三四項」小兒ヲ愛慰シ又ハ接吻スルヲ 手或ハ詞ヲ以テ初生兒ヲ愛慰スルモ、感覺ナキヲ以テ無益ナリトス。殊ニ、人ヲシテ、妄リニ小兒ノ唇頭ニ接吻セシムルハ、甚ダ不可ナリ。是レ、容易ク梅毒等ヲ感染セシムルノ恐アルニヨル。高声ヲ以テ歌ヒ、又ハ、小兒ヲ呼ブ可カラズ。小兒ノ聽官ハ、尙ホ高声ヲ聞クニ耐エズシテ、爲メニ容易ク喫驚

スルモノナリ。

〔第四三五項〕小兒ノ啼泣 小兒ヲ健全ニ發育セシムルニハ、靜居セシムルヲ以テ緊要トナス。小兒若シ少シク號泣スル時ハ、直チニ之ヲ抱舉シ、忙シク振搖シ、數々滋養物ヲ與ヘ、遂ニ小兒ヲ疾病ニ陥ラシムルモノアリ、更ニ愚ナルハ、其小兒ヲ安靜ナラシメンガ爲メニ、砂糖其他ノ物品ヲ包メル。小囊ヲ口内ニ含マシメ、或ハ、茶等ノ飲料ヲ與フルニ在リ。此ノ如クニシテ、安靜ナラシムヲ得ルモ、少時ニシテ、再ビ更ニ之レヲ用キザルヲ得ザルニ至ル可シ。○凡ソ、小兒ハ、飽滿シ、濕潤スルコトナク、佳良ニ眠リ、便通適度ニシテ、體量減ズルコトナキモノハ、少シク號泣スト雖ドモ、敢テ願慮スルコトヲ要セズ。却テ、體操ヲ營ムガ如ク、其運動ニヨリ、肺ヲ強壯ナラシムルノ効アリ。只、一襦袢ノ濕レルトキハ、啼泣スルコトアルガ故ニ、之レヲ交換ス可シ。其他、二蚤刺又ハ針等ノ刺傷ニヨリ、三腹痛、苦惱等ニヨリ、四習慣ノ不良ナルニヨリテ、不穩ナルコトアルガ故ニ、之レニ注意センコトヲ要ス。

〔第四三六項〕小兒ノ離乳并ニ乳齒

小兒第九ヶ月ニ至レバ、乳

房ヨリ離レシム可シ。但シ、第八ヶ月ヨリ、徐々ニ之レニ習慣セシムルヲ要ス。即チ、始メハ授乳スルノ傍ラ、牛乳、肉煮汁、稀粥、鶏卵等ヲ與ヘ、漸次ニ其量ヲ多クシ、徐カニ習慣セシメ、後チ全ク乳房ヲ離レシムルヲ良トス。但シ、其時期、夏時ニ際スルトキハ、離乳ヲ猶豫セシム可シ。○肉類ヲ食セシムルハ、第一年ヲ經過シ、乳齒ノ一部、生ゼルノ時期ニ於テス可シ、一而シテ乳齒ナル者ハ、全數二十個ニシテ、第六ヶ月ヨリ發生シ、第二年ノ終リニ至リ完成シ、第八年以後ニ至リ、漸次ニ久性齒ト交換スルモノナリ。

〔第四三七項〕初生児ノ損傷疾病等 二就キテハ、第七編異常産褥中ニ記述ス可シ。

第九十八章 乳母ノ検査

〔第四三八項〕生母若シ乳汁乏シキカ又ハ疾病アルトキハ、乳母ヲ撰ビテ、小兒ヲ養育セシム可シ。而シテ乳母ヲ撰定スルハ固ヨリ

醫師ノ任ズル所ナレドモ、産婆ハ豫カジメ乳母ニ適スルヤ否ヤヲ視、然ル後ニ之レヲ醫師ノ許ニ送ル可キモノトス。即チ茲ニ産婆ノ檢知ス可キモノハ、乳母ノ資質及び乳房ノ状態ノ二トナス。

〔第四三九項〕乳母ノ資質 乳母ハ年齢凡ソ二十乃至三十五年ニシテ、二三回分娩セルモノ、殊ニ田舎ノ婦人ヲ佳トス。又乳母ハ敢テ生母ト同時ニ分娩セルモノナルヲ要セズ。甚ダシク時期ヲ異ニセザレバ可ナリ。然レドモ、乳母ノ分娩時ハ、生母ニ比シテ一、二ヶ月早キヲ以テ最モ良トス。

〔第四四〇項〕乳房ノ性質 ニ就キテハ、乳房ノ形状ヲ緊要ナリトス。即チ、乳房ハ脂肪過多ナラズシテ、圓錐形ヲナシ、壓搾スレバ、乳汁ハ線ヲナシテ射出セザル可カラズ。甚ダシク肥大セル乳房ハ、却テ多量ノ乳汁ヲ出サレ、ゴト多シ。又、乳房ニ糜爛、裂傷、癩痕、皮膚病等アルトキハ不可ナリ。○善良ナル乳汁ハ、白色ニシテ少シク青色ヲ帶ビ、其一滴ヲ爪上ニ取り、稍速カニ動かスモ、容易ニ散流ス可カラズ。其他、可及的乳母ノ産兒ヲ檢ス可シ。産兒健康ナルトキハ、其乳汁ノ性質、大概善良ナルヲ推知シ得可シ。

〔第四四一項〕乳母ノ攝生法 ハ可及的、慣レタル肉類ヲ適度ニ與ヘ、慣レタル業務ニ就ケ、裸體ノ洗濯等ヲ擔任セシメ、又ハ、毎日、屋外ニ運動セシムルヲ佳トス。而シテ、起臥、飲食ハ必ズ規律ヲ正シクセシム可シ。

第九十九章 小兒人工營養法

〔第四四二項〕適當ナル人工營養品 母乳又ハ乳母ヲ以テ、小兒ヲ養育スルコト能ハザルトキハ、牛乳ヲ以テ、代用スルヲ最モ適當ナリトス。但シ、牛乳ハ固形分ノ量多クシテ、百分中固形分凡ソ十四分、且ツ人乳固形分十一分ニ比スレバ、頗ル消化シ難キ性ヲ有スルガ故ニ、却テ驢馬ノ乳又ハ山羊ノ乳(此二者ハ、固形分ノ量、人乳ト牛乳ノ間ニアリ)ヲ以テ勝レリトナス。然レドモ、此二種ノ乳汁ハ、通例之レヲ得ルコト難キヲ以テ、一般ニ牛乳ヲ用ユルヲ適當ナリトス。

總テ乳汁ハ、胃中ニ入レバ、胃酸鹽酸ニヨリテ、一タビ凝固シ、次デ消化シ溶解スルモノトス。而シテ、人乳ノ凝固ハ、細小ニシテ柔軟ナレドモ、牛乳ナル

トキハ、大ニシテ頗ル硬キヲ常トス。是レ主トシテ、牛乳ノ消化不良ナル所以ナリ。

「第四四三項」牛乳ハ稀釋スルヲ要ス。上ニ述ブルガ如ク、牛乳ハ濃厚ニシテ、且ツ頗ル不消化ナルガ故ニ、之ヲ初生兒ニ與フルニハ、水ヲ和シテ稀釋ス可シ。今、其分量及ビ稀釋ノ方法ヲ記スレバ次ノ如シ。

牛乳稀釋表	
第一月中	第一週 牛乳 一 第二週 牛乳 一 水 三
第二、三、四、五、六、月	牛乳 一 水 二
第六月後	全 一 全 〇

「第四四四項」牛乳ヲ稀釋スルノ法并ニ其程度ハ各人ノ見

ル所ニヨリテ、多少ノ異ナル所アリ。而シテ間々、精細ノ稀釋法ヲ示ス者アリト雖ドモ、精細ナルトキハ、之レヲ記憶スルコト能ハズシテ、實地ニ當リ、混雜ヲ免レズ、且ツ、小兒ニ在リテモ、其稟賦ノ強弱ニ從ヒ、既ニ初月ヨリ強壯ナルアリ、數月ノ後ニ至ルモ、却テ之レニ劣レルモノアリ。爲メニ、實地上ニ於テハ、月數ニヨリ、固ク稀釋法ヲ守ルコト能ハズ。故ニ上表ニ示スガ如ク、牛乳ニ對シ、第一月中、第一週ニハ、水四、第二週以後、第四週マデハ、水三、第二月及ビ第三月ハ、水二、第四月及ビ第五月ハ、水一ヲ加ヘ、第六月以後ハ、純粹ノ牛乳ヲ用ユ可シト定ムルヲ以テ、最良トガス。然レドモ、小兒ノ状態ニヨリ、時トシテ、多ク稀釋ス可キコトアリ。即チ小兒ノ便中ニ白色ナル不消化性ノ乾酪小片ヲ多ク混ズルカ、又ハ綠色ノ便ヲ下痢スルトキハ、更ニ幾分ノ水ヲ增加ス可キモノトス。

「第四四五項」牛乳ヲ用ル法 先ツ、乳商ヨリ得タル牛乳ニハ、上記ノ牛乳稀釋表ニ從ヒテ水ヲ混ジ、其混和シタル乳汁液二〇〇〇ニ就キ砂糖又ハ乳糖六〇ヲ加フルカ、水ヲ和スルガ爲メニ、其甘味ヲ失フニヨル或

ハ又二十倍ノ砂糖水ヲ作り、前記ノ表ニ從ヒ、牛乳ニ混和スルヲ良トス。其
他乳汁ノ凝固ヲ防ガシ、炭酸曹達又ハ石灰水ノ少量ヲ加フル
アリ、此ノ如クニシテ調製セル乳汁ヲ、凡ソ一回ノ哺乳量ヲ容ル可キ數箇

第九十六圖

モリス氏乳裝器ノ圖



甲、内ニハ水ヲ盛ルコトニ寸ニシテ、挿入シテ、火ニ煮沸スルモノ

乙、洗淨セル壺ヲ倒ニ樹ツル蓋ニシテ引出中ニハ吸子等ノ物品ヲ納ム

丙、乳汁水等ヲ計ルニ用ユル液量計

丁、授乳時ニ乳壺ノ傾チナス鐵葉ノ籠

ノ乳壺ニ分テ容レ、各壺ニハ、綿花ヲ挿入シテ、栓子トナシ、此各壺ヲ少許ノ湯ヲ盛リタル釜中ニ樹テ、三十分間煮沸ス可シ、或ハ乳壺ヲ直チニ炭火上ニテ沸騰セシムルモ亦可ナリ、若シ

圖ニ示スガ如キ、モリス氏ノ養乳器ヲ用ユルキハ最モ佳ナリトス。總テ牛乳ハ、一回煮沸セルモノニアラザレバ、之レヲ用ユ可カラズ。然ラザレバ、時トシテハ、母牛ニ結核病アルカ、又ハ、運搬ノ際ニ種々ノ微菌ヲ混ズルニヨリ、恐ル可キ疾病ヲ生ズルコトアリ。但シ精確ノ注意ヲ以テ自家ニ搾取セル牛乳ハ、煮沸セザルモ亦可ナリ。此ノ如ク準備セルノ後チ、之レヲ小兒ニ與フルニハ、綿花栓子ヲ施コセル儘、之レヲ火上ニ温メ、體温度ニ至ラシメ、直チニ吸子ヲ壺中ニ挿ミ、哺吸セシム可シ、但シ其温度ハ、乳壺ヲ頬上ニ抵テ、之レヲ試ミ、以テ適當ナラシムルヲ良トス。

「第四四六項」小兒ノ飲用ス可キ乳量

今、健充ニシテ強壯ナ

ル小兒ノ哺乳量、每一日ノ全量ヲ舉グレバ、大約次ノ如シ。但シ、毎日授乳ノ回數ハ、凡ソ六回乃至八回トナス。

第一日	五〇瓦	第三日	二〇〇瓦
第二日	一五〇瓦	第四日	二五〇瓦

第五日	三二五瓦	第二十五日	五二〇瓦
第六日	三六〇瓦	第四十日	六五〇瓦
第七日	三九〇瓦	第七十日	八〇〇瓦
第八日	四一五瓦	第三ヶ月	九一五瓦
第九日	四三〇瓦	第七ヶ月	九七五瓦
第十日	四三五瓦	第九ヶ月	一、一〇〇瓦

小兒ハ概テ上記ノ如ク哺乳スルモノナルガ故ニ、哺乳ノ前及ビ後ニ於テ、其體量ヲ秤量スルトキハ、直チニ充分ノ乳汁ヲ取レルヤ否ヤヲ知ル可シ。又、母乳若シクハ、乳母ニ就ケルモノト雖ドモ、此法ヲ施コストキハ、其乳量ノ多寡ヲ確證スルコトヲ得ルモノトス。

〔第四四七項〕牛乳ノ良否 牛乳ハ、枯草ヲ以テ飼養セル乳牛ヨリ取レルモノヲ良トス。青草ヲ用ユルトキハ、小兒ヲシテ下痢及ビ腹痛ヲ發セシメ、又一牛ノ乳成分ハ、時ニ隨テ其量不同アルガ故ニ、數牛ノ乳汁ヲ混和スルヲ佳トス。乳商ハ盛太ニシテ正直ナルモノヲ擇ビ、之レヲ

購求ス可シ。然ラザレバ、稀薄シ、又ハ不良ノ乳汁ヲ與ヘラル、トアリ。

〔第四四八項〕コンデンスミルク シメラ製セルモノニシテ、凡ソ八十分ノ固形分ヲ含ミ、其中砂糖及ビ乳糖ハ、合シテ凡ソ四十一分(概テ固形分ノ半量ヲ占ム)ニ達ス。此ノ如ク糖分多量ナルガ故ニ、之レヲ用ユルトキハ、消化器中ニ甚ダシク酸敗ヲ生ズルノ害アリ。但シ、コンデンスミルクハ、牛乳ヲ得ル能ハザル地方ニ於テ、或ハ止ムヲ得ズ之レヲ用キザル可カラズ。然ルトキハ、大約、次ノ法ニヨリ稀釋スルヲ良トス。

コンデンスミルク稀釋表

第一月	コンデンスミルク	一	水	二五
第二及ビ三月	全	一	水	二〇
第四及ビ五月	全	一	水	一五
第六月以後	全	一	水	一〇

〔第四四九項〕米粥又ハ各種ノ小兒粉 ハ、第三月以後ニアラザ

レバ之レヲ與フ可カラズ何トナレバ此ノ以前ニ在リテハ小兒ノ唾液及
ビ唾液ハ殆ト澱粉質ヲ消化スルノ力ナキニヨル而シテ之レヲ與フル
ヲ必要トナスニ至レバ必ズ醫師ノ命ヲ請フ可シ但シ此等ノ物品ヲ以テ
乳兒ヲ養育セシムルハ害アルヲ免レザルガ故ニ寧ロ全ク廢棄スルヲ
良トス

第百章 附錄 產婦ノ營養法(參考用トナス)

「第四五〇項」產褥婦ノ食物ニ注意ス可キ理由 產婦ハ身
體中ニ頗ル甚ダシキ變狀ヲ有スルニヨリ事物ノ害ヲ被リ易ク僅少ノ
感動又ハ便秘等ニヨリテモ直チニ熱度ノ上昇ヲ致スコトアルモノナ
リ原ト產褥ハ疾病ナラズト雖ドモ時トシテ產婦ハ病者ヨリモ害ヲ發
シ易キコトアリ故ニ其營養法ニ至リテハ最モ注意シ食物ハ甚ダ消化
シ易キモノヲ與フルヲ緊要ナリトス
又食物ハ各種ノ營養物ヲ具フルコト緊要ナリ而シテ其營養物トハ水
食鹽蛋白質脂肪及ビ澱粉是レナリ但シ澱粉ハ消化スレバ糖類葡萄糖
ニ變ズルモノトス

「第四五一項」水 清潔ナル井水又ハ泉水ヲ良トス河水ハ不潔物殊
ニ微菌ヲ含ムガ故ニ一タビ煮沸シテ與フ可シ但シ之レヲ煮ルトキハ
炭酸氣ヲ失ヒ良味ヲ損ズルガ故ニ少許ノ炭酸水(ラム子ノ類)ヲ加フレ

バ大ニ佳ナリ。純粹ノ炭酸水ヲ與フルトキハ、嘔吐又ハ放屁ニ苦シムコトアルガ故ニ、之レヲ用ユ可カラズ。其他、麥湯ヲ造リ、飲用セシムルモ亦佳ナリ。

〔第四五二項〕**褥婦飲料ノ必要** 褥婦若シ飲料ヲ欲セザルトキハ、甚ダシク食物ノ鹹味ヲ強カラシメ、若クハ食鹽塊ヲ與ヘテ、之レヲ甜メシムルヲ良トス。凡ソ飲料少ナキ時ハ、乳量ヲ減ズルモノナリ。

〔第四五三項〕**鶏卵ノ調理法** 蛋白質ノ緊要ナルモノハ、鶏卵及ビ肉類ナリ。鶏卵ハ、生卵又ハ、軟カク煮タル半熟ノモノヲ與フ。鶏卵ヲ煮ルニハ、直チニ沸湯中ニ入ル可カラズ。若シ然ルトキハ、卵殻破裂スルモノナリ。依テ、水ノ沸騰セザルニ先チテ、鶏卵ヲ入ル可シ。而シテ、後チ、煮沸スルノ三分間ナルトキハ、軟カニ煮ヘ、四分間ナルトキハ、稍堅ク蠟ノ如ク、五分間ナルバ甚ダ堅キニ至ル。然レドモ、更ニ長ク煮ルコト三十分間ナルトキハ、脆クシテ、容易ニ破碎スルニ至ルモノナリ。

〔第四五四項〕**鶏卵ヲ肉羔汁中ニ加フルトキハ** 大ニ滋養

ノ力ヲ増ス。之レニ二法アリ、一ハ肉羔汁ヲ熱シ、卵黃ヲ其中ニ落シ、卵黃外圍ノ凝固スルニヨリ、圓形ヲ保タシムルモノ、一ハ肉羔汁ヲ温タメ、卵黃及ビ卵白ヲ共ニ攪和スルモノ是レナリ。

〔第四五五項〕**肉ノ良否** 肉ハ、筋肉ト稱シ、筋纖維ト名クル赤色柔軟ナル細線ノ集合セルニヨリナレルモノニシテ、人ノ食物トシテ緊要ナル蛋白質ナリ。又筋纖維ノ間ニハ、結締織ト名クルモノアリテ、老獸ノ肉ニ於テハ、甚ダ多ク且ツ強クシテ、大ニ消化ヲ妨グルモノナリ。故ニ、肉類ハ結締織ノ柔軟ナル幼獸ノ肉ヲ最良トス。又獸類ノ種類ニヨリテモ、相違アリ、豚肉ハ其齡若キモ結締織多シ。其他、鴨、雁ノ如キハ、筋纖維間ニ多量ノ脂肪アリテ、消化宜シカラザルガ故ニ、産褥婦ノ食料ニ適セズ。

〔第四五六項〕**諸肉類消化ノ難易** 今、肉類ニ就キ、消化シ易キモノヨリ始メ、其難キモノヲ漸次ニ數フレバ、次ノ如シ。(右端ハ最モ消化シ易キモノ、左端ハ最モ難キモノトス)

犢牛ノ脾臟。

牝鶏肉及ビ鳩肉

野獸ノ肉

羊肉

柔軟ナル牛肉及ビ鱈、鯛、比目魚等ノ魚肉

豚肉

田シ、各種ノ肉類ハ、調理法ニヨリテモ、大ニ消化ノ難易ヲ生ズルモノニシテ、老ヒ且ツ韌キ肉ト雖ドモ、打チ若シクハ搗ルカ、或ハ酢又ハ重炭酸曹達ヲ加ヘ、結締織ヲ軟化セシムルトキハ、大ニ柔軟ニシテ消化シ易キニ至ル可シ。其他肉類ヲ煮ルトキハ、結締織柔軟トナルト雖ドモ、生肉ハ尚ホ韌ク、醃肉ニ至リテハ、甚ダ硬キガ故ニ、婦婦ニ食セシム可カラズ。

「第四五七項」肉蒸汁ノ製法

凡テ肉ヲ煮ルノ法ハ、肉蒸汁ヲ得ントスルモノト、肉質ヲ目的トナスニヨリテ異ナリ。若シ良肉蒸汁ヲ製セント欲セバ、肉凡ソ五十匁ヲ五百瓦ノ冷水中ニ浸スコト一乃至二時間ニシテ後チ徐々ニ煮沸セシメ、肉ノ柔軟トナルニ至ル。煮沸ノ際、早芹

菜若シクハ、糖蒿ノ一束ヲ直チニ肉蒸汁中ニ容レ置クトキハ、其液汁ヲ清澄ナラシムルノ益アリ。此ノ如クスレバ、肉蒸汁凡ソ五百瓦ヲ得、肉モ亦、大ニ滋養力ニ富ムモノナリ。肉中ニアル骨ハ、横斷スルコトナク、長徑ニ截斷ス可キモノトス。

肉蒸汁ノ味ヲ佳良ナラシメンニハ

米若シクハ、麥ヲ浸漬シ、後チ少時間煮沸ス可シ。又、牛肉蒸汁ハ、便通ヲ促ガスノ性ヲ有シ、蒸肉蒸汁ハ、之レニ反シ、便秘セシムルノ傾アルガ故ニ、各相當ノ場合ニ採用スルヲ佳トス。凡テ、肉蒸汁ハ、營養ノ力ヲ有セズ、興奮ノ作用アルモノトス。

若シ肉質ヲ目的トナストキハ

直チニ之レヲ煮沸セル湯中ニ入ル可シ。然ルトキハ、肉ノ表面ニ凝固物ノ薄層ヲ生ジ、質内ノ肉汁ヲ漏出シ能ハザラシム。而シテ煮熟セル後ハ、肉ヲ其液中ヨリ取り去ルコトナク、之レヲ調理ニ用ユルニ至ルマデハ、其中ニ蓄フ可シ。然ルトキハ、頗ル肉汁ニ富ムモノナリ。

〔第四五八項〕**焦肉ヲ製セント欲セバ** 新鮮ノ乳脂凡ソ三十瓦(二食匙)ヲ強熱シ之レニ肉五百瓦凡ソ一斤ヲ加フ可シ。然ルトキハ直チニ肉ノ表面ニ焦皮ヲ生ジ、肉汁ヲ漏出セザラシメ、且ツ佳香ヲ發スルモノナリ。又、肉片ハ、可及的大ニシテ、比較的ニ少量ノ脂肪ヲ以テ足ラシムルヲ佳トス。其他、初メ肉片ニ穀粉ヲ撒布スルトキハ、迅速且ツ確實ニ焦皮ヲ生ズルモノナリ。

〔第四五九項〕**不良ナル脂肪性肉及ビ良好ナル魚類** 脂肪ニ富メル鳥肉及ビ魚肉、即チ家鴨、雁、鰻、鱈等ノ如キハ、消化不良ナルガ故ニ、之レヲ極端ニ與フ可カラズ。之レニ反シ、鱈、比目魚、鯛等脂肪少ナキ魚肉ノ煮熟セルモノハ、大ニ佳良ナリ。特ニ、我邦ニ於テ、普ク行ハル、鯉、若シクハ、鮎ノ味噌汁ハ、可及的、其脂肪ヲ除去シテ食用セシムルトキハ、兼テ乳汁ノ分泌ヲ進ムルノ良効アリ。但シ、總テノ魚肉ハ、獸肉ニ比スルニ、水分多量ナルモノトス。

〔第四六〇項〕**食用ニ供ス可キ脂肪** 脂肪ハ新鮮ノ乳脂若シ

クハ、**阿列布油**ヲ佳トス。陳舊ナルハ、腸胃加答兒ヲ起スノ恐レアルガ故ニ、用ユ可カラズ。又、肉質ノ脂肪組織ハ甚ダ消化シ難キヲ以テ、之レヲ極端ニ與フルコトナク、肉類ト雖ドモ綿密ニ脂肪組織ヲ除去シテ之レヲ食セシム可シ。

〔第四六一項〕**澱粉質類** 澱粉質類ノ中、**米粥**ヲ以テ、最モ消化シ易シトス。之レヲ製スルニハ、米ヲ冷水中ニ入レ、徐々ニ加熱シ、煮沸スルノ半乃至一時間ヲ費ヤシ、柔軟ニシテ平等ナル粥汁ヲ得ルニ至ル。又、**麵包**ナルトキハ、白色ニシテ細微ノ粉末ヲ以テ製セル輕疎ノ品ヲ撰ブ可シ。但シ、新製ノ麵包ハ、咀嚼スルトキハ、粘合シテ餅狀ヲナシ、輕疎ノ質ヲ失フガ故ニ、少シク之レヲ炮ブルトキハ、粘合スルコトナク、消化液ノ滲潤宜シキモノナリ。

〔第四六二項〕**良好ナル野菜** 野菜類ニハ、**馬鈴薯**ノ搗磨セルモノ、**百合**、**蘿蔔**、**花椰菜**、**赤根菜**、**胡蘿蔔**等ノ柔軟ニ調理セルモノヲ用キシムルヲ得。

〔第四六三項〕リモナーデ 熱アル者ニハ、飲料トシテリモナーデヲ用キシムルヲ良トス。之レヲ橙實ヨリ製スルニハ、皮ヲ去レルニ箇ノ橙實ヲ取り、縦ニ其各片ヲ割り、水五合、砂糖二小盃ヲ加ヘ、之レヲ密蓋アル桶ニ入レ、且ツ其香氣ヲ佳良ナラシメンガ爲メニ、橙皮片少許ヲ混ジ、半時間ヲ經、布片ヲ以テ之レヲ濾過シ、毎時、一小盃ヲ飲用セシム可シ。

〔第四六四項〕茶其他ノ飲料ノ良否 通例ノ茶及ビ咖啡ハ飲

用セシム可カラズ、若シ之レヲ用ユルトキハ、心臟ノ悸動ヲ増シ、子宮出血ヲ發シ、且ツ腸胃症ヲ生ズルヲアリ、但シ煎餘ノ粗劣ナル茶ナルトキハ、害アルコトナシ。又上項説述セル麥湯ノ如キハ、頗ル佳ナリ。

重症アル褥婦ニ赤酒ヲ與ヘント欲セバ、少量ノ桂皮丁幾及ビ砂糖ヲ加ヘ、少時煮沸シ、濾過シテ用キシム可シ。

●以上第四五〇項ヨリ本項ニ至ル迄ハ、褥婦一般ノ食料ヲ論ゼルモノナリ。次ニハ稍詳シク各種ノ褥婦ニ必要ナルモノヲ説ク可シ。

〔第四六五項〕食物ヨリスル褥婦ノ區別 食物ニ就キ褥婦

ヲ大別シテ二種トナス。授乳スルモノ、及ビ授乳セザルモノ是レナリ。授乳スルモノハ、乳汁ノ分泌ヲ多カラシメンガ爲メニ可及的少量ノ飲料ヲ與ヘ、其量一日三四千瓦ニ至ラシム。之レニ反シ、授乳セザルモノハ、飲料多ケレバ、乳汁ノ分泌ヲ増シテ乳房ノ腫張、疼痛ヲ起シ、尿利、發汗ヲ夥多ナラシメ、大ニ褥婦ヲ困難ナラシムルガ故ニ、可及的飲料ヲ制限シ、一日凡ソ一千瓦ヲ越エシメザルヲ佳トス。

〔第四六六項〕授乳スル褥婦 モ亦分ケテ、甲多血強壯ナルモノ及ビ乙貧血虛弱ナルモノ、二類トナス。

〔第四六七項〕第一類多血強壯ナル褥婦 ハ最初三日間、液狀ノ食飼即チ稀粥、牛乳等ヲ與ヘ、全ク固形食物ヲ禁ジ、第四日ニハ鶏卵肉煮汁又ハ魚肉ノ味噌汁ヲ添テ食セシメ、第五日ニ至リ柔軟ノ米飯、肉類ヲ取ラシム可シ。此ノ如ク最初三日間固形食ヲ禁ズル所以ハ、褥婦ノ腸胃未ダ靜臥ニ慣レズ、爲メニ、腸胃ノ運動弱ク、消化液ノ分泌モ亦稀少ナルガ故ニ、固形食ヲ與フルハ、容易ニ腸管内ニ堆積シ、發熱若シクハ

腸加答兒ヲ惹起スルヲアリ。且ツ分娩前、幾何カ腸管内ニ存スル食飼モ、亦産褥初期ノ便秘ニヨリテ、滯積シ居ル可キニヨル。斯ノ如ク分娩前ヨリ滯積セル糞便ハ、時トシテ、甚ダ多量ニ達シ、爲メニ産褥ノ第一日ニ灌腸ヲ施コサル可カラザルヲアリ。

「第四六八項」第二類、貧血虛弱ナル褥婦ハ、之レト異ニシテ、若シ飢餓ヲ感ゼシムルトキハ、身體ノ虛弱ヲ増シ、乳汁ノ分泌ヲ減少セシム。且ツ此種ノ婦人ハ、幾分カ靜臥ニ慣ル、ガ故ニ、既ニ第二日ニハ米粥ノ外、肉羔汁、鶏卵又ハ魚肉ノ味噌汁ヲ與ヘ、第三日ニ至リ、若シ食欲ノ佳良ナルモノニハ、二三箇ノ鶏卵、肉類ヲ食セシムルヲ良トス。通例、健康ナル褥婦ハ、最初二日間食欲佳良ナルヲ以テ、食欲ヲ節セシムルヲ甚ダ困難ナリ。故ニ此ノ如キモノハ、可及的過度ニ至ラシムルヲナキヲ務ム可シ。第三日以後ハ、食欲自ラ減却ス可シ。第五日以後ハ、肉類、魚肉、蔬菜等上記ノ方法ニヨリ食用セシメ、第二週以後、第三週ニ至ルノ間、漸次ニ通常ノ食飼ニ復セシム。但シ辛辣ナルモノ及ビ腹内ノ膨滿ヲ起ス可キモノハ、食セシム可カラズ。

「第四六九項」褥婦ニ許容ス可キモノト禁忌ス可キモノ

ヲ舉グレバ次ノ如シ。

「甲」許容ス可キモノ

- 一、菓實 煮タル菓物、酸味ナキ熟シタル菓物。
- 二、魚肉 鮎、鱈、白魚、比目魚、鯛、鱈等。
- 三、蔬菜 煮タル豌豆、菠菜、大根、百合等。
- 四、穀類 總テノ穀粉、麵包。
- 五、肉類 兔、牝雞、犢牛肉、羊肉等。

「乙」禁忌ス可キモノ

- 「一」菓實 新鮮ノ林檎、梨子、杏ノ類。
- 「二」魚肉 鰻、牡蠣、蟹、星比目魚、鮭、鯖、鰻ノ類。
- 「三」總テノ香料 芥子、胡椒ノ類。
- 「四」蔬菜 青菜、塘蒿、早芹菜、剝皮セザル莢豆ノ類。

五、肉類 焼肉、豚、鴨、雁、醃肉ノ類

「第四七〇項價レタル食物及ビ麥酒 大畧ハ以上掲グル所ノ如シト雖ドモ概シテ、褥婦ナルモノハ、可及的、平常習慣セル食料ヲ與フルヲ良トス。之レニヨリテ乳汁ヲ出スト、最モ多キモノナリ。唯過食スルヲ戒ム可シ。ホップ(葎草)ヲ加ヘザル麥酒ヲ飲マシムルトキハ、乳汁ノ分泌ヲ増加ス可シ。若シ麥酒中ニホップヲ含ムトキハ、却テ乳汁ヲ減ジ、且ツ小兒ノ腹部ヲ膨滿セシム。

新訂 産婆學講本 上卷終

五、肉類 燒肉、豚、鴨、雁、醃肉ノ類。

「第四七〇項」慣レタル食物及ビ麥酒 大畧ハ以上掲グル所ノ如シト雖ドモ概シテ、婦人ナルモノハ、可及的、平常習慣セル食料ヲ與フルヲ良トス。之レニヨリテ乳汁ヲ出スト、最モ多キモノナリ。唯過食スルヲ戒ム可シ。ホップ(葎草)ヲ加ヘザル麥酒ヲ飲マシムルトキハ、乳汁ノ分泌ヲ增加ス可シ。若シ麥酒中ニホップヲ合ムトキハ、却テ乳汁ヲ減ジ、且ツ小兒ノ腹部ヲ膨滿セシム。

新訂 產婆學講本 上卷終

新訂 產婆學講本 下卷

新訂 產婆學講本 下卷

醫學士 千葉稔次郎校訂

高橋辰五郎著述

第五編 異常ノ妊娠及ヒ其取扱法

第一百一章 誘導編

此編ニ於テハ初メニ妊娠生理的徵候ノ増劇セルモノ即チ妊娠性嘔吐便秘靜脈瘤等ヲ論ジ次ニ妊娠中ニ併發スル諸種ノ白帶下出血若クハ腔及ヒ子宮ノ異狀ヲ述ベ胎兒ニ屬スル疾患即チ葡萄狀胎羊膜水腫流產早産等ヲ記シ終リニ異常部位ノ妊娠即チ子宮外妊娠ヲ説カント欲ス

第一百二章 妊娠性嘔吐

妊娠性嘔吐

妊婦ノ凡ソ五%ハ其第一月中ヨリ慢性嘔吐ヲ發ス可シ此嘔吐ハ空腹時殊ニ早朝ニ發スルヲ特異ナリトス而シテ多クハ第三ヶ月ノ終リ若クハ其以前ニ於テ止ム可シト雖トモ時トシテハ更ニ長ク持續シ妊娠ノ後半期ニ至ルモ治スルコトナク或ハ總テノ飲食物ヲ吐出シ空腹時ニ於テモ烈シキ乾嘔ヲ發シ甚タシク衰弱シ或ハ流産シ或ハ死ニ歸スルコトアリ此ノ如ク重症ニシテ容易ニ鎮靖ス可ラサル所ノ嘔吐ヲ惡阻ト稱ス

處置

此嘔吐ノ輕度ナルモノニシテ食機營養共ニ佳良ナルモノハ敢テ治ヲ施コスコトヲ要セザルモノアリ若シ嘔吐頗ル甚ダシキモノハ柔軟ニシテ消化シ易キ食物ヲ與ヘ食後ハ身體ヲ安靜ニシ一時ニ多量ノ食飼ヲ取ラシムルコトナク數回食事ニ就カシメ且ツ其時間ヲ一定ス可シ又早朝ノ嘔吐ニ苦ムモノニハ褥中ニ在リテ牛乳肉蒸汁鶏卵等ノ滋養物ヲ取ラシメ後チ一時間ヲ經テ起キ出テシムルヲ良トス其他清氣中ノ運動ヲ命ジ便秘アラバ灌腸ヲ施コス可シ(妊娠ノ攝生法參照)若シ此ノ如クスルモ尙ホ治シ難キモノ又ハ初ヨリ強劇ナルモノハ速ニ醫治ニ托スル

便秘

ラ要ス

第一百三三章 便秘

妊娠ノ始メ二三ヶ月間子宮ノ小骨盤内ニ在リテ増育セルノ際ニハ直腸ヲ壓迫スルガ故ニ甚ダ便秘ヲ發シ易シ此便秘アルトキハ腸内ニ風氣ヲ醸シテ鼓脹ヲ發シ血液ハ骨盤内ニ鬱積シ痔結節逆上睡眠不安等ノ症ヲ致ス可シ

處置

ハ第四十二章妊婦攝生法中ニ示セル處置ヲ施コシ尙ホ効ナキモノハ醫治ヲ求メシム可シ

尿利ノ困難

第四百四章 尿利ノ困難

妊娠中増大セル子宮ニヨリ膀胱及ビ尿道ノ壓迫ヲ蒙リ爲メニ尿意頻數トナリ通利ノ際疼痛ヲ起シ或ハ尿閉シテ全ク尿ヲ利スル能ハサルコトアリ又尿失禁ト稱フルモノアリ此症ハ嘻笑咳嗽噴嚏等ニヨリ腹壓増劇

處置

スルトキハ尿ハ不隨意ニ射出スルモノヲ云フ

處置 尿利困難アルカ又ハ尿閉アルトキハ可及的早ク醫治ヲ求ム可シ而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマデハ尿意頻數ナルモノニハ安靜ナル位置ヲ命ジ温ナル牛乳葛湯等ノ飲料ヲ與エ下腹ニ温罨布ヲ貼ス可シ若シ又尿閉シタルトキニハカテーテルヲ用キ尿失禁アルトキハ冷水ヲ以テ屢陰部ヲ洗滌セシム可シ其他ノ處置ハ總テ醫師ノ命ヲ待ツ可キモノトス

第百五章 浮腫

浮腫

浮腫 ハ妊娠セル子宮ノ骨盤管内ヲ壓スルニヨリ生ズルモノヲ多シトス然レトモ時トシテハ腎臟病貧血症ノ徵候トナリテ來ルコトアリ其ノ腫張セル部位ハ白色トナリ光澤ヲ呈シ指ヲ以テ壓スレバ暫時ノ間淺キ窩ヲ留ム可シ浮腫ノ腰部以下ニノミ存スルハ血管壓迫ノ徵ナレトモ上肢顔面等ニ現ハルハ多クハ腎臟病又ハ貧血症ニ基クモノトス

處置

處置 下肢ノ少シク浮腫アルモノハ可及的起立ヲ誠メ莫大小ノ股引及ヒ足袋ヲ着ケシムルヲ佳トス然レトモ下肢陰部等ニ甚ダシク浮腫シ歩行ヲ妨グルニ至ラハ常ニ下肢ヲ伸バシテ臥セシメ且ツ足ノ末端ヨリ大腿ニ至ルマデフランネル 綑帶ヲ施コスカ若クハ莫大小ノ股引ヲ着ケシメ陰唇ノ浮腫ハ温水ヲ以テ罨法ヲ施コス可シ又全身ニ著シキ浮腫ヲ發シ頭痛ヲ起スモノハ即チ全身ノ痙攣症(子痙)ヲ來スノ恐アルカ故ニ必ズ醫師ノ診察ヲ受ケシム可シ

第百六章 靜脈瘤

靜脈瘤

靜脈瘤 ハ靜脈管ノ甚ダシク擴張シタルモノニシテ皮下ニ蜿蜒々タル青色ノ索狀若クハ連續セル結節ヲナシ上腿足踝腓腸部膝膕陰唇等ニ之レヲ現ハス之レニ觸ルレバ軟カニシテ壓ニ應ズルカ又ハ時トシテ固キコトアリ此靜脈瘤ハ身體ノ運動若クハ努力ニヨリテ緊脹ノ感覺若クハ疼痛ヲ發シ時トシテハ甚ダシク増大シ其外皮菲薄トナリ摩擦衝突若ク

ハ努力ニヨリテ破開シ危険ノ大出血ヲ來スコトアリ
 處置 靜脈瘤アルトキハ久シク起立シ又ハ脚ヲ下垂スルコトヲ禁シ
 莫大小ノ股引ヲ穿カタシメ若シ其大ニシテ障害アルモノハ綿花ヲ貼テ
 フランキルノ如キ弾力性ヲ具フル細帶ヲ施コシ以テ其増大破裂
 等ノ危険ヲ防止ス可シ若シ又赤色ヲ呈シ疼痛スルコトアラバ安臥ヲ命
 シ冷水罨法ヲ行ヒ且ツ醫治ヲ求ムルヲ要ス若シ又突然破裂セルモノハ
 直チニ壓抵止血セシメ次テ綿花若クハ瓦設ニ石炭酸水ヲ浸シテ貼シ細
 帶ヲ施コシ速カニ醫治ヲ請フ可シ

第一百七七章 白帶下

白帶下ト

白帶下トハ 腔内ヨリ白色又ハ水様若クハ膿様液ノ漏泄セルモノ
 、總稱ニシテ子宮頸癌腫子宮内膜炎淋毒性腔加答兒葡萄狀胎等種々ノ
 疾病ニヨリテ此症ヲ發スト雖トモ亦妊娠中ハ疾病ニアラザル分泌増進
 即チ單性分泌過多ニヨリテ之レヲ現ハスコトアリ

單性分泌過多

(一)單性分泌過多 ハ單ニ清淨ナル温湯若クハ一%微温石炭酸水
 ヲ以テ屢洗淨ス可シ疑ハシキモノアラバ醫治ニ托スルヲ要ス

子宮頸癌腫

(二)子宮頸癌腫 癌腫ハ最モ恐ル可キ疾病ナリ此病ニ罹リ適當ノ治
 療ヲ施コスコト能ハザルトキハ數月若クハ一二年ノ後必ズ死ニ至ルモ
 ノナリ而シテ此病ヲ發スル片ハ腔内ヨリ初メハ粘液水様液後ニハ臭氣
 アル膿液及ヒ多量ノ血液ヲ漏ラシ其病變子宮ノ周圍ニ蔓延スルトキハ
 劇シキ腰痛尿意緊急等ヲ發ス
 此癌腫ハ子宮口ノ周圍ニ潰瘍ヲ造リ若クハ腔部一般ニ増大シ凹凸不平
 ヲ呈シ後チ中部ヨリ漸次ニ破壊シテ同シク潰瘍トナリ此潰瘍ヨリ血液
 膿液等ヲ夥シク漏泄セシム又癌腫ハ漸次ニ子宮ノ周圍ニ蔓延シ硬結ヲ
 造リ膀胱直腸ニ及ビ遂ニ茲ニ破壞穿孔シ尿及ビ糞便ハ共ニ腔内ヨリ出
 ズルニ至リ衰弱ニヨリ斃レ或ハ此間一時ニ多量ノ出血ヲ發スル片ハ忽
 チ急性貧血ニヨリテ死ニ至ル可シ又分娩時ニ於テハ患部硬結ヲナシ延
 長シ難キニヨリ子宮口狹窄ノ症狀ヲ發ス

處置

子宮内膜炎

處置、癌腫ノ疑アルモノハ速カニ醫治ヲ求メシムルヲ要ス
 (三)子宮内膜炎 子宮口及ヒ腔内ニハ異常ヲ呈セズト雖トモ妊娠中
 時々透明ノ水様液ヲ流出セシメ或ハ子宮口ノ糜爛ヲ伴フコトアリ此症
 ハ最も多ク流産ヲ發シ又ハ前置胎盤ノ如キ異常ヲ致スコトアリ
 置ハ醫治ヲ求ムルニ在リ

淋毒性腔加答

(四)淋毒性腔加答兒 ニ在リテハ帶黃綠色ノ膿様液ヲ漏ラシ其液
 ノ附着セル部ニハ糜爛ヲ發セシム可ク又此レヲ自己ノ眼若クハ初生兒
 ノ眼ニ觸レシムルトキハ膿性ノ眼炎ヲ發シ甚ダシキハ失明セシムルニ
 至ル此症ニ在リテハ腔粘膜ニ觸レ試ロムルニ砂粒ヲ撒布セルガ如キヲ
 知ル可シ

處置

處置 速カニ醫治ニ就カシメ其分泌物ハ自己若クハ他人ノ眼内ニ入
 レシム可ラズ分娩時ニ至ラバ五十倍石炭酸水ヲ以テ屢腔内ニ灌注シ初
 生兒眼炎ノ豫防法(第九十四章)ヲ施コスヲ要ス
 (五)葡萄狀胎 ハ第九十章ニ別論ス可シ

葡萄狀胎

第一百八章 妊娠中生殖器ノ出血

妊娠中ニ血液腔内ヨリ漏出スルハ屢之アル所ニシテ癌腫ポリープ葡
 萄狀胎腔内靜脈瘤ノ破裂子宮内膜炎流産胎盤ノ早期剝離前置胎盤及ビ
 月經ニヨリテ之レヲ來ス就中癌腫及ヒポリープハ妊娠ノ初期ト末期
 トニ係ラズ絶エズ出血ヲ呈ス可ク内膜炎ハ時々出血シ月經ハ稀レニ妊
 娠ノ初メニ潮來スルコトアリ葡萄狀胎ノ出血ハ第三四ヶ月以後ニ現ハ
 レ前置胎盤ハ妊娠ノ終末二三ヶ月ニ於テ出血ヲ現ハシ流産胎盤ノ早期
 剝離靜脈瘤ノ破裂ハ時ヲ定メズシテ之レヲ致ス可シ而シテ之レガ詳細
 ノ説明ヲナスニ就キ瘤腫及ヒ子宮内膜炎ハ前章中既ニ之レヲ説キ葡萄
 狀胎流産ハ第九十章及ヒ第一百十三章ニ詳述ス可シ又胎盤ノ早期剝離及
 ビ前置胎盤ノ出血ハ共ニ分娩ヲ誘起シ若クハ分娩時ニ至ルマテ其出血
 持續スルコトアルニヨリ之レヲ第六編異常分娩第四百十三章及ヒ第百
 四十四章中ニ論述スルヲ適當ナリトス

（一）ザリープ トハ莖ヲ有スル梨子状ノ腫物ニシテ子宮口ヨリ垂下シ或ハ大ニシテ稍硬キモノアリ（筋腫性ボリープ）或ハ小ニシテ柔カク同時ニ數箇ヲ現ハスモノアリ（粘膜炎ボリープ）各著シク出血スルノ性ヲ有ス

處置 醫療ニヨリ之レヲ切除ス可キモノナリ

（二）腔内靜脈瘤ノ破裂 突然トシテ多量ノ出血ヲ現ハス可シ處置ハ綿花ヲ石炭酸水ニ浸シ固ク栓塞法（第四百四十七章及第四百四十九章ヲ見ヨ）ヲ施コシ且ツ速カニ醫治ヲ請フ可シ

（三）月經 ハ妊娠中閉止スルヲ常トスレトモ極メテ稀レニハ之レヲ現ハスコトアリトス但シ此ノ如キモノハ月經ニアラスト云フモノモ亦之レアリ

第百九章 子宮脱及ビ腫脱

子宮脱トハ 子宮下垂シテ其子宮腔部陰唇間ニ現ハルモノヲ云フ而ノ更ニ甚タシキハ其子宮全部又ハ膀胱ヲ伴ヘ陰唇外ニ脱出スル

モノモ亦多ク之レアリ原因ハ妊娠中ニ劇シク努力スルニヨリテ新タニ發スルコトアレトモ既ニ前回ノ分娩後安靜ヲ守ラザルヨリ生セルヲ多シトス此症ハ妊娠第四ヶ月ニ至レバ通例自然ニ癒ユルモノナリ是レ子宮ノ増大シ小骨盤ヨリ大骨盤ニ移行スルガ故ナリ然レトモ時トシテハ妊娠セル所ノ子宮深ク沈降シテ所謂嵌頓症ヲ來シ甚タシキ苦惱ヲ訴エ尿ノ通利ヲ妨ケ子宮ノ嵌頓ヲ發シ終ニ流産ヲ來スニ至ルコトアリ

處置 妊娠ノ前半期ニ於テ子宮脱出ヲ發生セルトキハ妊婦ヲシテ先ツ兩便ヲ排泄セシメ其臀部ヲ高クシテ平臥又ハ側臥ヲ與エ消毒セル手指ヲ以テ徐カニ平常ノ位置ニ復納セシメ以テ醫師ヲ招聘ス可シ醫師ハベッサリウム 又ハ タンボン ヲ挿入シテ子宮ノ再ヒ脱出スルヲ防クコトアリ

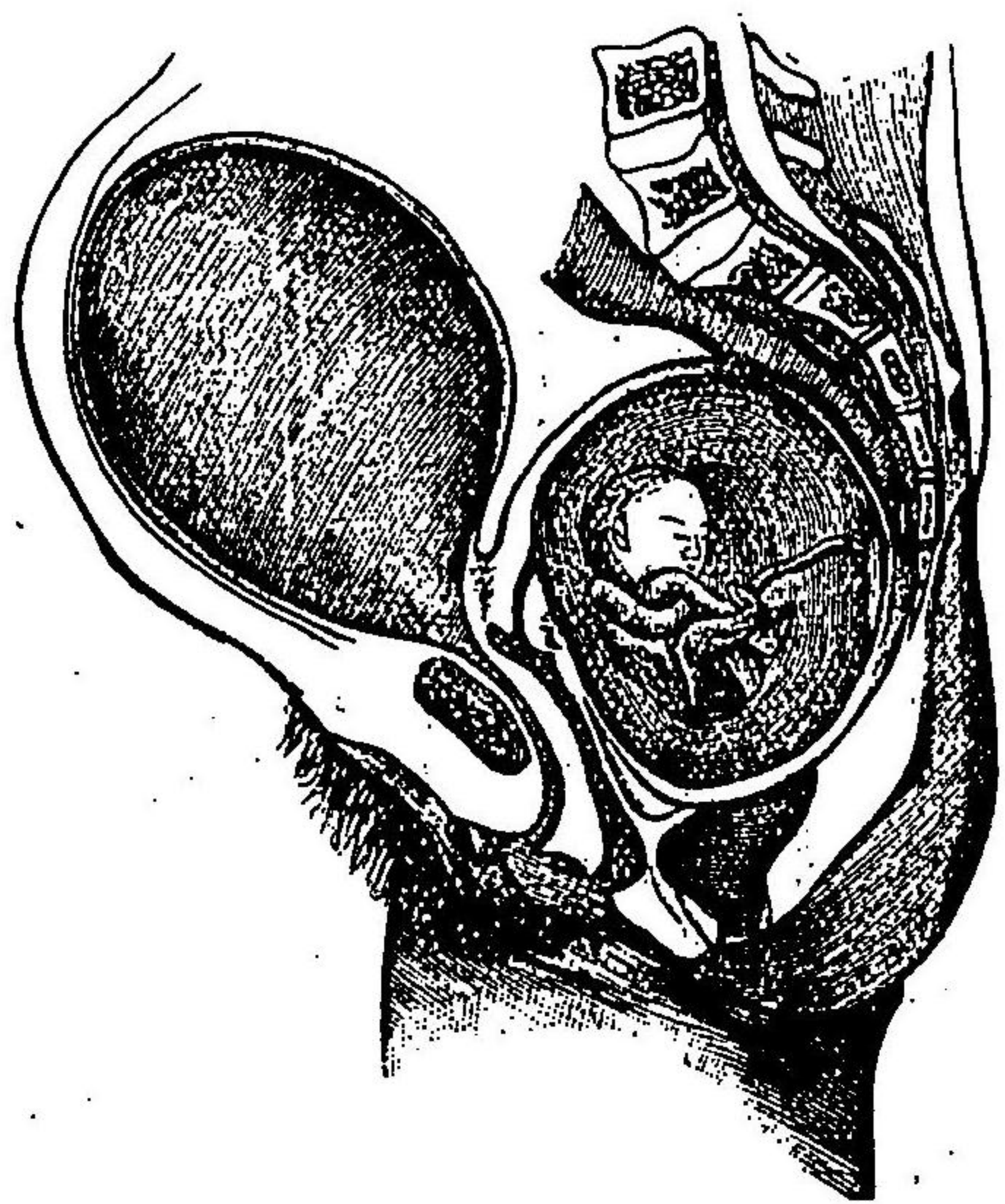
（二）腫脱 ハ腔壁ノ翻轉シテ腔口ヨリ挺出スルモノニシテ甚タシキハ歩行ノ際殊ニ困難ヲ起スモノナリ此症モ亦醫師ハベッサリウム ニヨリテ其脱出ヲ支持スヘシ

第一百十章 妊娠子宮後屈症

子宮後屈症
在リテ

子宮後屈症ニ在リテハ 子宮體ハ子宮頸ヨリ後方薦骨ニ向フテ

嵌頓ニヨリ膀胱甚タシク充盈セルヲ示ス



屈曲シ(正規ノ子
宮體ハ稍前方ニ
屈曲ス)子宮底ハ
薦骨窩内ニ沈降
シ子宮頸ト子宮
口トハ骨盤前壁
ニ沿ヒテ上昇ス
故ニ最高度ノ後
屈症ニ於テ後方
ニアル子宮底ハ
前方ニアル子宮

第九十一圖
後屈子宮妊娠圖

口ヨリモ下方ニ位スルモノナリ

原因

原因 此症ハ妊娠前ヨリ已ニ子宮後屈セルニヨリ又ハ妊娠第三四ヶ月ノ間子宮ノ小骨盤ヨリ大骨盤ニ昇ルノ際薦骨岬ニ支障セラレ之レヲ發スルコトアリ其他重キ物ヲ舉グ或ハ甚タシク努力ヲ營ミテ便通スルカ如キ總テ腹壓ヲ強ムルコト又ハ手ヲ高所ニ達セシメンガ爲メ強テ身體ヲ伸張セシメ或ハ後方ニ轉倒シ或ハ排尿ヲ停止シテ甚タシク膀胱ヲ充滿セシムルガ如キコト等ニヨリテ此後屈症ヲ致ス可シ

症

症狀 子宮後屈症ヲ發シ子宮漸次ニ増大シ小骨盤内ヲ充塞スルキハ所謂嵌頓症狀ヲ發ス即チ子宮頸ハ前方ニ在リテ強ク膀胱及ヒ尿道ヲ壓スルガ故ニ尿意頻數ヲ發シ毎回僅量ノ尿ヲ排泄シ後全ク尿閉ヲ致シ又子宮體ハ後方ニ位シ直腸ヲ壓迫スルカ故ニ頑固ノ便秘ヲ現ハシ爲メニ骨盤内ニ甚タシキ痛苦ヲ訴フルニ至ルモノトス外検査ヲ施コスニ當リ下腹ニ觸知ス可キモノハ子宮ニアラズシテ膨滿セル膀胱ナリ其大サ時トシテ臍部ニ達スルコトアリ内検査ニヨルニ子宮腔部ハ高ク骨盤ノ前

方ニ位シ之ニ達スルコト困難ナルノミナラズ後屈ノ度甚タシキモノハ
 時トシテハ非常ニ高ク恥骨ノ上ニ位シ爲メニ之レヲ檢知シ難キコトア
 リ此症ハ屢流産ヲ發シ又ハ尿閉ニヨリテ生命ノ危害ヲ生スルコトアリ
 處置 妊娠セル子宮ノ嵌頓シタルモノヲ認知セバ直チニ産科醫ヲ招
 グ可シ然レトモ其未ダ來タラサルノ間ハ妊婦尿閉ニ由リテ起ル苦痛ア
 ラバ其蓄積セル尿ヲ排泄セシムルコトヲ試ム可シ即チ妊婦ヲ膝肘位又
 ハ側位トナシ而シテ示指ト中指トヲ以テ子宮頸ヲ後方ニ壓スレバ多ク
 ハ幾分カ尿ヲ漏泄ス可シ若シ之レニヨリテ目的ヲ達セサルハカテ
 一テハ ヲ用ユ然レモ尿道ハ壓迫セラレ其尿道口ハ上方ニ牽引セラル
 ヲカ故ニ之レヲ送入スルコト甚タ困難ナリ其他灌腸ヲ施コシ便通ヲ取
 ランコトヲ試ム可シ而シテ醫師ノ來診スルニ至ルマテハ患婦ヲシテ少
 シク其體ヲ屈セシメ腹臥又ハ側臥ニ就カシメ且ツ極メテ安靜ナラシム
 可

第百十一章 妊娠子宮ノ前轉(懸垂腹)

腹壁弛緩シテ子宮體前方ニ傾ムキ甚タシキハ子宮底恥骨縫際ノ下方ニ

第九十八圖 懸垂腹ノ圖



降ルコトアリ之
 レヲ妊娠子宮ノ
 前轉症トス此症
 ハ主ニ經産婦ニ
 シテ骨盤狹キモ
 ノニ發ス可シ又
 之レヲ發スルト
 キハ分娩ノ際産
 出力ハ骨盤ノ後

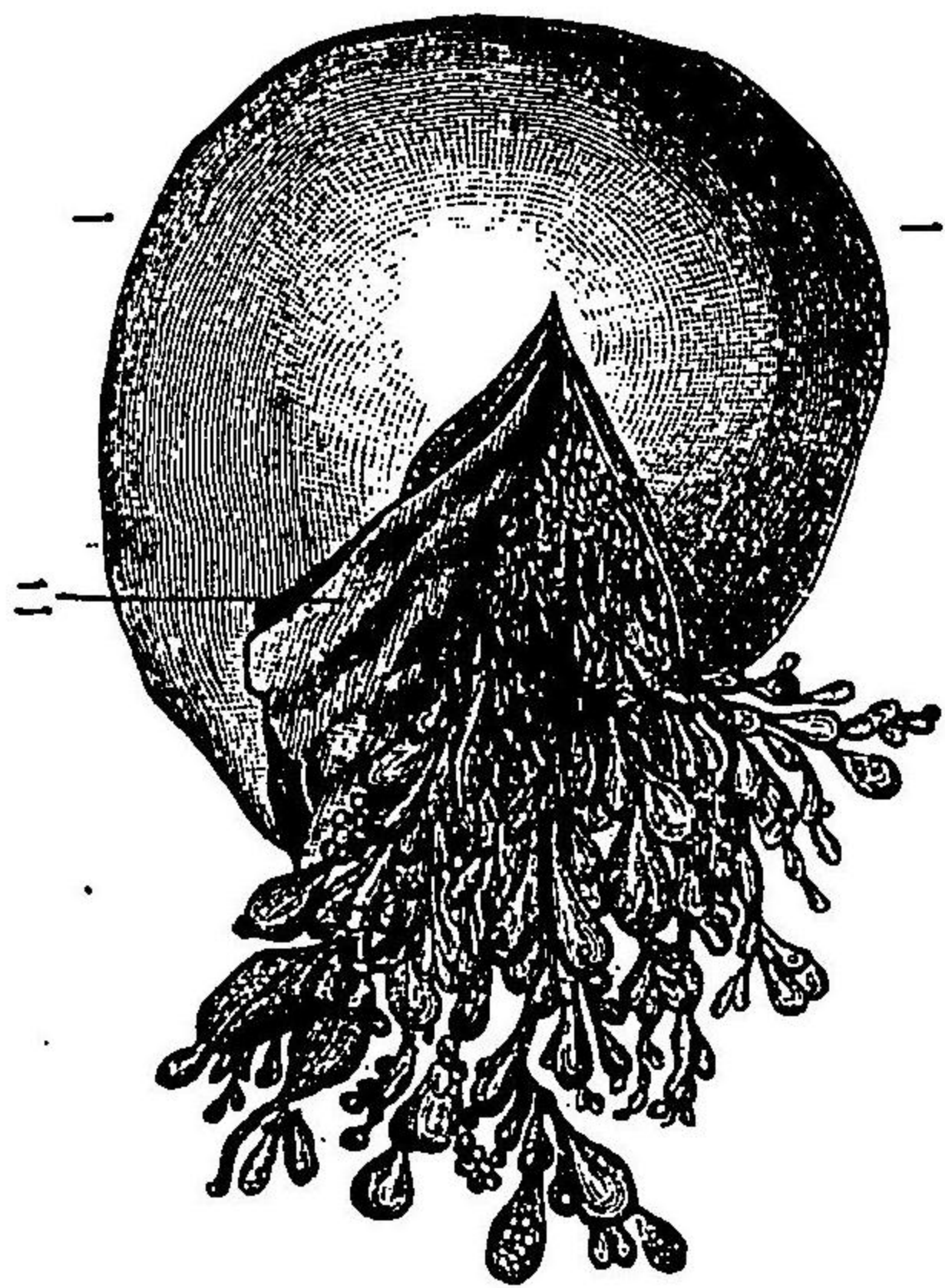
方ニ向フガ故ニ小兒ノ産出スルヲ甚ダ困難ナリトス
 處置 妊娠ノ下半期ニ至レバ殊ニ便良ノ腹帶ヲ施コシ子宮ノ傾斜ヲ

支へ分娩時ニ至ラバ依然トシテ腹帶ヲ纏ヒ仰臥ノ位置ニ就カシム可シ
 其他ノ處置ハ通常ノ分娩ト異ナルコトナシ困難ナル者ハ速カニ醫治ヲ
 求ム可キモノトス

第百十一章 葡萄狀胎(胞胎又ハ胞狀鬼胎)

此症ハ絨毛膜ノ疾病ニヨリ絨毛肥大シ恰モ壘子狀ノ水胞ヲナシ其大サ

第九十九圖 子宮壁ヲ切割シテ葡萄狀胎ヲ現ハセル圖



一、子宮
二、卵膜

麻實大乃至蠶豆大ニシテ個々集簇シ恰モ葡萄狀ヲ呈ス胎兒多クハ速カ
 ニ死亡シ卵膜モ亦消失ニ歸ス此葡萄狀胎ハ増大スルコト甚タ速カナル
 フ以テ子宮モ亦非常ニ迅速ナル増大ヲナシ極メテ稀ニハ四乃至五六週
 ニシテ心窩ニ達スルコトアリ而シテ第三四月ニ至レバ水様液ヲ漏ラシ
 且ツ強度ノ出血ヲ呈ス(第百七及ヒ百八章ヲ參看ス可シ)而シテ第四五ケ
 月ニ至レバ流産スルヲ多シトス若シ又妊娠ノ後半期ニ至ルモ胎兒ノ體
 部心音ヲ認知スルコトナク上記ノ症狀ヲ呈スレバ畧ボ葡萄狀胎ナルヲ
 推知ス可シ然レトモ内診ニヨリ之ヲ觸知スルカ若クハ此胎ノ一片ヲ
 得ルニアラザレバ果シテ其本病タルコトヲ確知シ能ハザルモノトス
 處置 出血アラバ氷罌法及ビ腔内ノ栓塞ヲ施コシ速カニ醫治ヲ乞フ
 可シ而シテ葡萄狀胎ノ全部脫出セルガ如キモ時トシテハ尙ホ幾分カ遺
 殘シ出血ヲ呈スルコトアルガ故ニ善ク止血法ヲ施コスノ準備ヲナス可シ

第百十三章 羊膜水腫

此症ハ羊水ノ非常ニ多量ナルモノヲ云フ通例羊水ハ千瓦乃至千五百瓦ナリト雖トモ二千瓦以上ニ至レバ羊膜水腫トナス此症ハ稀レニハ一万瓦以上ノ多キニ達スルコトアリ而シテ腹部ハ著シク膨大シ子宮ハ圓形ヲ呈シ著シキ波動ヲ現ハシ胎兒ノ體部及ビ心音ヲ辨ズルコト難シ此ノ如ク腹部ノ膨大スルガ爲メニ妊婦ハ甚ダシク困難ヲ感シ而シテ分娩ハ數週間早ク發スルコト多シ——分娩ノ際ニハ子宮ノ過度ニ延張セラレ、ガ爲メニ陣痛微弱ヲ發シ開口期延長シ羊水ノ漏泄スルトキハ四肢臍帶ノ脱出ヲ發シ易ク後産期ニ於テハ子宮ノ無力性出血ヲ致スコト多キモノトス

處置 適度ニ固ク腹帶ヲ施コシ身體ヲ安靜ナラシムルトキハ妊婦ハ輕快ヲ感ズルモノナリ其他分娩時ニハ醫治ヲ乞ハザル可ラズ

第一百十四章 羊水過少(羊膜糸)

前症ニ反シ羊水著シク少量ナルモノアリ此症ニアリテハ羊水ノ少キガ

爲メニ胎兒ト羊膜トノ離斷スルヲ妨グ胎兒ノ四肢頭部等ヨリ羊膜ニ連繋スル索條即チ羊膜糸ヲ現ハス又胎兒ハ兔唇其他ノ畸形ヲ呈スルヲ常トス

第一百十五章 妊娠中胎兒ノ死亡

胎兒死亡ノ原因

胎兒死亡ノ原因 ニハ種々アリ(一)毒物ノ母體ヨリ直チニ胎兒ニ移行スルモノニシテ梅毒又ハ毒藥ニヨルモノ(二)母體熱性病ノ體温高度ナルニヨルモノ(三)胎兒ノ營養不給ナルニヨルモノ即チ母體ノ失血又ハ窒息或ハ胎盤卵膜及ビ子宮内膜ノ疾患等ナリ(四)外傷ニシテ直チニ胎兒ヲ害シ若クハ卵膜ノ剝離ヲ生セシメ爲メニ胎兒ヲ死ニ至ラシムルモノ是レナリ

死亡セル胎兒ノ變狀

死亡セル胎兒ノ變狀 妊娠中胎兒死亡スルトキハ數日間稀レニハ一二ヶ月ヲ經テ娩出セラレ而シテ死亡セル胎兒ハ軟化スルヲ常トス即チ其外皮ハ變色滲潤シ水泡ヲ造リ其水泡處々ニ破開シ表皮剝離シ頭

骨ハ甚ダシク動搖ス可ク臍帶ハ膨腫シ羊水ハ混濁赤色ヲ帶ブルヲ見ル可シ此等ノ變化ハ甚ダ速カニ發スルモノナルガ故ニ其變狀ヲ見テ死亡ノ期ヲ定ムルコト能ハザルヲ常トス——時トシテ死胎兒軟化セズシテ乾枯縮小シ長ク子宮内ニ止マルコトアリ之レヲ紙狀胎兒ト云フ此ノ如キモノハ雙胎中ノ死セル一兒ニ之レヲ見ルコト多シトス

母體ニ於ケル徵候

胎兒死亡スレバ母體ハ少シク不快ヲ感ズルモ敢テ害ナキモノトス其他詳細ノ徵候ハ正規妊娠篇第四十一章ニ就テ見ル可シ

第一百十六章 流産早産ノ區別并ニ其原因

流産トハ胎兒ノ未ダ子宮外ニ生活シ得ザルノ時期即チ滿七ヶ月以前ニ分娩スルヲ云ヒ早産トハ七ヶ月以後十ヶ月以前ニ娩出セラレ、ヲ云フ

流産及ビ早産ノ原因

流産及ビ早産ノ原因 流産及ビ早産ハ共ニ同一ノ原因ヨリ之レヲ發ス而シテ其原因ニ二種アリ(一)胎兒ノ死亡ニヨルモノ(二)母體並ニ胎

兒ノ疾患ニ基クモノ是ナリ其第一種胎兒ノ死亡ハ既ニ前章中ニ説述セリ就テ見ル可シ其第二種母體並ニ胎兒ノ疾患ハ更ニ之レヲ四種ニ小分ス可シ(一)母體ノ梅毒重症疾患即チ熱性病大失血等ナリ就中熱性病ハ小兒ノ死ヲ致スコトアレトモ亦死ニ至ラズシテ早期ニ産出スルコトアリ(二)子宮後屈卵巢囊腫等ニシテ子宮ノ増大ヲ障害スルモノ(三)精神感動外傷墮胎藥強劇ノ下劑過劇ノ交接冷水浴脚浴等ノ如キ障害(四)卵膜若クハ子宮壁質ノ異常即チ子宮内膜炎羊膜水腫雙胎等はレナリ

第一百十七章 流産ノ症狀及ビ處置

流産ハ第四ヶ月以前即チ胎盤完成前ト完成後トニヨリ症狀ニ大ナル差異アリ故ニ胎盤完成ノ前後ニヨリテ之レヲ二期ニ分ツヲ良トス即チ胎盤完成前ニハ分娩時ニ著シク出血シ完成後ニ於テハ正規分娩ニ於ケルガ如ク後産々出ノ際ニアラザレバ出血セザルモノトス

流産第一期ノ症狀 妊娠ノ初メ數週ニシテ流産スルモノ頗ル多

流産第一期ノ症狀

異常ノ妊娠及ビ其取扱法 流産ノ症狀及ビ處置

シ然レトモ其狀甚ダ月經ニ似タルヲ以テ妊婦ハ之レヲ疼痛アル多量ノ月經トナスモノ少カラズ第二三ヶ月ノ間ニ於テハ流産ノ症状頗ル著シク産婦ハ陣痛ヲ發シ脱落膜ハ子宮内面ヨリ剝離シ甚ダシキ出血ヲ呈ス此出血ハ第一期ノ流産ニ最モ固有ナルモノナリ而シテ初メ三ヶ月内ニ於テハ卵多クハ破ル、コトナクシテ産出シ其以後ニ在リテハ破レザルコト稀ナリ卵若シ破裂スルトキハ先ツ容易ク胎兒ヲ産出セシメ後産ハ最後ニ排出セラル而シテ此ノ如ク卵ノ破ル、トキハ後産ノ殘片多クハ子宮内ニ遺殘シ之レヲ抽出スルニアラザレバ産出セザルコト多シ且ツ若シ後産ノ殘片子宮内ニ存スルトキハ危險ノ後出血ヲ現ハシ或ハ子宮内ニ腐敗ヲ醸シ産褥熱ノ如キ熱症ヲ來スコトアリ

流産ノ出血

流産ノ出血 ハ一様ナラズ或ハ初メ僅少ニシテ徐々ニ増加シ一二週ノ久シキニ亘ルモノアリ或ハ初メヨリ強度ニシテ大ニ凝血ヲ混ジ且ツ劇シキ腰痛若クハ陣痛ヲ伴フコトアリ而シテ其出血ノ多量ナルモノハ間々母體ヲ危フスルニ至ル

流産ハ停止ルコトアリ

流産ハ停止スルコトアリ 即チ強度ノ出血疼痛ヲ發シ確カニ流産ノ初徴ヲ現ハセルモノト雖トモ暫クニシテ止ミ爾後其妊娠ヲ全フスルコトナキニアラズ殊ニ適當ノ治方ヲ施セルモノヲ然リトス

流産第一期處置ノ要領

流産第一期處置ノ要領 流産症狀甚シカラザルキハ先ツ流産ヲ停止セシメンコトヲ務ム可シ即チ身體ヲ極メテ安靜ナラシメ飲食物ハ寒冷ニシテ刺劇ナキモノヲ與ヘ四五日間臥床ニ就カシム若シ又出血強度ニシテ陣痛ヲ現ハシ停止シ難キモノニハ速カニ醫治ヲ求メ其間二%ノ冷石炭酸水ヲ腔内ニ灌注シテ内検査ヲ施シ子宮口及ヒ卵ノ状態ヲ檢シ石炭酸水ヲ蘸セル綿花タンポンヲ固ク腔内ニ挿入シ以テ出血ヲ止メン下腹ニハ氷罨法ヲ貼シ貧血ニヨリテ血暈ヲ現サントスルモノニハ葡萄酒等ノ興奮劑ヲ與ヘ四肢ヲ温暖ナラシメ醫師ノ來診ヲ待ツ可シ卵既ニ排出セルモノハ之レヲ貯ヒテ醫師ノ検査ニ供セザル可ラズ其他流産後ハ八日間安靜ニ臥セシムルヲ要ス更ニ次項ニハ稍詳カニ之レヲ説述スベシ

妊婦若シ少量
又ハ中等量
出血ヲ發シ

妊婦若シ少量又ハ中等量ノ出血ヲ發セバ 安靜ニ平臥セシメ飲食便通時ニモ起坐セシムルコトナク 下腹ニ冷罨法ヲ施コシ飲食物等ハ必ズ寒冷ナルモノヲ與ヘ小兒又ハ訪問者ハ可及的之レヲ避ケシメ且ツ總テノ感動ヲ遠クルヲ要ス而シテ出血少量ナルカ又ハ忽チ止ム時ハ敢テ醫治ヲ求メサルモ亦可ナリ唯爾後八日間ハ臥床ニ就カシメ善ク之レヲ安靜ナラシム可シ

若シ之レニ反
シ出血強度
ルカ若クハ長
ク持續スルハ

若シ之レニ反シ出血強度ナルカ若クハ長ク持續スルハ 十分ニ消毒法ヲ施コシ精密ニ検査ヲ行ヒ且ツ速カニ醫師ヲ聘ス可シ而シテ内検査ノ際ニハ子宮大ニシテ柔軟ナルカ子宮口弛緩セルカ其口内ニハ指ヲ挿入シ得ルカヲ檢シ若シ指ヲ挿入シ得ルハ卵ノ部分ヲ觸知シ得ルヤ否ヤヲ確メザル可ラズ且ツ此間衣服敷布等ヲ檢シ出血ノ多少血液ノ凝固若クハ流動セルヤ及ビ血液中心ニ卵ヲ發見シ得ザルヤヲ檢ス可シ此ノ如クニシテ出血甚ダシカラザルトキハ醫師ノ來診ヲ待ツ可シ

若シ出血劇
ク妊婦ハ甚
シキ貧血ニ
陥ルノ恐
アルハ

若シ出血劇シク妊婦ハ甚ダシキ貧血ニ陥ルノ恐アルハ 下腹ニ冷罨法ヲ施コシ攝氏十五度乃至二十度ノ二%石炭酸水ヲ以テ腔内ニ灌注シ尙ホ止血セザルモノハ數箇ノ綿花 タンポン ヲ取り石炭酸水ニ浸シテ絞搾シ腔内ニ送入シ緊シク之レヲ子宮口ニ壓抵ス可シ卵未ダ排出セザルノ間ハ出血ノ爲メニ熱灌注法ヲ行フ可ラス——此タンポンハ醫師ノ到レル際除去ス可キモ若シ送入後十二時間ヲ經レバ産婆自ラ之レヲ除去シ石炭酸水ノ灌注ヲ行ヒ尙ホ出血アラバ再ビ之レヲ送入スルヲ要ス之レニ反シ タンポン ヲ除去セルノ際既ニ止血セルモノニ在リテハ再ビ送入スルヲ要セズ

産出セル卵

産出セル卵 タンポン ヲ除去スルノ際卵ハ既ニ子宮内ヲ出デタンポン ノ上ニ存スルヲアリ此ノ如キモノハ之レヲ採リ收メテ水中ニ貯ヘ醫師ノ検査ニ供ス可シ又卵ハ凝血中ニ包圍セラレ直チニ認識シ難キヲアルガ故ニ注意センヲ要ス或ハ卵既ニ變化シ消失ニ歸シ或ハ血塊肉塊等ヲナシ産出スルヲモ亦之レアリ